

歯科医療の現状と課題－社会学的実証研究－ 地域歯科医療に関する歯科医師意見アンケート全国調査結果概要

遠 藤 惣 一
牧 山 正 英
西 山 美 瑳 子

はしがき

- 第1章 調査研究の目的
- 第2章 調査の概要
- 第3章 調査結果の概要
- 第4章 地域別統計表

はしがき

この調査研究における調査結果概要は、1989年度および1990年度文部省科学研究費助成金（一般研究B 課題番号01450035 研究代表者 遠藤惣一 研究分担者 牧 正英、西山美瑳子）により調査を実施し、その調査結果をまとめたものである。

地域歯科医療については、遠藤、牧、西山の3人は、過去10年間にわたり、歯科患者、歯科医師、保険所来所者への調査研究を通じて、兵庫県尼崎市で実態調査を重ねてきた。幾度かの歯科患者実態調査の分析を通して、患者の意向や受診実態を読み取っていくうちに、患者の意向についての歯科医師の知覚が大事な事柄であることが明らかになってきた。事実、歯科医師が患者の意向をくみ取りつつ、歯科治療を行うことは患者の治療への受容態度を形成するのみならず、地域歯科医療へのよりよき展開への主要な立脚点となるものである。その他方で、歯科医師自身も専門的職業従事者として、特定の職業基盤の成立要件や診療活動の厳しさに遭遇している。歯科診療所の過密地域での長時間開院のオーバーワーク問題、そうして

過疎地域での患者数過多状況などがあり、歯科医療を取り巻く状況が年々変化してきている。この事態を直視するとき、広域的に日本の歯科医師の職業的条件、診療活動、経営状態の実態に迫るべく、「地域歯科医療に関する歯科医師意見アンケート調査」の調査を計画、実施したのである。

この調査結果概要は、1989年度調査実施の東京都、愛知県、大阪府、および兵庫県尼崎市の調査結果と、1990年度調査実施の北海道、秋田県、福井県、福岡県、鹿児島県、沖縄県の調査結果とを一まとめにして、地域別集計を主体にした形で整理したものである。今後の私共に課せられた課題としては、項目（変数）間のクロス集計や多変量解析をすすめて、この領域の状況と問題の所在とその解明を行うことであり、これからの更なる分析をすすめてこの責を果たすべく努力を続ける所存である。

この調査結果概要を報告するにあたり、調査先関係歯科医師会、ならびに調査票に御記入下さった御回答者各位に改めて厚く御礼を申し上げる次第である。

第1章 この調査研究の目的

「歯科医療の現状と課題－社会学的実証研究－」

と題した今回の調査研究に際して、日本各地の歯科医師に対して「地域歯科医療に関する歯科医師意見アンケート調査」を実施することにより、歯科医師の地域歯科医療活動や経営状態、職業意識などから、つぎの事柄を求めるべく調査を設計し、実施し、現在分析をすすめてきている。この調査研究の目的を端的に述べれば次の通りである。

(1) この調査結果の分析を通じて、客観性と公益性を持った地域歯科医療、歯科医業の経営に関する資料を提供することにより、地域と患者に密着した地域歯科医療の進展と地元の歯科医院経営とに役立つ学的貢献をすること。

(2) 広域的な調査研究を実施することにより、日本の歯科医師の職業的条件、職業疲労自覚状況、職業生活、歯科医師の職業意識や診療態度、歯科診療や経営の実態についての分析を行うことによって、この領域での社会学的実証研究の成果を上げること。

もともと、歯科医師の職業的条件、職業生活と歯科診療への意識、患者への態度調査、経営動向についての実証的な調査研究は、歯科患者調査と並行して、遠藤、牧、西山の3人による共同研究で過去10年間にわたり兵庫県尼崎市での調査研究をすすめてきたものである。それらを先行経験として、今回の広域調査を行ったのである。

今回の調査で行ったような歯科医師についての職業的条件、職業生活、経営状態についての歯科医師の意識調査は、社会学的職業研究の中では、従来、空白領域であったものであり、この調査結果の分析によって、この空白領域を充填することも第2の目的である。

(3) 要するに、この調査研究により、つぎの事柄を解明して行く所存である。すなわち、地域歯科医療についての歯科医師の診療実態・意見と活動状況、診療所経営の動向を求めることにより、

- ①日本の歯科地域医療に従事する歯科医師の診療活動の実像の析出
- ②歯科医師の職業的条件、職業的態度と患者への態度、患者の要求についての知覚などから、専門職従事者としての職業意識の所在の探求
- ③歯科診療所の診療運営と経営動向分析から歯

科医業の現状と問題点の把握

④地域別にみた歯科医師の属性や診療所の特徴、診療活動の相違

⑤勤労者としての歯科医師の労働条件や疲労感の分析

⑥地域歯科医療と患者の立場からの課題などについての考察

等を広域的な調査結果の研究分析から解明すること。

第2章 調査の概要

1. 調査票表題：「地域歯科医療に関する歯科医師意見アンケート調査」

2. 調査対象者と調査地域、調査実施時期
[調査対象者]

歯科診療所を経営または診療所で診療に従事している歯科医師（調査母集団を都道府県歯科医師会登録者として、その中から無作為等間隔抽出のサンプリング・メソッドを使用、および会員数によっては全数調査を行った）

[年度別調査対象地域と調査実施時期]

第1次調査：1989年度

調査対象地域を三大都市圏を含む東京都、大阪府、愛知県とした。上掲地域選択理由は、1) 三大都市圏を含んでいる、2) 厚生省1987. 10. 1 調査「歯科診療所人口10万対施設数」が東京都全国1位（67.5）、大阪府全国2位（46.5）、愛知県全国9位（38.6）、愛知県は数字からみて全国平均を若干下回るが、全国平均数値（39.5）に最も近い、などの理由による。

なお、兵庫県尼崎市は、ここ10年来、歯科医師、歯科患者についての実態調査研究を行って来たところであり、今回の全国的調査を実施するに当たり、いわばパイロット的調査研究をすすめてきたところである。尼崎市は人口50万、大阪市に隣接し、通勤・通学圏、商業圏、工業活動、大阪市のベッドタウンとしても密接な関係にあるため、第1次調査結果の分析に当たって、全体集計分析の場合には一括してその中に含めることにした。

第2次調査：1990年度

調査対象地域を、北海道、秋田県、福井県、福岡県、鹿児島県、沖縄県の1道5県とした。上掲

地域を調査対象地域とした理由は、広域的に北海道、東北、北陸、九州から選定することにし、地域的特性や都道府県別人口10万対歯科施設、医師数などから、これらの地域を選定した。ちなみに「歯科診療所人口10万対施設数」（1987. 10. 1. 現在）からみて、北海道全国14位（36.5）、秋田県全国45位（27.5）、福井県全国47位（25.7）、福岡県全国4位（44.4）、鹿児島県全国43位（28.5）、沖縄県全国42位（29.0）を調査対象地域とした^{1,2)}。
 [調査の方法：調査対象者の抽出法と調査方法]

1) 標本抽出法を使用し、都府県歯科医師会の会員を対象者として、都府県歯科医師会名簿登録者を母集団として、第1次調査の3都府県は5分の1抽出とした。第2次調査は母集団の人数の相対的な多少により、3分の1抽出、3分の2抽出、診療所推計数（会員名簿の診療所所在地による推計）、および全数として、調査対象者を抽出選定した。

2) 調査票は無記名の自記法によった。

3) 郵送法を使用した。尼崎市のみは調査票を歯科医師会支部経由で配布した。

[調査実施時期]

1989年12月兵庫県尼崎市、調査票回収は1990年1月。

1989年12月第1次調査（東京都）調査票発送、調査票回収は翌月の1ヶ月以内。

1990年3月第1次調査（愛知県、大阪府）調査票発送、調査票回収は翌月の1ヶ月以内。

1991年3月第2次調査（北海道、秋田県、福井県、福岡県、鹿児島県、沖縄県）調査票発送、調査票回収は翌月の1ヶ月以内。

3. 集計と統計分析の方法

回収調査票の回答は、電算機による統計処理のために数字の形にコード化（記号化）した。その集計と統計解析には、関西学院大学情報処理研究センターの大型電算機により統計計算プログラムSPSSを利用して行っている。自由記述項目の回答については、その各記述の主旨により内容分析を行い、大分類から細目分類に至る整理をすすめて、記述内容構成の一覧表ないしはその内容の関連図を作成するべく作業を進行中である。

4. 調査回収状況

調査票の配布数およびその回収状況は次頁上掲一覧表の通りである。調査票配布数は第1次調査と第2次調査で合計6,206票配布し、その有効回収票数は2,689票、有効回収率は43.3%である。母集団となった各地域の歯科医師会名簿は、それぞれに最新の名簿発行時点のものであるが、それに更に最新移動の名簿訂正・挿入が書込まれていたものもあった。いずれにしても入手した時点での最新名簿によった会員数を母集団として計算した。関係母集団を合計した歯科医師総数は、22,210人である。（この2万人余の数字は前掲注1で記した全国施設従事者数（診療所開設+診療所従事者数）の3分の1強に相当する。）

5. 歯科医師意見アンケート調査票の表題、調査主体者および内容構成

(1) 調査票表題：「地域歯科医療に関する歯科医師意見調査アンケート」

(2) 調査票に表記した調査主体者：

関西学院大学社会学部地域医療研究会

1) ①厚生統計協会編『地域医療基礎統計 1989年版』厚生統計協会 1989 11頁。

②厚生統計協会編『厚生指標・臨時増刊 医療供給に関する統計の地域別年次推移』37巻16号 1990年特別編集号 厚生統計協会92～93頁、96～97頁にみる調査地域における歯科医師の医療施設従事（診療所開設）+（診療所従事）者数を昭和50年（1975年）と昭和63年（1988年）とを対比（1988年/1975年）してみると、次のようになる。全国医療施設従事（診療所開設）+（診療所従事）者数は、1975年38,054人で1988年は60,143人、その間の増加率は1.58倍である。北海道1.63倍、秋田県1.44倍、東京都1.45倍、福井県1.33倍、愛知県1.65倍、大阪府1.48倍、福岡県1.45倍、鹿児島県1.77倍、沖縄県2.91倍。

2) 厚生省健康政策局歯科衛生課監修『歯科医師数を考えるー将来の歯科医師需給に関する検討委員会中間意見ー』日本医事新報社、1985 9～10頁、38頁によれば、1985年12月31日現在の人口10万対都道府県別歯科医師数は、全国平均49.2人であり、これを超えるところは10都府県であり、今回の調査先ではこの中の東京都、福岡県、大阪府、愛知県の4都府県が含まれている。ちなみに調査先を含めたそれらの順位を抜粋すれば次の通りである。1位東京都86.5人、2位福岡県63.2人、3位大阪府54.9人、4位神奈川県54.2人、5位新潟県51.6人、6位愛知県51.6人、…24位北海道42.3位、…39位鹿児島県35.3人、…43位福井県31.1人、44位秋田県30.6人、45位青森県29.6人、46位滋賀県29.4人、47位沖縄県23.7人。

地域名	歯科医師総数	抽出率	調査票郵送数	回収票数	回収率
第 1 次調査					
東京都	7,761	1/5	1,547	543	35.1%
愛知県	2,674	1/5	537	325	60.5%
大阪府	4,912	1/5	968	471	48.7%
兵庫県尼崎市	263	医院数	214	166	77.6%
第 1 次計	15,610		3,266	1,505	46.1%
第 2 次調査					
北海道	2,456	1/3	750	303	40.4%
秋田県	411	全数	411	137	33.3%
福井県	273	医院数推計	255	108	42.4%
福岡県	2,474	1/3	752	347	46.1%
鹿児島県	643	2/3	440	161	36.6%
沖縄県	343	医院数推計	330	128	38.6%
第 2 次計	6,600		2,940	1,184	40.3%
第 1 次第 2 次合計	22,210		6,206	2,689	43.3%

(※なお、第 2 次調査郵送分で 1991 年 8 月以降に返送された調査票 (福岡県 2 票) は、今後の集計に加算することにした。したがって、加算した場合は、福岡県は 349 票となる。)

社会学部教授 遠藤 惣一
社会学部教授 牧 正英
社会学部教授 西山美瑛子

(3) 調査票内容構成 (調査票本文全文は後出している)

1. 社会的属性 (年齢層、性別、開業・勤務、開業時期など)
 2. 職業的条件 (資金調達、立地条件、診療時間など)
 3. 職業活動に対する意識 (職業評価、疲労感など)
 4. 患者に対する意識 (患者の要望についての知覚、および高齢者患者、子供患者に対して、など)
 5. 職業に対する総合評価 (歯科医業に対する態度・仕事観)³⁾
 6. 所属集団に対する態度 (所属集団への要望など)
 7. 経営状態・診療所運営動向と今後の経営の見通し⁴⁾
 8. 地域医療への取り組み
- など社会的属性 (F) 項目 8 問および質問 (Q) 大

項目 26 問で中綴じの見開き、B5 版 11 頁。

なお、活字の大きさはできるだけ大きくして 4 号とした。

(4) 第 1 次調査と第 2 次調査とで使用した調査票および尼崎市で使用した調査票の異同について、および「自覚疲労度」テストの使用について

第 1 次調査と第 2 次調査とで使用した調査票は、「自覚疲労度」の箇所を除いて全く同文である。第 1 次調査の調査票では、「自覚疲労度」は診療前 30 項目、診療中 30 項目、診療後 30 項目と計 90 項目に及ぶため、第 2 次調査では「自覚疲労度」は診療後 30 項目のみを使用した。本稿で後出の調査票全文は第 2 次調査でを使用したものを掲載した。

尼崎市で使用した調査票はフェイス・シート項目 3 つを欠く。すなわち、F6 診療所所在地、F7 診療所の建物の特徴、F8 近接診療所との距離の 3 つを欠いており、質問項目では若干追加している項目がある。その追加項目は「市外からの通院患者の割合」「所属支部地域からの通院患者の割合」と、診療制度・運用における「外注技工から院内技工への切り替えについて」「院内技工から外注

3) 歯科医業についての仕事観の質問回答肢 (カテゴリー) 作成には、その内容において次の図書から示唆を受けた。Peter Glazebrook, Happiness and Fulfilment in Dentistry, 1985, Quintessence Pub. Co. England. 川村泰雄訳『充実した歯科医療にたずさわろう』クインテッセンス出版、1989。

4) 歯科医業の経費割合回答肢 (カテゴリー) 作成に際しては、つぎの図書の第 4 章「歯科医業の経費」から示唆を受けた。東京医科歯科大学歯科同窓会編『現代米国における歯科事情とその問題点』臨床歯科医学研究会 (発行者) シェン社 (販売元)、1976。

技工について」「アパート経営等他事業への展開について」である。

なお、この調査で使用した「自覚疲労度」の全項目は、財団法人労働科学研究所の開発によるものであり、今回の調査にあたり、「自覚疲労度テスト」

の使用について労働科学研究所の御了承を得たことに感謝の意を表したい⁵⁾。(以上西山)

6. 「地域歯科医療に関する歯科医師意見調査アンケート」調査票（第2次調査使用分）

調査票表紙

地域歯科医療に関する
歯科医師意見アンケート調査

関西学院大学社会学部
地域医療研究会

社会学部教授 遠藤 惣一

社会学部教授 牧 正英

社会学部教授 西山美瑛子

5) 参考文献：①吉竹博『改訂 産業疲労－自覚症状からのアプローチ』[産業労働科学叢書33] 1981(改訂2版)労働科学研究所。②吉竹博『日本人の生活と疲労』[労働科学叢書67] 1983 労働科学研究所。

調査票その1

回答の仕方：該当するものに○印をつけて下さい。

F 1. 先生の年齢は：

- 1. 20歳台 2. 30歳台 3. 40歳台
- 4. 50歳台 5. 60歳台 6. 70歳以上

F 2. 先生は現在

- 1. 開業医 2. 勤務医



開業医の場合開設時の開業資金は、

- A. 主として自己資金
- B. 主として借入金
- C. 自己資金と借入金が半半
- D. 親、親戚から譲り受け
- E. その他（具体的に書いて下さい）

F 3. それでは先生の診療所が設立されたのは何時頃からですか（親の代から続いている場合には、親の代から数えて下さい）。

- 1. 戦前から（昭和20年8月以前）
- 2. 終戦直後から昭和23年まで
- 3. 昭和24年から昭和33年まで
- 4. 昭和34年から昭和49年まで
- 5. 昭和50年から昭和60年まで
- 6. 昭和61年以降現在まで

F 4. 先生はそこで診療に何年従事されていますか。

- 1. 3年未満 2. 3年～9年 3. 10年～19年
- 4. 20年～29年 5. 30年以上

F 5. 先生のお父さんの職業は：

- 1. 歯科医師 2. 歯科医師以外の医師
- 3. それ以外の職業

F 6. 先生の診療所の所在地は：

- 1. 住宅の地域
- 2. それ以外

F 7. 先生の診療所の建物の特徴は：

- 1. 住宅と併設の診療所
- 2. 独立家屋の診療所
- 3. ビル又はマンションの中の事務所形態
- 4. その他（具体的に）

F 8. 先生の診療所と一番近い歯科診療所との距離は：

- 1. 100米以内
- 2. 100米～500米
- 3. 500米以上

まず最初に先生ご自身のことからおたずねします。

Q 1. 先生が歯科医師になられた動機は次のどれに当てはまりますか。
あてはまるものに○印をつけて下さい。

- 1. 社会的に高い評価を受ける仕事だから
- 2. 社会に奉仕できるから
- 3. 専門知識が生かせる仕事だから
- 4. 親が歯科医師だったから
- 5. 経済的に高い収入が期待できるから
- 6. 取り立てて理由なく
- 7. その他（出来れば具体的に書き下さい）

Q 2. 先生の診療所はどのようになっていますか。

- 1. 歯科医師は自分1人
- 2. 歯科医師は自分を含めて2人以上

調査票その2

Q 4. 先生が考える一日の適正な診療時間は何時間ぐらいが適当とお考えですか。

() 時間ぐらい

Q 5. では先生は現在、一日平均、何時間診療されていますか。

() 時間ぐらい

Q 6. 現在、先生は一日平均休憩時間を何時間ぐらいとられていますか。

() 時間ぐらい

Q 7. 先生の現在の「職業」に対して全般的にどのようなお考えですか。あてはまるところの数字を○でかこんで下さい。

大いに満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	大いに不満
1	2	3	4	5

Q 8. 先生は現在の「職業」を日頃どのように考えておられますか。あてはまるものに○をつけて下さい(複数回答可)。

- 1. 社会的に高い評価を受ける仕事である。
- 2. 社会に奉仕できる仕事である。
- 3. 自分の専門知識・技術・思考力が生かせる仕事である。
- 4. 親から受け継いだ仕事である。
- 5. 経済的に高い収入が期待できる仕事である。
- 6. 人々の口腔を健康にする創造的な仕事である。
- 7. 年をとっても自主的に仕事ができる面白い仕事である。
- 8. その他(できれば具体的にお書き下さい)；

Q 9. 先生の収入についておうかがいします。先生は現在の収入に対して満足しておられますか。

大いに満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	大いに不満
1	2	3	4	5

次に先生方の診療についておうかがいします。
Q 3. 先生の疲労の程度は、平均して、1日の時間帯、1週間の曜日によって、どのような状態ですか。

	大いに疲れる	かなり疲れる	普通	あまり疲れる	ほとんど疲れを感じない
1. 診療開始前	1	2	3	4	5
2. 診療中	1	2	3	4	5
3. 診療後	1	2	3	4	5

(自覚疲労度)

S Q 1. 診療後に、つぎのようなことが(少しでもあったら○印)のいずれかを□の中につけて下さい。

時間帯	診療後	疲労状態	時間帯	診療後	疲労状態	時間帯	診療後	疲労状態
1		頭がおもい	11		考えがまとまらない	21		頭がいたい
2		全身がだるい	12		話をするのがいやになる	22		肩がこる
3		足がだるい	13		いらいらする	23		腰がいたい
4		あくびがでる	14		気がちる	24		いき苦しい
5		頭がぼんやりする	15		物事に熱心になれない	25		口がかわく
6		ねむい	16		ちよつとしたことが悪い出せない	26		声がかすれる
7		目がつかれる	17		することに間違いない	27		めまいがする
8		動作がぎこちなくなる	18		物事が気にかかる	28		まぶたや腕がピクピクする
9		足もとがたよりない	19		きちんといられない	29		手足がふるえる
10		横になりたい	20		根気がなくなる	30		気分がわるい

S Q 2. 1週間のうち、1番、疲れる曜日は何曜日ですか。

曜日

S Q 3. 先生の診療所の休診日は何曜日ですか。

曜日

S Q 4. 先生のところでは、先生1人当り、1日平均何人位みておられますか。

人ぐらい

調査票その3

Q10. 先生はご自身の歯科医師としての世間の評判をどのように感じ
ておられますか。

大いに 評判がよい	かなり 評判がよい	普通	あまり 評判が よくない	評判が よくない
1	2	3	4	5

次に患者に接する態度についておうかがいします。
Q11. 先生の患者は次の項目のなかでどれを求めていると思われる
か。最も重要と思われるものを選んで下さい（○印2つまで）。

- 1. ていねいに説明する。
- 2. なるべく痛くないように治療する。
- 3. 最新の技術を応用する。
- 4. 治療費をできるだけ安くする。
- 5. 患者との人間関係を重視する。
- 6. その他（出来れば具体的に書き下さい）

Q12. 先生の患者に対する診療のしかたは次のどれにあたりますか。
（1つだけ○印をして下さい）。

- 1. 一切を患者からまかせられることを望む。
- 2. 気軽に患者の気持ちをはぐしながら診療する。
- 3. 治療本位の技術第一主義で行くほうだ。
- 4. その他（出来れば具体的に書き下さい）

Q13. 先生の所では子供の患者を歓迎していますか。

歓迎する ほうだ	大人と子供は あまり差をつけない	どちらかといえば 歓迎したくない
1	2	3

SQ2. 先生の診療所では、子供の患者はほぼ何割ぐらいですか。

ほぼ	割ぐらい
----	------

Q14. 先生の所では、高齢者（65歳以上）の患者を歓迎していますか。

歓迎する ほうだ	高齢者その他の年齢者 にあまり差をつけない	どちらかといえば 歓迎したくない
1	2	3

SQ1. 一般的にいて、高齢者の患者についての御意見があればお聞
かせ下さい（簡単に箇条書で結構です）。

SQ2. 先生の診療室では、高齢者の患者はほぼ何割ぐらいですか。

ほぼ	割ぐらい
----	------

次に先生の診療所や患者の構成についてお答えをお願いします。

Q15. 現在の医院構成はどうか。

- 1. 歯科医師 () 人
- 2. 技 工 士 () 人
- 3. 衛 生 士 () 人
- 4. 助 手 () 人
- 5. そ の 他 () 人→その名称は _____

Q16. 先生の診療所の患者さんのうち、「かかりつけ」(とお考え)の患者さんはほぼ何割ぐらいでしょうか。

ほぼ _____ 割ぐらい

Q17. 先生の診療所の患者さんのうち、保険のみの患者さんはほぼ何割ぐらいでしょうか。

ほぼ _____ 割ぐらい

Q18. 先生の診療所の診療件数の多い順に右のうちから該当するものを、それぞれ番号で入れて下さい。

- ① 1 番多いもの _____ 1. 保存
- ② 2 番目に多いもの _____ 2. 補綴
- ③ 3 番目に多いもの _____ 3. 外科
- ④ 4 番目に多いもの _____ 4. その他 (具体的に)

Q19. 先生は新しい専門知識の受け入れを主として、どのようにやっておりますか。

- 1. 歯科医師仲間から。
- 2. 歯科医師会の指導。
- 3. 学術研修会。
- 4. 専門学術図書。
- 5. その他 (出来れば具体的に書き下さい。)

Q20. 先生の診療所の1日当りの患者さんの数は、先生からみて適正なところだと思えますか、あるいは多すぎるでしょうか、それとも、もっと多くてもよいとお考えでしょうか。

- 1. 多すぎる。
- 2. 適正である。
- 3. もっと多くてもよい。

Q21. 先生の診療所の経営状態は、5年前とくらべてどうでしょうか。

- 1. 5年前とくらべてよかった。
- 2. 5年前とくらべてかわらない。
- 3. 5年前にくらべて、わるくなった。
- 4. 最近開業で比較できない。

SQ1. 悪くなった理由はどのような理由でしょうか。主な理由を2つ

○印して下さい。

- 1. 患者数が減少したため
- 2. 1人当たりの治療費が減少してきたため
- 3. 借入金 (設備更新、新機器購入など) の増大によるローン返済のため
- 4. 歯科医業経費の割合が大きくなったため
- 5. その他 (具体的に: _____)

SQ2. それでは、その社会的な背景からいって何が原因だとお考えですか。

- 1. 最近住民数が減少したため。
- 2. ある程度の広さの駐車場が必要になったため。
- 3. 物価高のため、人件費高騰のため。
- 4. 一部の経済不況のため。
- 5. 税負担増のため。
- 6. 保険制度改訂のため。
- 7. 近接地に診療所ができたため。
- 8. 設備更新の必要を感じて。
- 9. 歯の治療よりも、生活やレジャー優先の風潮があるため。
- 10. その他 (具体的に: _____)

Q22. 先生のところの歯科医業の経費割合はどれが一番大きいでしょうか。大きいものから① ② ③と順位をつけてください。

- 1) 賃貸料 (診療所家賃、機械リース料など)
- 2) 給与 (手数料を含む)
- 3) 外注技工料
- 4) 借入金の金利

調査票その5

Q24. 開業歯科の今後の見通しについて、先生はどのように考えておられますか。該当するところに○印をつけて下さい。

1. 見通しは明るい 2. どちらともいえない
3. 見通しは暗い

SQ1. その理由は：

Q25. 患者について日頃お感じになっていること、または助言があればお聞かせ下さい。

- 5) 歯科材料、薬剤等
- 6) 歯科業務関連の機材・機器
- 7) 研究費用・学会出席旅費、各種会費、雑誌購読・図書購入費など
- 8) その他（具体的に：

Q23. 現在の診療制度、運用について該当するものに○印をつけて下さい。

- 1) 診療時間の延長について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来考えている（ 曜日 時～ 時）
- 2) 休診日の変更について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来考えている（ 曜日に ）
- 3) 予約診療の有無について
 - 1. 実施している 2. 現在実施していない
 - 3. 将来実施を考えている
- 4) リコール制の実施について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来、検討を考えている 4. 実施する考えはない
- 5) スタッフの増員について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来考えている（その場合のスタッフの仕事内容：
- 6) スタッフの減員について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来考えている（その場合のスタッフの仕事内容：
- 7) 一人法人化の設立について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来考えている
- 8) 自費増加に向けての診療方針の変更について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来考えている
- 9) 保険診療増加に向けての診療方針の変更について
 - 1. 実施している 2. 今のところ考えていない
 - 3. 将来考えている

調査票その 6

Q26. 御地の歯科医師会への要望について、先生の御意見をお聞かせ下さい。

御協力、まことに有難うございました。
なお、その他の御意見があれば御記入下さい。

第 3 章 調査結果の概要

- 1. 全体の集計結果からみた調査項目別の概要
- 1) 歯科医師の属性と診療所の特性

この節では歯科医師の属性と診療所の特性についてより詳細に概況づけることをその目的としている。属性は年齢層、性別、開業・勤務、開業時期などいわゆる歯科医師のもつ職業的基礎を指し、診療所の特性は資金調達、立地条件、診療時間など歯科医師のもつ職業的条件としての経営内容や診療活動を指すものである。すでに上の調査研究の目的でふれたように、今回の調査はこれまでの研究をさらに進めるための資料であり、本節の項目は歯科医師のもつ属性と職業の基礎的条件である。

- 1) 歯科医師の属性
- ① 歯科医師の年齢層

年齢層は、図 3-1-1、2 に示すように、第 1 次調査（東京都、愛知県、大阪府と尼崎市を調査対象とした合計 1,505 人、以下 1 次調査とする）から

その構成をみると、40 歳台の比率が最も高く 31.3%、ついで 30 歳台の 26.9%、50 歳台の 18.5%、60 歳台の 15.3%、70 歳台の 6.7% の順で、20 歳台の比率は最も低く 0.9% である。これに対して、第 2 次調査（北海道、秋田県、福井県、福岡県、鹿児島県、沖縄県を調査対象とした合計 1,184 人、以下 2 次調査とする）は 30 歳台の比率が最も高く 36.4%、ついで 40 歳台の 29.9%、50 歳台の 15%、60 歳台の 11.7%、70 歳台の 5.2% の順で、20 歳台の比率は最も低く 1.6% である。

図 3-1-1 歯科医師の年齢層 (F 1)
(全体合計 1505 人)

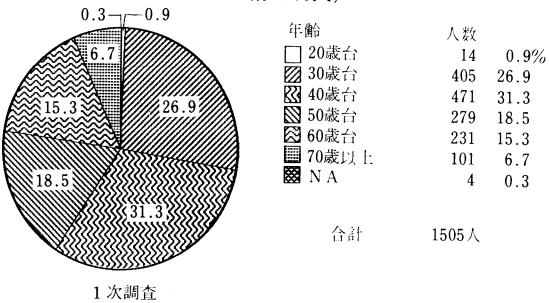
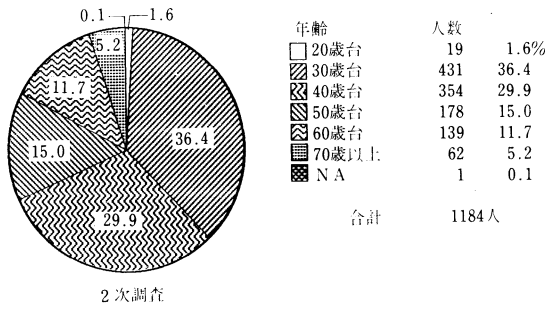


図3-1-2 歯科医師の年齢層 (F1)
(全体合計1184人)



このように、両調査の特徴は30歳台と40歳台を基幹とした構成であるが、そのなかで2次調査の30歳台と40歳台の比率を合計すると66.3%にあたる785人、これは2次調査全体の三分の二を占め、しかも全調査中最も高い比率である。ここに、他の資料であるが昭和63年末の全国届出歯科医師の年齢階級別構成（厚生統計協会編・発行『国民衛生の動向』1991 第38巻第9号）をみると、30歳台前・後半層の比率は高い結果が示されている。

次に、60歳台、70歳台のいわゆる高年齢医師の比率は、1次調査に高い結果がみられ、その両年齢層の比率の合計は22%、全体の2割を占めている。また、20歳台の比率は、歯科医師という職業を反映してか両調査の比率は極めて小さい。

②開業医と勤務医

開業医、勤務医別構成は、これを地域別統計表（以下統計表）からみると「開業医」が9割以上で

ある。なお、今回の調査は、勤務医については詳細に設問していない。

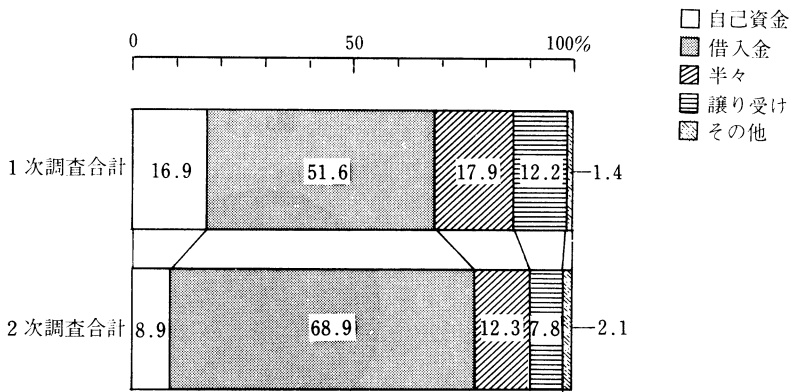
③開業医の開設資金出所

開業医の開設資金出所は、まず調査別にみれば、「主として自己資金」は全体として1次調査にその比率（16.9%）が高く、これに対して、「主として借入金」は2次調査の比率（68.9%）が高い。また、「自己資金と借入金半々」と「親、親戚から譲り受け」では、1次調査の比率（17.9%と12.2%）が2次調査の比率（12.3%と7.8%）に比べ高い。（図3-1-3）次に、これを年齢別にみたものが表3-1-4、5である。これによると、「自己資金」は全調査を通して、50歳台から70歳台までの比率が高く、その比率は年齢が上がるにつれて上昇している。次に、「借入金」はその比率が若い20歳台から働きざかりの50歳台までに高く、なかでも2次調査の20歳台は80%、30歳台は87.5%と非常に高く、この両年齢層の比率は全調査の中で最も高い数値となっている。このことから、2次調査の若い年齢層での開業には、厳しい条件のあることが推察される。「自己資金と借入金が半々」は、全調査を通して50歳台以上の年齢層にその比率が高くなっており、「親、親戚から譲り受け」は、1次調査の20歳台、全調査の40歳台から70歳台までの年齢層にその比率が高くなっている。

④診療所での診療従事年数

歯科医師の診療所での従事年数を図3-1-6、7から調査別にみると、1次調査は、全体として「10

図3-1-3 開業医の開設資金出所 (F2SQ)



注) 1次調査計 1,429人、2次調査計 1,108人 全体合計 2,537人
勤務医、NAを除く。

表 3-1-4 年齢別にみた開業医の開設資金出所（1次調査計）

	主として 自己資金	主として 借入金	自己資金と 借入金半々	親、親戚から譲り受け	その他	n 計	%
20歳台	0.0	60.0	10.0	20.0	10.0	10	100.0
30歳台	3.1	74.2	14.1	7.0	1.6	383	100.0
40歳台	8.1	61.4	15.5	13.9	1.1	453	100.0
50歳台	18.5	39.1	22.5	17.7	2.2	271	100.0
60歳台	37.9	21.5	26.9	13.7	0.0	219	100.0
70歳台	64.1	17.4	12.0	4.3	2.2	92	100.0
計	n 241 % 16.9	737 51.6	256 17.9	174 12.2	20 1.4	1428	100.0

$\chi^2=413.96021$ sig. =0.0

注) 1次調査計は、東京都、愛知県、大阪府と尼崎市の合計1,505人。
なお、表 3-1-4 は勤務医と NA を除いている。

表 3-1-5 年齢別にみた開業医の開設資金出所（2次調査計）

	主として 自己資金	主として 借入金	自己資金と 借入金半々	親、親戚から譲り受け	その他	n 計	%
20歳台	6.6	80.0	6.6	0.0	6.6	15	100.0
30歳台	1.5	87.5	7.0	2.0	2.0	391	100.0
40歳台	2.7	75.9	10.5	9.4	1.5	332	100.0
50歳台	11.4	58.9	16.0	11.4	2.3	175	100.0
60歳台	30.9	30.9	22.8	12.5	2.9	136	100.0
70歳台	35.6	22.0	22.0	16.9	3.4	59	100.0
計	n 99 % 8.9	764 68.9	135 12.3	86 7.8	24 2.1	1108	100.0

$\chi^2=521.57275$ sig. =0.0

注) 2次調査計は、北海道、秋田県、福井県、福岡県、鹿児島県、沖縄県の合計1,184人。
なお、表 3-1-5 は勤務医と NA を除いている。

年から19年」の比率が28.1%と最も高く、これに
対して、2次調査は「3年から9年」の比率が
29.6%と最も高い。このことから1次調査に従事
年数の長期、2次調査にその年数の短い人がそれ
ぞれに多いということが知れるが、ここで比較的
年数を重ねた「10年から30年まで」を合計してみ

ると、1次調査47.2%、2次調査43.1%で全体の5
割弱から4割を両調査で占めていることがわか
る。また、「30年以上」といういわゆる永年の比率
は、1次調査、19.9%、2次調査、14.9%で1次調
査の方に高い結果（5人に1人の割合）がみられ
る。これに対して、従事年数の短い「3年未満」は

1次調査、93人の6.2%、2次調査145人の12.2%で、2次調査の方にその年数の短い人が多い。

図3-1-6 診療所での診療従事年数 (F 4)
 (全体合計1505人)

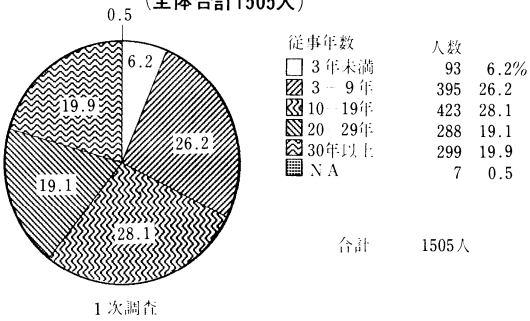
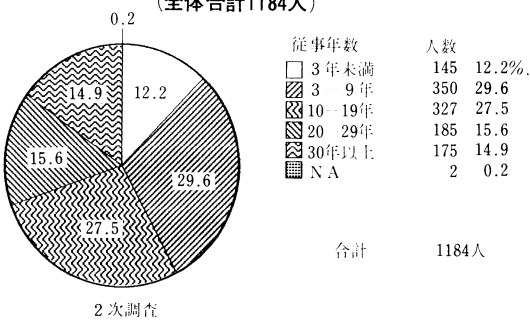


図3-1-7 診療所での診療従事年数 (F 4)
 (全体合計1184人)



⑤父親の職業

父親の職業が「歯科医師である」とする比率は1次調査で全体の37.1%にあたる558人、約4割弱、これに対して、2次調査は全体の32.3%にあたる384人、約三分の一の割合である。このことから、父の職業が「歯科医師」であるとする割合（職業の世襲）は高いといえよう。なお、父の職業が歯科医師および歯科医師以外の医師とする割合は、1次調査45.9%、2次調査43.1%である。（表3-1-8）

2) 診療所の特性

①診療所の設立時期

診療所の設立時期は、全体としてみれば、図3-1-9に示すように、1次・2次調査ともに「昭

和50年から昭和60年まで」の比率が最も高く、この比率は同率の33.8%、三分の一強を占めている。次に比率が高い「昭和34年から昭和49年まで」の時期は、1次調査の比率が2次調査に比べ高くなっている。次の「昭和61年から現在まで」の時期では、1次調査9.2%、2次調査20%で、2次調査の比率は1次調査の約2倍、これに対して、「昭和24年から昭和33年まで」の比較的设置の古い時期では、1次調査の比率14.4%、2次調査の比率7.9%で、1次調査の比率は2次調査の約2倍となっている。このように設置の古い時期（戦前からを除き）は1次調査の比率が高く、これに対して設置の近年の時期は2次調査の比率が高いという特徴がみられ、さらにこの特徴は2次調査に顕著であることがうかがえる。この近年の歯科診療所設立増加について、「図説 日本の医療」（平成元年）によると、昭和40年代後半以降の歯科医師数の増加をあげている。さらにこれらの時期は経済成長期の段階でもある。

②診療所開設時期と開業資金の状況

ここで上にみた診療所設立時期と開業資金出所（資金調達の）との状況をみたものが次の図3-1-10、11である。これによると近年に開設した診療所ほどその資金出所は「借入金」に依存する状況がうかがえ、これを調査別にみれば、1次調査では、全体として経済成長期の「昭和34年から昭和49年」頃より、2次調査では、戦後経済復興期の「昭和24年から昭和33年」頃よりその比率が高まり、その最大は1次調査の「昭和50年から昭和60年」の76.5%、2次調査では「昭和61年から現在」の89.5%である。いずれも近年の設立時期になるほど借入金の比率が高くなっていることがうかがえ、なかでもこの状況は2次調査地域の比率に顕著である。

③診療所の所在地

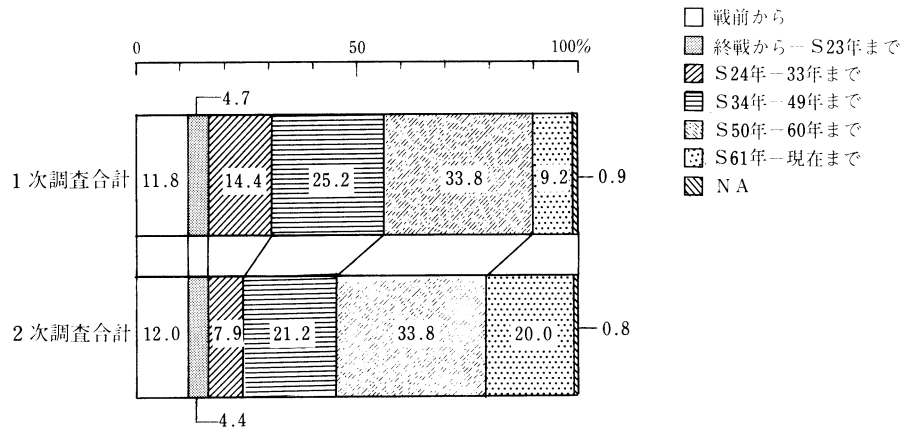
診療所の所在地は、表3-1-12に示すように、全体としてみれば、1次調査、2次調査とも「住宅

表3-1-8 父親の職業 (F 5)
 人 (%)

	歯科医師	歯科医師以外の医師	それ以外の職業	NA	計
1次調査合計	558 (37.1)	132 (8.8)	807 (53.6)	8(0.5)	1505 (100.0)
2次調査合計	384 (32.3)	128 (10.8)	670 (56.7)	2(0.2)	1184 (100.0)

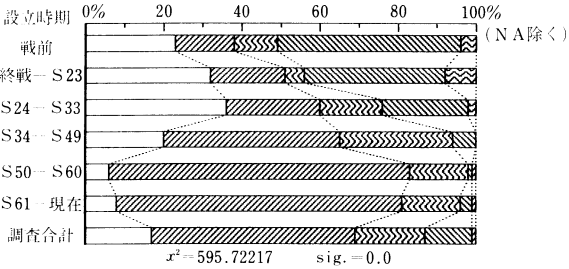
注) 表題後の括弧内数字は設問番号で以下も同じである。

図3-1-9 診療所が設立された時期（親の代から数えて）(F 3)



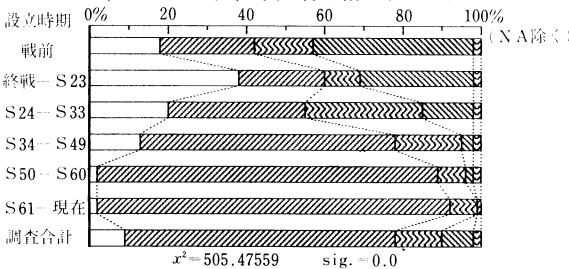
注) (1) 1次・2次調査の全体合計は 2,689人
(2) 設立年数のSは昭和年号の略で以下の図表にあるSも同じである。

図3-1-10 診療所設立時期からみた開業資金の状況 (F3×F2SQ) (1次全体合計 1,426人)



注) 開業医のみ
開業資金 □ 自己資金 借入金 半々 譲り受けその他

図3-1-11 診療所設立時期からみた開業資金の状況 (F3×F2SQ) (2次全体合計 1,103人)



注) 開業医のみ
開業資金 □ 自己資金 借入金 半々 譲り受けその他

表3-1-12 診療所の所在地 (F 6) 人 (%)

	住宅の地域	住宅地域以外	N A	計
1次調査合計	789(58.9)	544 (40.6)	6(0.5)	1339(100.0)
2次調査合計	805(68.0)	374 (31.6)	5(0.4)	1184(100.0)

注) 第1次調査合計には尼崎市調査の当該設問は除外したため、この表には加算されていない。

地域」の比率が高く、それぞれに半数（58.9%、68%）を超えている。また、「住宅地域以外」の比率は、1次調査40.6%、2次調査31.6%で、1次調査にその比率が高いのは、おそらくその地域は、たとえば東京や大阪のようにビジネス街等での開業が多いからであろう。

④診療所の建物の特徴

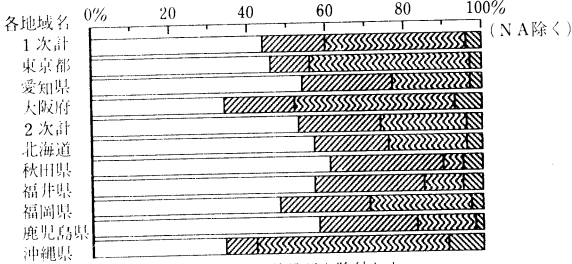
建物の特徴については、図3-1-13に示すように、1次調査、2次調査ともに全体としては、「住宅と併設」の診療所形態の比率が最も高く、1次調査は44.1%の4割、2次調査は52.7%で半数を

超えている。これに対して、ビル等の形態の比率も高く、1次調査は全体の36.3%、2次調査は21.6%である。このことは上に述べた地域的な特徴を反映しているのではないだろうか。後の地域別特徴を参照してほしい。

⑤診療所と一番近い診療所の距離

一番近い診療所の距離「100米以内」についてその比率をみると、1次調査は全体として47.3%と最も高く、かなりの近接状態にあり、これに対して、2次調査では、「100米から500米」の比率が最も高く51%、1次調査に比べ近接状態が少ない状

図3-1-13 診療所の建物の特徴 (F 7)
(1次・2次合計 2,511人)



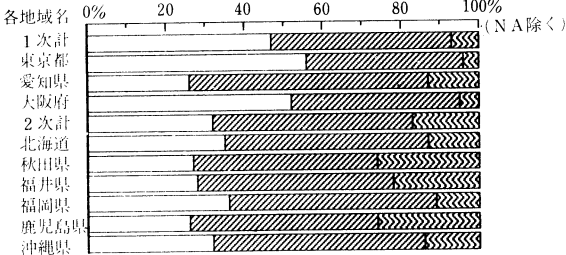
(注) 尼崎市調査では当該設問を除外した。
1次・2次計とは1次・2次調査合計のこと。

1次調査 χ^2 84.30460 sig.=0.0000
2次調査 χ^2 121.23680 sig.=0.0000

建物特徴 □ 住宅と併設 ▨ 独立 ▩ ビル他 ■ その他

態にある。このように、1次調査に近接状態がみられるのは、この調査地域が広域大都市圏を含むからであろう。これに対して、近接状態の少ない2次調査は、この地域が地方都市圏を含むからであろう。(図3-1-14)

図3-1-14 一番近い診療所との距離 (F 8)
(1次・2次合計 2,506人)



(注) 尼崎市調査では当該設問を除外した。
1次・2次計とは1次・2次調査合計のこと。

1次調査 χ^2 88.89134 sig.=0.0000
2次調査 χ^2 40.28120 sig.=0.0004

距離 □ 100米 ▨ 100-500米 ▩ 500米以上

⑥診療所の歯科医師構成

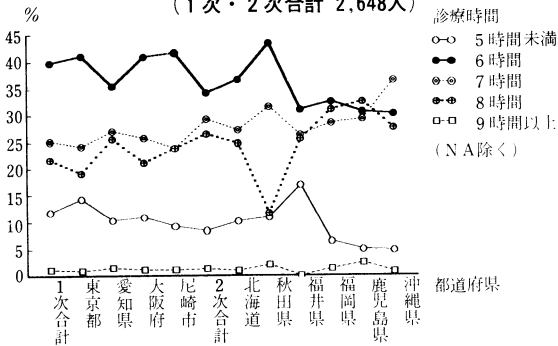
診療所の歯科医師構成を調査別にみれば、1次調査は「歯科医師1人」とする比率が全体として、66%、三分の二を占め、「自分を含めて2人以上」は33.5%、三分の一である。2次調査は「歯科医師1人」70.5%、「自分を含めて2人以上」29.4%である。このように全調査に歯科医師1人の比率が

高くなっている。(表3-1-15)

⑦一日の適正な診療時間

この設問は歯科医師が考える一日の適正な診療時間は何時間ぐらいが適当(理想)だと考えるかを問うたものである。結果は図3-1-16に示すよ

図3-1-16 一日の適正な診療時間 (Q 4)
(1次・2次合計 2,648人)



うに、両調査とも最頻値は「6時間」で、1次調査は全体の39.9%、2次調査は同33.9%である。次頻値は「7時間」でその割合は1次調査25.3%、2次調査29.1%である。次に、この適正な診療時間を年齢別にみたものが図3-1-17である。これによると、各年齢層とも6時間を適正時間としている比率が高いが、この年齢層の中で最も高い比率をみると、50歳台と答えた271人のうち、6時間としている比率は45.8%で、この比率が年齢層の中で最も高い。2次調査はここでは図表を示していないが、適正時間は30歳台(7時間の比率が最も高い)を除き6時間とする比率が各年齢層に高く、この年齢層の中で最も比率の高いのは、1次調査と同年齢の50歳台で、その比率は37.1%である。

⑧一日の平均診療時間

ここでは歯科医師の一日の平均診療時間(現実の実働時間)を問うたものである。結果は図3-1-18に示すように、1日の平均診療時間の最頻値は全体としては、両調査ともに「8時間」でその比率は、1次調査は38.6%、2次調査は48.4%で、調査別では2次調査の比率が高い。次に、次頻値は

表3-1-15 診療所の歯科医師構成 (Q 2) 人 (%)

	歯科医師は自分一人	自分を含めて2人以上	N A	計
1次調査合計	993 (66.0)	504 (33.5)	8(0.5)	1505(100.0)
2次調査合計	834 (70.5)	348 (29.4)	2(0.1)	1184(100.0)

図3-1-17 年齢別にみた一日の適正な診療時間(F1×Q4)
(1次全体合計 1,471人)

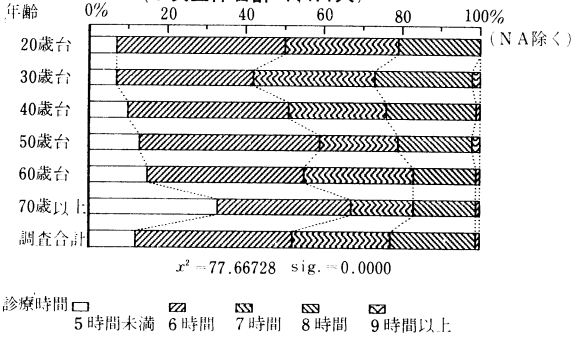
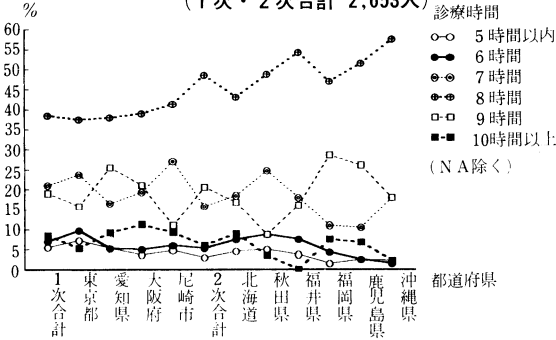


図3-1-18 一日平均の診療時間(Q5)
(1次・2次合計 2,653人)



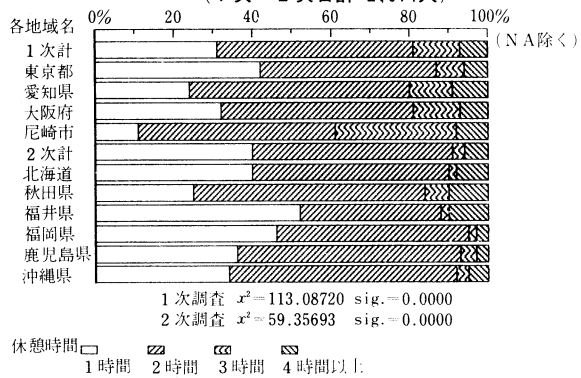
「7時間」で、1次調査は全体の21.2%、2次調査は全体の15.8%でここでは1次調査の方にその比率が高い。次に、この診療時間を年齢別にみると、ここでは紙幅の都合上図表を示していないが、1次調査に限ってみると、20歳台から60歳台までの各年齢層に幅広く診療時間「8時間」に高い比率がみられ、そのなかでも20歳台は14人の回答者のうち、半数の50%が「8時間」と答えている。ちなみに他の年齢層の比率をみると、30歳台と40歳台は4割台、50歳台と60歳台は3割台である。このように一日の診療時間8時間がとりわけ20歳台に多いことは先に示した借入金との関係から推察すれば、長時間診療は仕方がないところであろうか。

⑨一日の平均休憩時間

一日の平均休憩時間は、調査別にみれば、図3-1-19に示すように、「2時間」の比率が全体として最も高く、1次調査49.3%、2次調査51.0%である。ついで、比率が高いのは「1時間」の比率で1次調査31.2%、2次調査39.9%である。

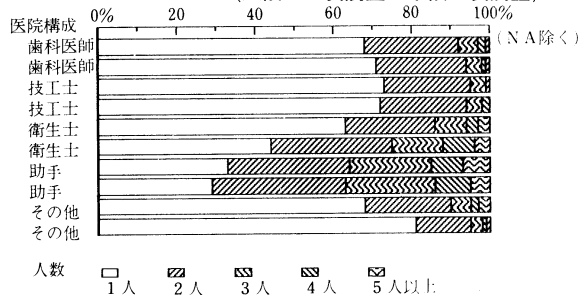
⑩現在の医院構成

図3-1-19 一日の平均休憩時間(Q6)
(1次・2次合計 2,614人)



この設問は歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、助手、その他について、現在の診療所の医院構成の人数を問うたものである。図3-1-20は、全体としてみた1次調査と2次調査の比率を上段1次調査、下段2次調査として図示(NAを除外して計算)したものである。これによれば、歯科医師は、「1人」の比率が最も高く、調査別では、1次調査68%、2次調査71%で、2次調査の比率の方が高くなっている。歯科技工士は、「1人」の比率が最も高く、調査別では、1次調査73.4%、2次調査72.3%で、1次調査の比率の方がやや高い。次に歯科衛生士は、「1人」の比率が最も高く、調査別では、1次調査62.6%、2次調査44%で、1次調査の比率が高いが、ここで「2人」の比率をみると1次調査23.4%、2次調査30.6%で、2次調査の比率が高く、1次調査は4医院に1医院の割合、これに対して、2次調査は3医院に1医院の割合となり、この点は一概にはいえないが、2次調査の方に雇用人数の増加があるのではないだろうか。ち

図3-1-20 現在の医院構成(Q15 1~5)
(上段は1次調査・下段2次調査)



なみに前掲書「図説 日本の医療」をみると、昭和61年現在、医療に従事している歯科衛生士、歯

科技工士は、両者とも、概ね、歯科医師2人に対して1人の割合となっている。次に、助手は1次調査「1人」32.7%、「2人」31.3%で、調査別では1次調査の比率が高いが、「2人」の比率では2次調査の方が高くなっている。なお、この歯科医院構成については昭和54年 遠藤、西山との共同研究「歯科医師の行動様式—実証研究のためのパイロット・スタディー」（関西学院大学社会学部紀要39号）にくわしい。（牧）

2) 職業生活と診療活動—患者への態度、患者の特性など

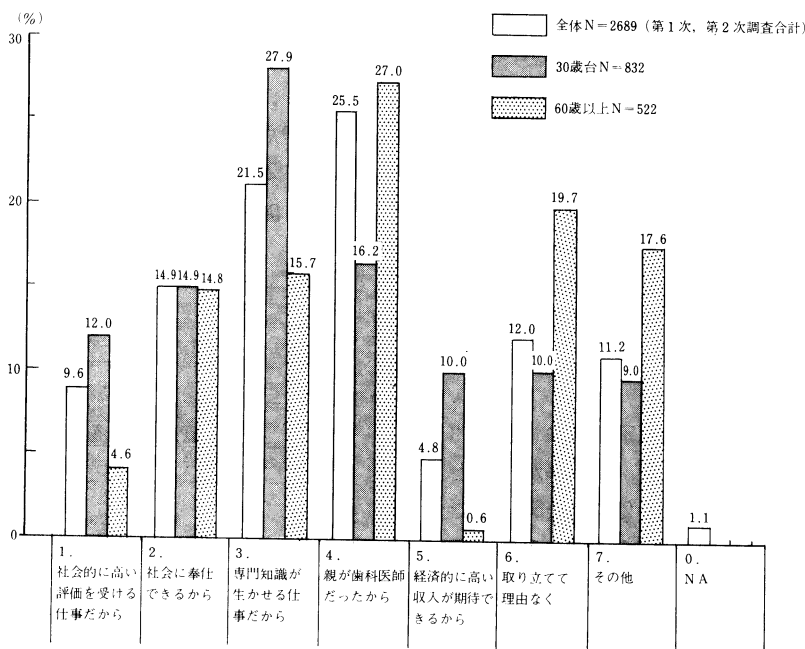
(1) 職業意識

①「歯科医師への職業選択動機」は、全体（N=2,689）としてみれば、図3-1-21に示すように、「親が歯科医師だったから」が25.5%と最も多く、次いで「専門知識が生かせる仕事だから」21.5%、「社会に奉仕できるから」14.9%、「取り立てて理由なく」12.0%、「その他」（親から勧められ、親戚の後を継ぐ、細かい仕事が好きで、歯科医専は徴兵猶予、等々）11.2%、「社会的に高い評価を受ける仕事だから」9.6%と続き、「経済的に高い収入が期待できるから」は最も回答比率が低く4.8%であった。

これを年齢層別にみると、同図に示すように高齢者（60歳以上）は、「親が歯科医師だったから」が27.0%、「取り立てて理由なく」が19.7%とこの2つの動機で5割弱を占めており、「高い収入が期待できるから」は僅かに0.6%で、30歳台の10.0%がそうであるのに対して大きな相違をみせている。高齢者の2割が「取り立てて理由なく」としたのは、職業志望・選択時期が半世紀も昔のことになったからかもしれない。30歳台は「専門的知識が生かせる仕事だから」27.9%、「親が歯科医師だったから」16.2%と続いている。これらの数字から推察するに、歯科医業はかなり家業継承の色彩を持つといえるが、しかし中・若年層でこの傾向は減少し、新規にこの業務分野に参入している状況が読み取れる。

②「歯科医師の現在の職業についての仕事観」をみたのが図3-1-22であり、同図は7つの回答肢への重複回答結果から、回答比率が高い順に回答肢を列举したものである。回答者全体の3分の2（66.3%）が「自分の専門知識・技術・思考力が生かせる仕事である」と職業の専門性を、そうして半数以上の人（53.5%）が「社会に奉仕できる仕事である」と仕事を持つ社会的サービスの性格を取り上げている。ついて「年をとっても自主的

図3-1-21 歯科医師への職業選択動機



に仕事ができる面白い仕事」(37.2%)、「人々の口腔を健康にする創造的な仕事」(36.3%)と、それぞれの仕事観について、3分の1以上の人が面白い仕事、創造的な仕事との認識を表明しており、「社会的に高い評価を受ける仕事」という社会的威信についての視点を持つ人は2割である。「親から受け継いだ仕事」とする人は15%で7人に1人の割合であり、前出の歯科医師への職業選択動機（この質問回答は○印1つ）の「親が歯科医師だった」25.5%よりもその比率は少ない。このことは、職業が持つ多面的な側面への関与が強く出て来ているとみなしてよいであろう。「経済的に高い収入が期待できる仕事」とする人は8.0%であった。

③現在の「職業満足感」をみると、図3-1-23に示すように、全体（N=2689）としてみれば、「まあ満足」が41.5%で、これに「大いに満足」5.1%を合計すると、「満足」者は45.6%となり、ほぼ半数弱の人が現在の職業に満足している。「不満」者は「やや不満」21.3%、「大いに不満」9.9%で合計すると31.2%である。「どちらともいえない」は、20.6%である。これを地域別にみれ

ば、「満足」者が50%を超えている地域は、東京都51.7%、秋田県51.1%、福井県54.6%、沖縄県54%の4都県であった。他方、「不満」者が30%を超えているところは、愛知県32%、大阪府35.3%、北海道32.3%、福岡県34.0%、鹿児島県37.2%、沖縄県30.5%の6道府県であった。

職業満足感別に現在の仕事についての「仕事観」をみたのが図3-1-24である。現在の職業に「大いに満足」から「まあ満足」「どちらともいえない」「やや不満」「大いに不満」の5統計グループ別に、8つの仕事観への選択状況をみると、全般的な傾向としては、「満足」グループは「不満」グループに比べて総じて回答項目選択比率が高い形がでている。しかし、この図を仔細に眺めれば特に2つのことが推察できるであろう。すなわち、「どちらともいえない」グループは、折れ線グラフの中でしばしばU字型の底辺や馬の背型カーブのくぼみに位置しており、このことは、このグループに属する人々が職業アイデンティティにおいて、他のグループの人々ほど考えがふっ切れていない（多義的な思考状況にある）ことを示唆しているのではあるまいか。なお、このグループ

図3-1-22 現在の「職業」歯科医業についての「仕事観」

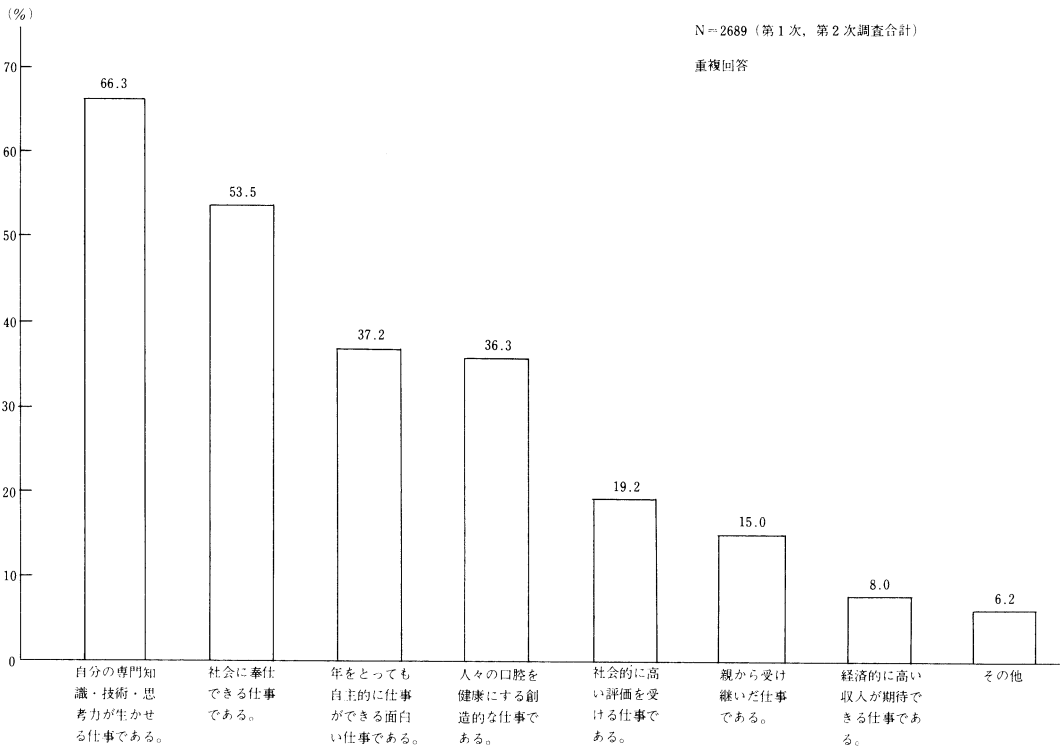


図3-1-23 地域別にみた職業満足感

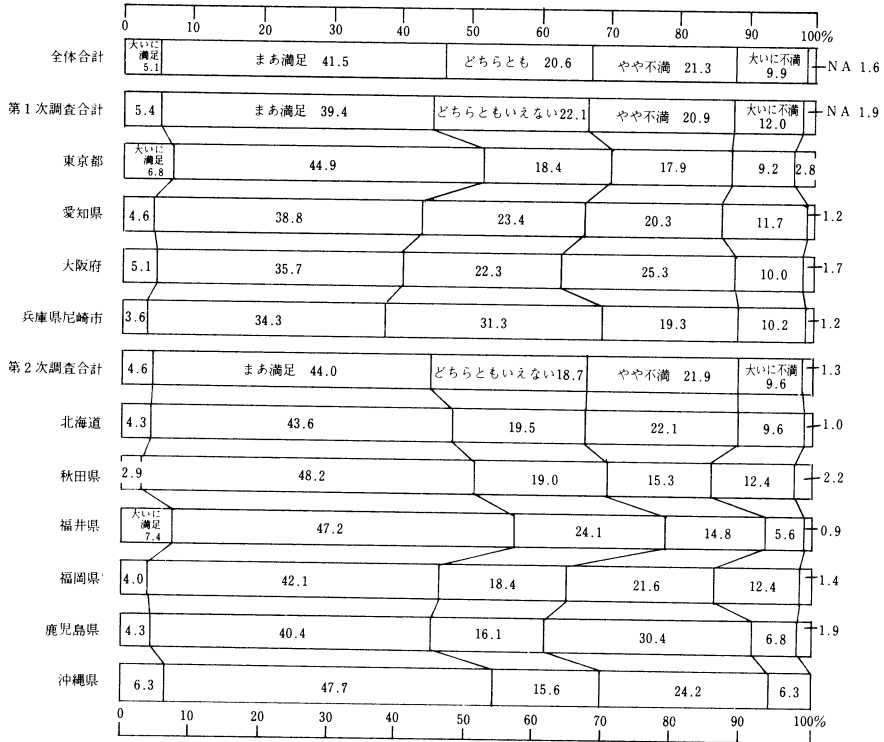
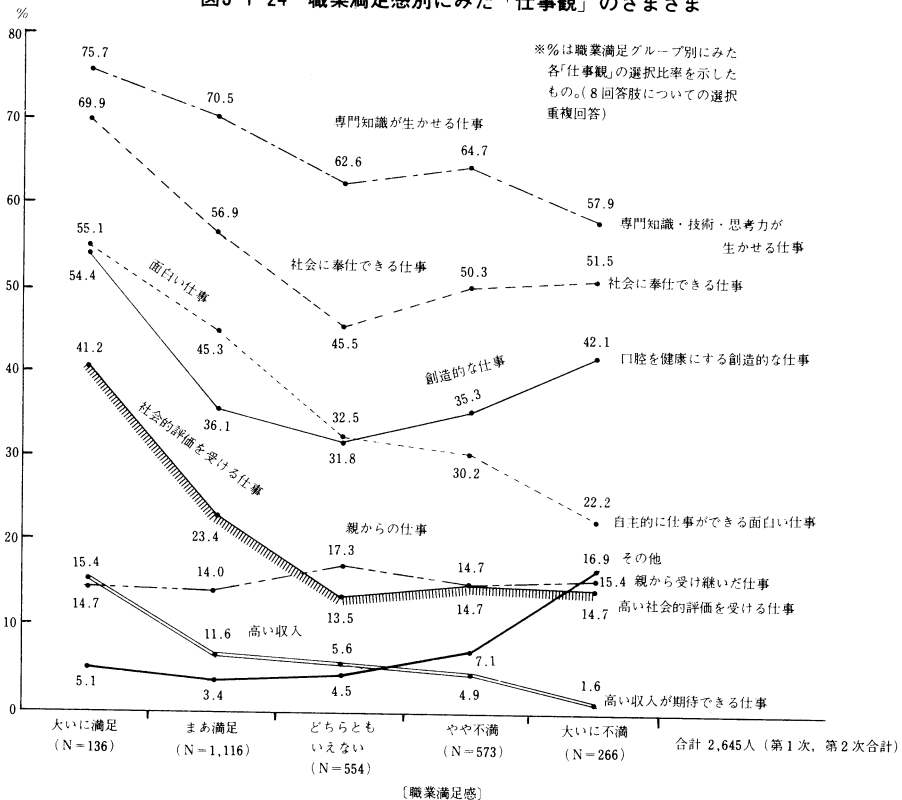


図3-1-24 職業満足感別にみた「仕事観」のさまざま



は、「親から受け継いだ仕事」で他グループよりも僅かに比率が突出しているのも、この状況を暗示するものであろう。「大いに不満」グループは、「社会に奉仕する仕事」と「人の口腔を健康にする創造的な仕事」の2つで相対的に高い比率が出ているが、このことは、「大いに不満」グループに、理想と現実の乖離の故に不満を感じている人々があることを意味しているのではあるまいか。企業の従業員意識調査でもよくあることであるが、不満の中には「建設的」不満があることに留意する必要がある、理想の水準や他の何かと比較しての不満意識があることが考えられる。

④「収入満足感」についてみれば、全体としては図3-1-25でみるように「大いに満足」1.3%、「まあ満足」21.5%と「満足」者合計は22.8%であるのに対して、「やや不満」32.8%、「大いに不満」19.6%と「不満」者合計が52.4%と過半数を超えており、総じて「不満」者比率が高い。地域別にみて「満足」者比率が30%前後を示しているのは福井県29.6%、沖縄県30.4%の僅か2県にすぎない。他方、「不満」者比率が50%を超えている地域

は、愛知県56%、大阪府58.2%、福岡県57.7%、鹿児島県57.3%であった。

⑤「世間の評判についての知覚」は、表3-1-26「自身の歯科医師としての世間の評判についての知覚」に示すように、「普通」とする人が約3分の2、「大いに評判がよい」3.9%、と「かなり評判がよい」24.5%を合計すると「評判がよい」は3割弱、「あまり評判がよくない」と「評判がよくない」の合計は1割を下回って7.5%であった。年齢層別では、「(大いに+かなり) 評判がよい」は20代12.1%、30代24.3%、40代28.4%と加齢とともにその比率が増加し、70代では33.7%であった。逆に「(あまり+) 評判がよくない」は、20代18.2%、30代8.2%、50代と60代がそれぞれ3.2%と高齢になる程その比率が減少する傾向があった。年齢上昇とともに地元評判についての評価が上がっていく傾向は、歯科医業そのものの以外の要因が、例えば地元人脈の広がりや地域社会との関係が強まること(学校検診など)が働いてプラスに作用していることが考えられよう。

(2) 患者に対する意識

図3-1-25 地域別にみた収入満足感

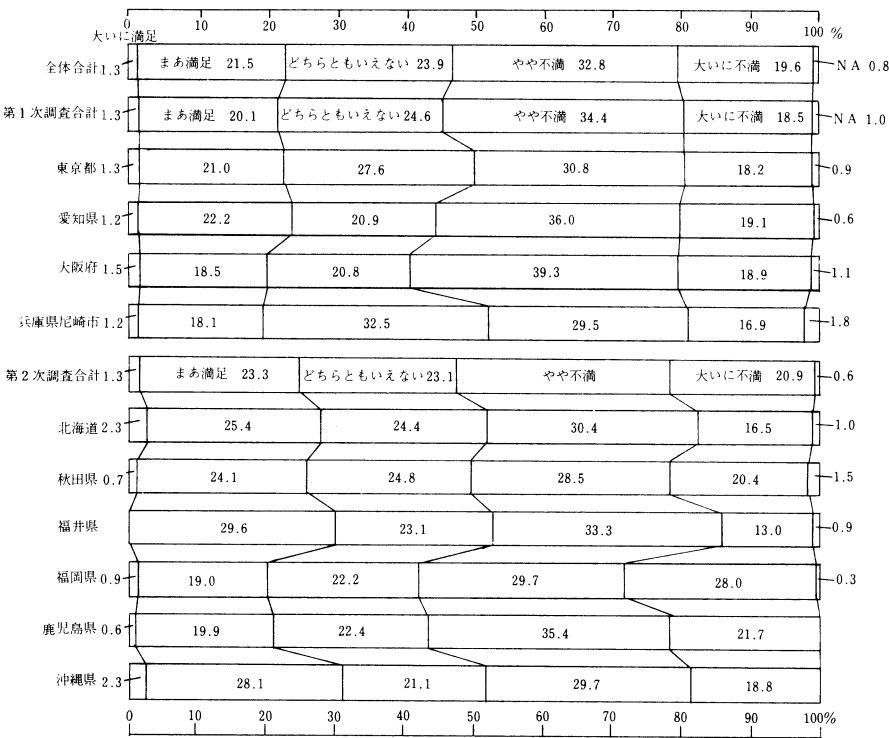


表 3-1-26 年齢層別にみた「世間の評判についての知覚」

Q10. 先生はご自身の歯科医師としての世間の評判をどのように感じておられますか。(%)

年齢層	計	1. 大い に評判がよい	2. かなり 評判がよい	3. 普 通	4. あまり評判 がよいくない	5. 評 判 が よいくない	0. NA
20歳台	N=33 100.0	—	12.1	69.7	15.2	3.0	—
30歳台	N=836 100.0	3.1	21.2	66.3	7.4	0.9	1.1
40歳台	N=825 100.0	2.8	25.6	61.9	7.0	1.7	1.0
50歳台	N=457 100.0	5.7	26.5	60.0	4.6	0.4	2.8
60歳台	N=370 100.0	4.6	24.3	63.5	4.3	0.8	2.4
70歳以上	N=163 100.0	6.7	27.0	57.7	3.7	0.6	4.3
*全体合計	N=2684 100.0	3.8	24.1	63.0	6.3	1.1	1.7

(＊年齢不明者 5 票を除く)

表 3-1-27 年齢層別にみた「患者の求めについての知覚」

次に患者に接する態度についておうかがいします。

Q11. 先生の患者は次の項目のなかでどれを求めていると思われますか。(重複回答 2 つまで)
最も重要だと思われるものを選んで下さい (○印 2 つまで)。(%)

(第一次調査、第二次調査合計)

患者に接する態度 (○印2つまで) 年齢層別	計	1. ていねいに 説明する。	2. なるべく痛く ないように治 療する。	3. 最新の技術を 応用する。	4. 治療費をでき るだけ安くす る。	5. 患者との人間 関係を重視す る。	6. そ の 他
20歳台	N=33 100.0	72.7	60.6	9.1	12.1	30.3	6.1
30歳台	N=836 100.0	60.5	69.1	7.5	18.1	32.8	4.3
40歳台	N=825 100.0	50.4	64.0	10.1	19.6	43.3	3.4
50歳台	N=457 100.0	44.4	56.2	13.1	17.7	54.0	3.5
60歳台	N=370 100.0	40.3	56.2	11.4	24.9	54.9	1.9
70歳以上	N=163 100.0	37.4	50.9	9.8	17.2	57.7	2.5
*全体合計	N=2684 100.0	50.6	62.4	9.9	19.3	44.2	3.5

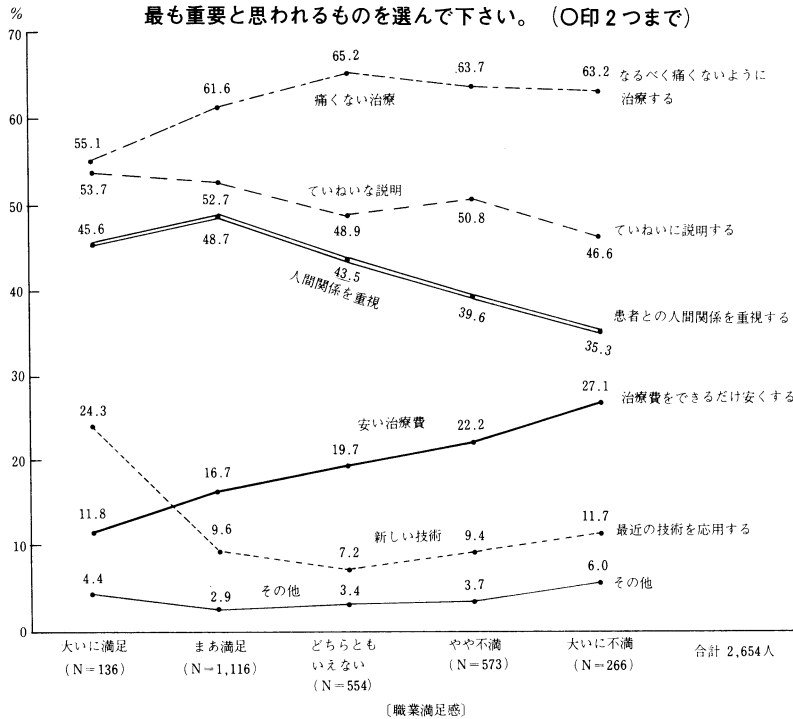
(＊年齢不明者 5 票を除く)

①「患者の求めについての知覚」を、年齢層別にみたのが表 3-1-27 である。まず、全体としてみれば、回答比率（重複回答 2 つまで）が高い順に、「なるべく痛くないように治療する」62.4%、「ていねいに説明する」50.6%、「患者との人間関係を重視する」44.2%、「治療費をできるだけ安くする」19.3%、「最新の技術を応用する」9.9%、「その他」3.5%である。年齢層と回答肢との組み合わせから同図をみると、つぎのことが読み取れる。すなわち、「ていねいに説明」は年齢層が若い層ほどそうする人の比率が高くなっている。逆に高年齢層になるほど「人間関係を重視する」人の

割合が増えている。「なるべく痛くないように」は30代で約69.1%、「できるだけ安い治療費」は60代で24.9%、「最新の技術応用」は50代13.1%、60代11.4%と他の年齢層に比べて相対的に高かった。

図 3-1-28 は、職業満足感のグループ別にみた「患者の求めについての知覚」である。「大いに満足」グループは「ていねいな説明」や「新技術の応用」では他グループよりも高い比率を示しており、「治療費をできるだけ安く」ではもっとも低い11.8%であった。「大いに不満」グループは「治療費をできるだけ安く」が27.1%と各グループ中最も高い比率を示しており、このことは記述意見と

図3-1-28 職業満足感別にみた「患者の求めについて知覚」
「Q. 先生の患者は次の項目のなかでどれを求めていると思われますか。
最も重要と思われるものを選んで下さい。(○印2つまで)



してしばしば記されていることであるが、「良い治療」と「安い治療費」との相克に悩んでいる人もあることを示すものといえよう。

②患者に対する診療の仕方は、表3-1-29にみるように、患者に対する診療の仕方を、全権委任希望型、患者の緊張解除型、技術本位型の3類型

に分けて質問した結果は、全体としてみれば、「一切を患者からまかされることを望む」18.9%、「気軽に患者の気持ちをほぐしながら診療する」63.9%、「治療本位の技術第一主義でいくほうだ」10.8%、「その他」6.4%で、「気軽に患者の気持ちをほぐしながら診療する」とする人が全体の3分

表3-1-29 1日当りの診療患者数別にみた「患者に対する診療の仕方」
Q12. 先生の患者に対する診療のしかたは次のどれにあたりますか(1つだけ○印をして下さい)。(%)

診療の仕方 1日当りの 診療患者人数	計	1. 一切を患者から まかせられること を望む。	2. 気軽に患者の 気持ちをほぐしな がら診療する。	3. 治療本位の技 術第一主義で行く ほうだ。	4. その他
10人未満	N=171 100.0	26.9	51.5	18.1	3.5
11人～20人	N=710 100.0	22.2	59.6	12.0	6.2
21人～25人	N=374 100.0	17.4	62.6	11.2	8.8
26人～30人	N=675 100.0	18.4	64.0	10.7	7.0
* 31人～39人	N=112 100.0	15.2	73.2	8.0	3.6
40人以上	N=557 100.0	18.0	72.0	7.5	5.9
全 体 合 計	N=2599 100.0	18.9	63.9	10.8	6.4

* 「31～39人」は第1次調査地域のみ該当者があり、第2次調査地域には該当者がなかった。

の2近くを占めていることがわかった。

歯科医師1日1人当たりの診療患者数からこの類型比率をみてみると、患者数が少ない統計グループ程、全権委任希望型と技術本位型比率が高い傾向がある。患者の緊張解除型は、「患者数10人未満」では51.5%であるのに対して、「患者数40人以上」では72%であり、1日当たりの診療患者数が少ない歯科診療所は、患者数が多いところに比べて、特徴的なコンセプトを持っている診療所が比較的多いのかかもしれない。

③子供患者についての態度を、図3-1-30棒グラフ上段でみた「子供の患者を歓迎するかどうか」の回答結果は、全体としてみれば「子供の患者を歓迎するほうだ」20.0%、「大人と子供はあまり差をつけない」64.3%、「どちらかといえばあまり歓迎したくない」15.7%との回答比であった。これを年齢層別にみると、「子供の患者を歓迎する」は20代・30代で3割弱、40代・50代で2割弱、60歳以上の年齢層では1割弱であり、「歓迎したくない」割合も年齢層が上がるにつれて増大していく傾向が出ている。

④高齢者患者についての態度をみたのが図3-1-30の棒グラフ下段に記載したものである。同図にみるように「高齢者患者歓迎の有無」を年齢層別にみれば、年齢層別によるさしたる相違はない。全体の4分の1が高齢者を「歓迎」しており、「高齢者と他年齢者との間に差をつけない」が7割強、「歓迎したくない」は20人に1人といったと

ころである。

(3) 来院患者の特徴

①歯科医師1人の1日当たり診療患者数について地域別にみたのが図3-1-31である。人口10万人対歯科診療所施設数が相対的に多い地域では、総じて、診療人数は少ないほうへの比率が高くなっている。そうして歯科診療所施設数が全国40位台の秋田県、福井県、鹿児島県では、診療人数が多いほうに構成比率が傾いている。例外は沖縄県で、「20人以下」で45%をしめているが、これは東京都の49%に次いで比率としては高いものである。

第1次調査地域と第2次調査地域とでは、診療患者人数の構成比について特徴的な相違があった。第1次調査の各地域では、「31～39人」に若干の構成比率がみられたが、第2次調査の各地域では、この「31～39人」の区分に該当する回答がなかった。第2次調査地域では比較的人数が限定された（または人数を限定している）ところと、人数が多いところに二極化の傾向があるのかもしれない。

②来院患者中の「子供患者割合9%以下」の回答比率が、比較的他地域より高いのは、東京都16%、福岡県12%、尼崎市11%である。こうした地域では小児歯科診療所や小児診療指定時間帯を設けているなどの専門特定化があることも1因であろう。そうした地域では診療所所在地も「住宅地以外」が相対的に高く、住宅地とビジネス街の

図3-1-30 年齢層別にみた子供患者や高齢者患者に対する態度

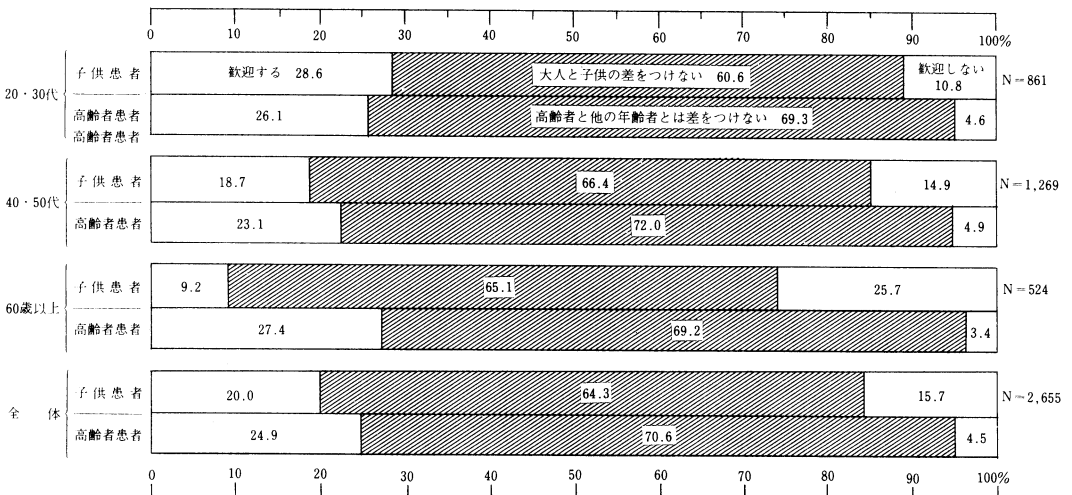
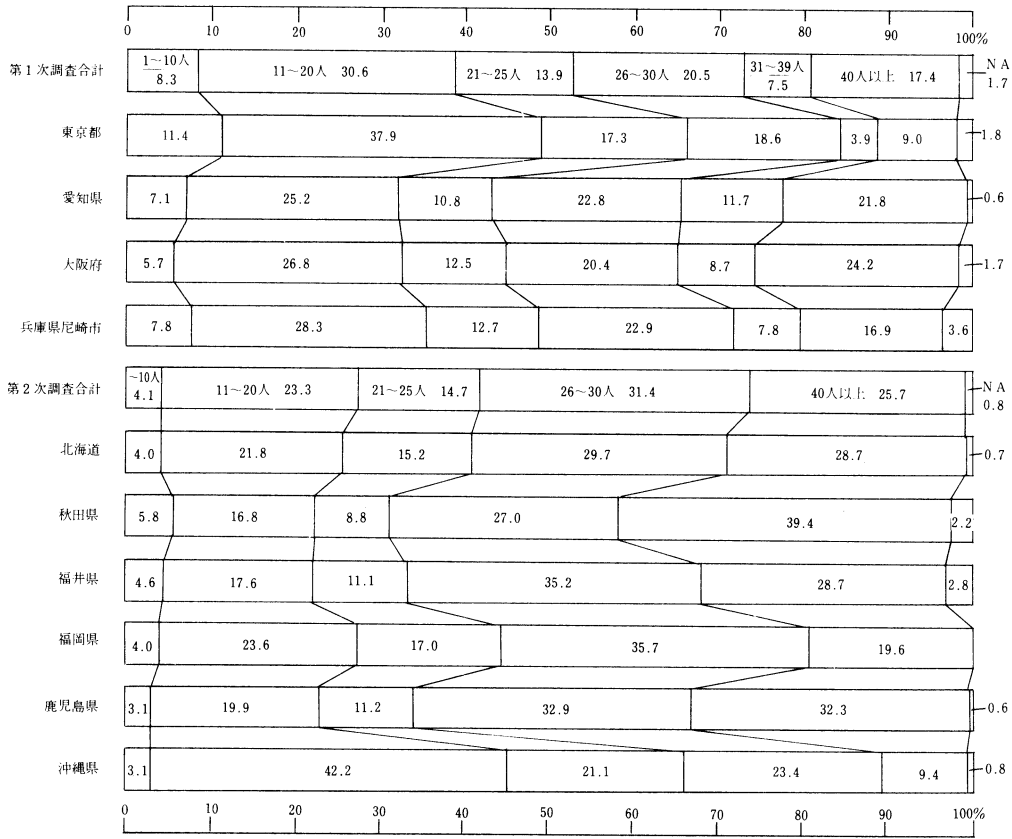


図3-1-31 地域別にみた1日当りの診療患者数



歯科とでは小児患者比率が（自ずから）著しく異なることが予想され、そこで診療所所在地別と子供患者比率とのクロス集計結果を求めてみると、「住宅地以外」（N=824）の「子供患者割合9%以下」は17.7%であり、「住宅地」（N=1577）の「9%以下」6.6%と、いわば所在地による患者の分化があることもまた1因をなすといえる。

③高齢者患者の割合をみると、来院患者のうちで高齢者患者比率が「50%以上」の診療所は、各地域ともそう多くはないが、それでも大阪府9.8%、尼崎市8.4%は他地域よりも高い比率である。高齢者患者は入れ歯の上手な先生の噂に敏感であり、評判を聞いて、紹介されての通院者が累積されてくると、高齢者患者比率が高い診療所が特定されてくる状況が生じてこよう。

④かかりつけ患者の割合を図3-1-32で求めてみると、来院患者の「80%以上」が「かかりつけ」であるのは、全体の39%であり、地域別では東京都46.7%、愛知県42.8%、福井県43.5%が高

いほうである。逆に「かかりつけ」80%以上の比率が少ないのは沖縄県18.8%、鹿児島県29.2%である。調査前の予想では、人口の移動が大きい大都市圏のほうが「かかりつけ」患者は低いと考えていたが、鹿児島県、沖縄県で低い比率が出たのは意外であった。

⑤保険のみの患者の割合をみると、図3-1-33「保険のみの患者の割合」に示すように、全体としてみれば、「保険のみの患者79%以下」は、13%であり、「保険のみの患者90%以上」は74%の大多数をしめている。さらにその中で「99%・100%」の診療所が26.1%をしめている。地域別では「99%・100%」の比率が高い地域は鹿児島県49.1%、北海道40.9%などであり、東京都13.7%、愛知県19.4%と少ない地域に比較して著しい対照をなしている。

（4）診療件数の種類別順位について
診療件数の種類の多少についてみたのが図3-1-34である。診療件数を「保存」「保綴」「外科」

図3-1-32 地域別にみた「かかりつけ」患者の割合

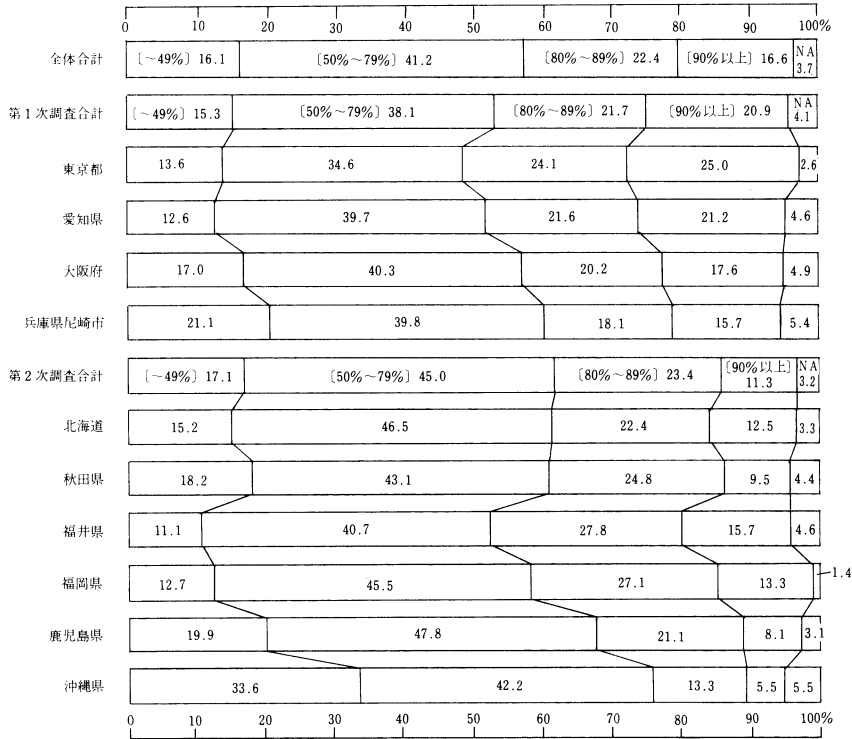


図3-1-33 地域別にみた「保険のみ」患者の割合

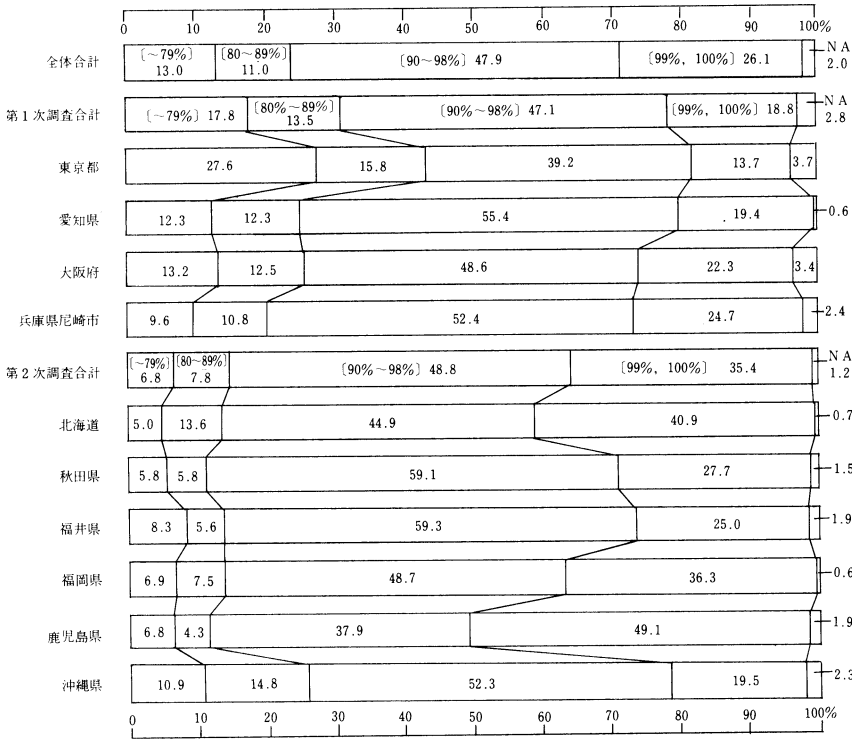


図3-1-34 診療件数の種類の多少について

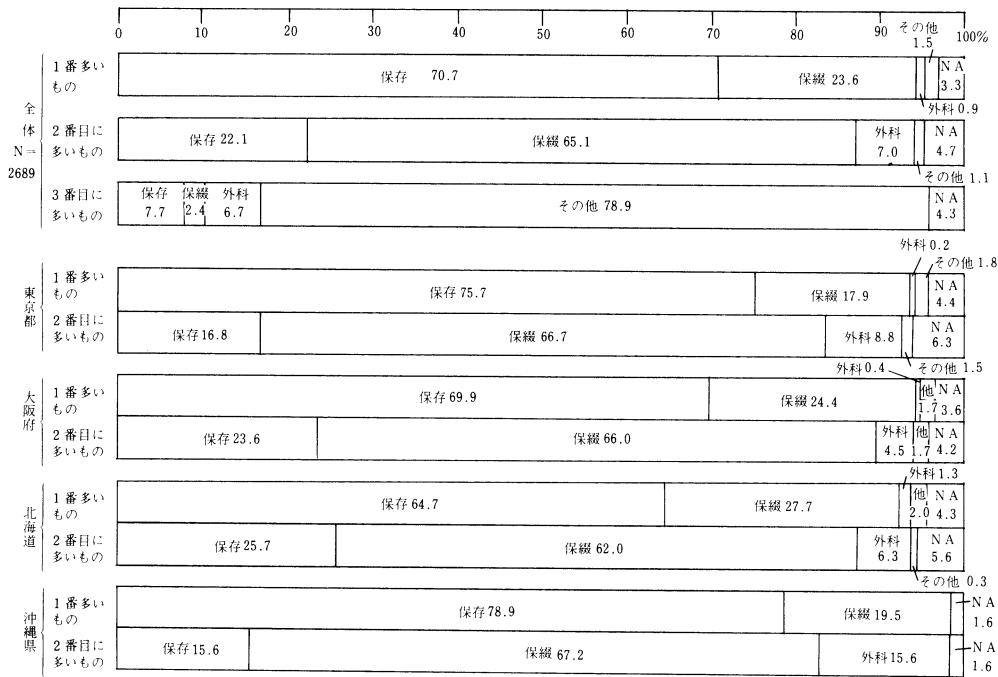


図3-1-35 地域別にみた「新しい専門知識の主な受入先」

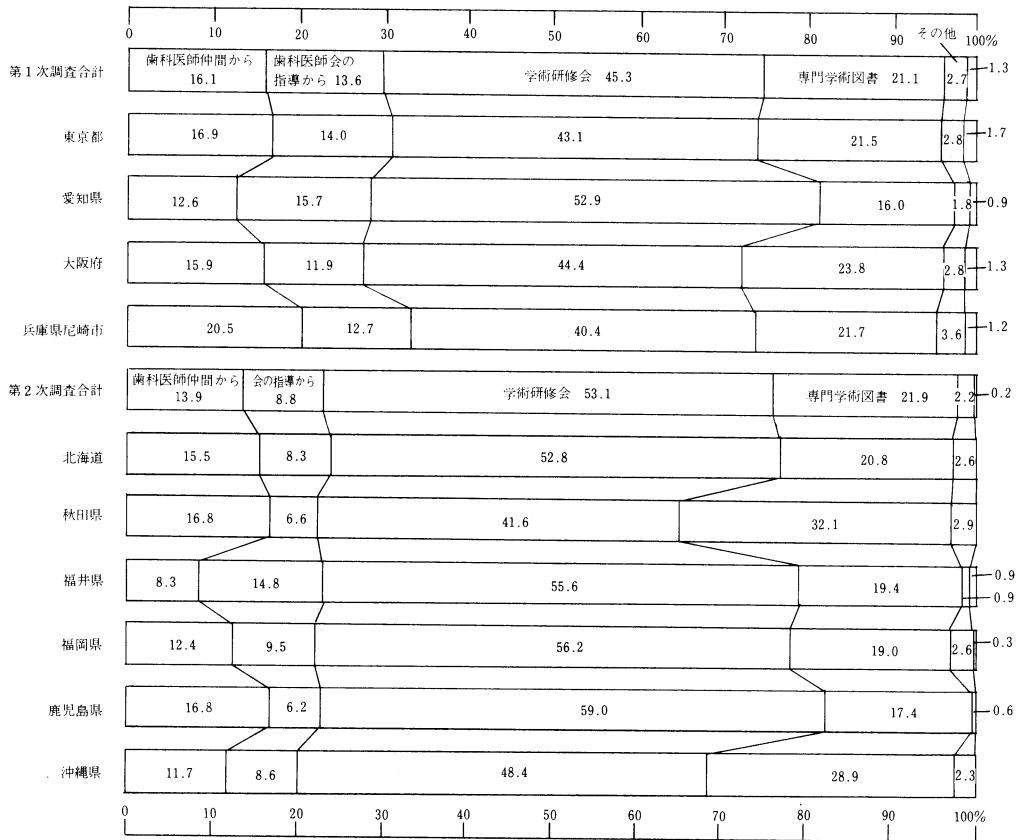


表 3-1-36 年齢層別にみた新しい専門知識の受け入れ先

Q19. 先生は新しい専門知識の受け入れを主として、どのようにやっておられますか。(%)

年齢層	計	1. 歯科医師仲間から。	2. 歯科医師会の指導。	3. 学術研修会。	4. 専門学術図書。	5. その他
20歳台	N=33 100.0	33.3	6.1	30.3	30.3	—
30歳台	N=833 100.0	19.1	6.4	48.0	23.3	3.2
40歳台	N=818 100.0	15.2	8.8	54.3	19.8	1.9
50歳台	N=453 100.0	13.7	13.0	50.3	20.5	2.4
60歳台	N=367 100.0	9.8	18.5	47.4	21.8	2.5
70歳以上	N=158 100.0	8.2	32.3	34.2	23.4	1.9
全体合計	N=2662 100.0	15.2	11.5	49.2	21.6	2.5

「その他」に分けて診療件数の一番目に多いもの、二番目に多いもの、三番目に多いもの、と順位を求めたところ、全体としてみれば、「一番目に多いもの」では「保存」が70.7%、ついで「保綴」が23.6%と、この両者で94.3%を占めている。「二番目に多いもの」としては、「保綴」65.1%、「保存」22.1%、「外科」7.0%の順である。「三番目に多いもの」としては「その他」が78.9%となっている。同図では、東京都、大阪府と人口密集地域を抱えているところと、日本の北・北海道と南の沖縄県の両地域の4地域を作画してみた。4地域それぞれに違いがあるが、「一番多いもの」をみると、東京都と沖縄県では「保存」「保綴」の比率のパターンが類似しており、北海道では「保綴」が27.7%と他地域よりやや高い傾向が出ている。

(5) 専門知識の主な受け入れ先

「新しい専門知識の主な受け入れ先」は図3-1-35にみるように、全体としては、「歯科医師仲間から」16.1%、「歯科医師会の指導」13.6%、「学術研修会」45.3%、「専門学術図書」21.1%、「その他」(出身大学など)2.7%と分れており、「学術研修会」がほぼ半数を占めていることが注目される。これを表3-1-36で年齢層別にみると、若年層から高年になる程比率が低下していくのが「歯科医師仲間から」であり、年齢が上になる程比率が増える傾向を示しているのが「歯科医師会の指導」である。年代によって新しい専門知識の受入

れ先の比率に差がある。(西山)

3) 疲労感、診療所の運営状況と経営状態

(1) 疲労度

①診療開始前、診療中、診療後疲労感

後掲の第4章地域別集計表の第12表、第13表、第14表に示すように、全体として当然ながら疲労感は診療開始前から診療中、診療後と診療活動が進むにつれて高まっていくようである。全地域ともほぼ2割の歯科医師が診療中に疲労の自覚をもっており、診療後には実に6割弱が疲労感を訴えている。疲労感のもう一つの特徴は、地域間に有意差が見い出せず、驚くほど似た傾向を示しており、特に東京都、大阪府、愛知県などの大都市圏と北海道、沖縄県、秋田県などの地方との間に歯科医師の疲労感に差がないことは極めて示唆的であり、現状の歯科医師の診療活動に対する肉体的、精神的負担度に共通の条件が作用していて、地域的な条件差がないことを物語っている。

②診療後の疲労自覚症状

第15表は30項目にわたる自覚症状についてそれぞれの項目の選択率によって自覚率を計算したものである。その結果から自覚率の相対的に高いものを挙げると、参考文献の吉竹博『改訂産業疲労—自覚症状からのアプローチ』で分析されている疲労自覚症状30項目の3成分分類結果に基づいていえば、疲労自覚症状Ⅰ「ねむけとだるさ」につ

いては「全身がだるい」、「目がつかれる」、「横になりたい」の三項目の自覚率が高い。疲労自覚症状Ⅱ「注意集中の困難」では「根気がなくなる」、「ちょっとしたことが思ひだせない」が目立つ。また疲労自覚症状Ⅲ「局在した身体違和感」では「肩がこる」、「腹がいたい」の自覚率が高い。

地域間の違いに着目すると、疲労自覚症状Ⅰについては自覚率の平均は尼崎市が20.2%と最も低く、次いで東京都と愛知県の26.0%、27.6%と20%台であり、大都市圏が相対的に低率であるのに対して、地方圏はいずれも30%台とやや高くなっているのが特徴的である。

さらに個別の項目では鹿児島県が「全身がだるい」の自覚率が52.2%と50%台を超えているのに対して、尼崎市の23.5%、東京都の32.4%とかなり低率であるが目立つ。「目がつかれる」では地方圏には70%を超える県が4県を数え、特に鹿児島県は75.8%と最高の自覚率を示している。一般にここでも大都市圏より地方圏の方が高率になっている。「横になりたい」についても同様な傾向が見られる。また尼崎市は全項目とも最低の率を示している。

疲労自覚症状Ⅱ「注意集中の困難」の項目群の全体平均と個別の項目への反応の特徴は、上記の疲労自覚症状Ⅰの場合と酷似している。その中で「根気がなくなる」の自覚率については北海道が50%を超えているのに対して、尼崎市、東京都、沖縄県は30%台であるのが対照的である。

疲労自覚症状Ⅲ「局在した身体違和感」についても全体的に見て、前2群とほぼ同様な傾向にあるが、個別項目の「肩がこる」では鹿児島県が64.6%と最高値を示し、ついで北海道の61.1%と60%をこの2県が超えている。東京都、大阪府、秋田県、沖縄県はいずれも50%台で、愛知県、福井県が40%とやや低率である。ここでも尼崎市は36.7%と最低率になっている。

「腹がいたい」は北海道、福岡県、鹿児島県が50%台で高率グループに入り、福井県と尼崎市は30%台と低率グループを形成している。

③1週間のうち、一番疲れる曜日

この問題については、大都市圏および地方圏ともカイ自乗検定で見ると、それぞれの内部で0.1%以下の水準で有意差がみとめられる。しか

し、第17表によれば、大都市圏と地方圏で少し傾向が異なる。すなわち、大都市圏の全体の傾向は一番疲れる曜日の選択率が水曜日、月曜日、金曜日に集中する傾向があるのに対して、地方圏ではそれがやや分散していて、月曜日、木曜日、金曜日、水曜日の順で選択率が高く、大都市圏で選択率の低い木曜日の選択率の高いのが注目される。個別にみると、愛知県が他に比べ木曜日の選択率が最も高い。月曜日の選択率が30%を超える県は鹿児島県、福岡県、尼崎市であり、金曜日の選択率の高いのは東京都と大阪府であり、最も低い県は愛知県の12.3%である。

④休診日

第18表によれば、これも大都市圏と地方圏とも0.1%以下の水準で有意差がある。休診日は全国的に一般の休日に合わせて日曜日になる傾向が強く、とくに地方圏はいずれも8割以上が日曜日を休診日にしている。大都市圏も日曜日を休診日にする割合が高く、地方圏に比べると、その選択率は低くなるが、それでも平均で51.6%が日曜日であるとしている。しかし、個別に見ると愛知県は木曜日を休診日にする割合が50.2%と日曜日の41.7%を上回っている。全般的に休診日は日曜日に次いで選択される曜日は木曜日と金曜日である。このことと前問の一番疲れる曜日との関係の分析は今後の検討課題の一つである。

(2) 診療所の経営状態

①患者数の適正規模

第38表によると、大都市圏 (sig. = 0.0004)、地方圏 (sig. = 0.0035) で有意差が認められる。大都市圏の全体的傾向は「適正である」54.2%、「もっと多くてもよい」24.6%、「多すぎる」19.7%となっているが、東京都のみは「多すぎる」が「もっと多くてもよい」より多い選択率になっており、他は約28%の者が「もっと多くてもよい」としている。地方圏は「適正である」50.0%、「多すぎる」20.7%、「もっと多くてもよい」28.5%となっていて、大都市圏と傾向差はないが、個別の県では少し違いが見られ、秋田県、福井県は「多すぎる」方が「もっと多くてもよい」より選択率が高く、30.7%、27.8%となっているのに対して、福岡県、鹿児島県、沖縄県がいずれも「もっと多くてもよい」が30%を超えており、

東北、北陸地方と九州・沖縄地方と極めて対照的であり、何らかの地域的共通性があるのかも知れない。この分析は今後の検討課題となろう。

②診療所の経営状態

第39表によると、大都市圏と地方圏の全体傾向には大差はない。2割前後が「5年前にくらべてかわらない」とし、沖縄県の42.2%を除き、大体6割が「5年前にくらべわるくなった」とし、「5年前にくらべてよくなった」と「最近開業で比較できない」とする割合は前2項より低率になっていることに見られるように、経営状態への全体の判断は悲観的方向にあることを示している。

これを個別的に見ると、「5年前にくらべてわるくなった」の選択率が高いのは秋田県で、次いで東京都、福岡県の順となっており、最も低率の県は沖縄県の42.2%で、次いで鹿児島県、福井県、北海道が50%台である。また「5年前にくらべてよくなった」では福井県が13.0%と最高率であり、次いで沖縄県の11.7%、愛知県の10.8%といずれも10%を超えている。逆に低率の県は福井県の2.9%、尼崎市の4.8%、鹿児島県の5.6%、北海道の6.6%と続いている。「5年前にくらべてかわらない」率の高いのは、尼崎市の21.7%が目立ち、低いのは秋田県の10.2%である。

「最近開業で比較できない」では沖縄県の26.6%、鹿児島県の21.1%、秋田県の19.7%、北海道の18.2%と平均をかなり上回っている。これらの県はあるいは新規開業の可能性の高さを反映しているのかも知れない。反対に東京都は5.9%とかなり低率になっており、やはり新規開業の抑制条件が厳しいことを物語っているように見える。

②経営が悪化した理由

前問で経営が悪化したと答えた人に、その理由を尋ねた結果を第40表に示している。それによると、全体として経営悪化理由の第一は「患者数の減少」であり、「歯科医業経費の割合が大きくなったため」がそれに次ぎ、さらに「一人当たりの治療費が減少してきたため」と続いており、この傾向はほぼ全地域共通であるが、尼崎市と沖縄県は2位と3位が逆になっており、また福井県は「患者数が減少したため」と「歯科医業経費の割合が大きくなったため」が同率となっている。

③経営悪化の社会的背景

この設問に対する反応は、大都市圏と地方圏ではやや異なる結果を示しているようである。(第41表)大都市圏では「近接地に診療所ができたため」、「物価高のため、人件費高騰のため」、「歯の治療よりも、レジャー優先の風潮があるため」の項目に大体選択が集中している。この中では尼崎市が人口減少の実情を反映して「最近住民数が減少したため」の選択率がかなり高くなっている。これに対して地方圏は選択項目が分散する傾向にあり、大都市圏で選ばれた項目の他に「最近住民数が減少したため」や「税負担増のため」などが選択されている県もある。

④歯科医業の経費割合

第42表(1)表は歯科医業の経費割合第1位として選択された事項の割合を示したものである。これによると、鹿児島県が第2位と第3位が逆であることを除いて、全地域とも選択率に少し差があるけれども「給料(手数料をふくむ)」が第1位、「外注技工料」が第2位で選ばれている。このことからこの2事項が歯科経営にとって極めて重要な要素であることを表している。

第42表(2)の「歯科医業の経費割合第2位」と第42表(3)の歯科医業の経費割合第3位から前問以外の重要事項を知ることができる。すなわち、「歯科業務関連の機材・機器」と「賃貸料(診療所家賃、機械リースなど)」がそれである。

(2) 現在の診療制度・運用

この問題に関する9問に及ぶ設問に対する結果は、第43表(1)から(9)までに掲げてある。

①診療時間の延長

この設問の反応を第43(1)表から見ると、全体としては約8割の歯科医院では「今のところ考えていない」が、沖縄県と北海道はその割合が僅かに低く、「実施している」か「将来考えている」と低く、「実施している」か「将来考えている」という積極的反応は当然それだけ両県において21.1%、20.4%と他に比べ認められる。対照的に福井県は否定的割合が最も多く、したがって積極的反応は少なくなっている。これらの傾向は患者数や予約診療のような診療の仕方と深く関わっていると思われる。なお、大都市圏ではカイ自乗検定では有意差がなく、地方圏では1%の水準で有意が認め

られる。

②休診日の変更

否定的答えの割合が比較的多いのは、北海道の88.8%が目立ち、大阪府は75.6%とやや低い。大阪府のように休診日の変更を考える割合が多いのは、あるいはこの都市の地域的特性が何らかの形で働いているのかも知れない。これは患者のためなのか、歯科医師の都合によるものか、今後の分析に待たねばならない。

③予約診療の有無

実施率は大都市圏ではいずれも7割を超え、特に愛知県は87.7%と実施率がかなり高い。大都市圏ではすでに予約診療はかなり一般化しているといえる。それに対して、地方圏では差が認められ、沖縄県や北海道では80%以上の高い実施率になっているが、福岡県はその実施率が55.6%とかなり低率になっているのが注目される。この問題は今後の検討課題であろう。

④リコール制の実施⁶⁾

この実施率が高い地域は、愛知県の34.8%が目立ち、前問とあわせて当県の積極性をうかがうことができるようである。逆に消極的選択率の高いのは、尼崎市の44.6%が目を引き。それに次いで福井県の39.8%がやや高い。

⑤スタッフの増員

全体としては「今のところ考えていない」の割合が6割以上を占めている。大都市圏、地方圏とも統計的に有意差はなく、際立った特徴を見出すことができないが、強いていえば、「増員」を志向する傾向が他に比べ僅かに高い地域は沖縄県、鹿児島県である。

⑥スタッフの減員

これは前問と逆方向の問題であるが、全体としては8割以上が「今のところ考えていない」ことが分かる。この問題は今のところ表面化していないといえよう。

⑦一人法人化の設立⁷⁾

この設問に対する答えは、全体として6割以上が否定的であるが、大都市圏では大阪府の21.4%が「将来考えている」のが注目に値する。また地方圏では鹿児島県の23.0%が目立つ。

⑧自費増加に向けての診療方針の変更

この問題に関しては地域間にかなり違いが見い出せる。「今のところ考えていない」という消極的反応が目立つ地域は、尼崎市の72.3%が最高率で、逆に沖縄県は42.9%と最低率を示している。このことは、沖縄県、秋田県などの地方圏ではこの問題に積極的で、大都市圏では東京都がやや積極的であるようである。

⑨保健診療増加に向けての診療方針の変更

この問題は前問と性質の異なっており、全体としても6割以上が「今のところ考えていない」。その中で尼崎市、福井県、東京都が7割以上が現状維持を望んでいるのに対して、沖縄県、鹿児島県は2割以上が「将来方針変更を考えている」のが特徴的である。

(3) 開業歯科の今後の見通し

第44表は開業歯科の今後の見通しについての一般的見解を尋ねた設問に対する反応結果を示したものである。これによると、沖縄県の56.3%を除き、全地域が6割以上が「見通しは暗い」という悲観的見解を示している。その中でその割合が最も高いのが秋田県で、低いのは沖縄県である。率はあまり高くないが、「見通しが明るい」とする率が相対的に高いのは6.5%の福井県である。

(遠藤)

2. 地域別集計結果からみた地域の特徴

1) 地域別にみた各項目クロス集計の χ^2 検定結果の一覧表について

地域別にみた各項目クロス集計結果の一覧表は次の第4章に一括して提示している。この第3章の地域別にみた各項目クロス集計の χ^2 検定結果一覧表で用いたクロス集計は、各項目における無

6) 治療終了時から一定期間後に歯科医院がその患者に医院再訪をハガキ等で呼びかける制度である。ただし、この制度は比較的新しい試みで、公的な制度として確立しているものではないが、今後一般化が予想され、注目される試みである。

7) 一人法人化は昭和60年12月の医療法改正にともない「一人医師医療法人」制度として生れたものである。これによって個人開業医も医療法人化の道がれた。この制度は診療所の経営収支と医師個人の家計を明確に分離することによって経営基盤の近代化を図るのが目的である。(長隆著『一人医師医療法人のすべて』、中央経済社、平成2年参照)

回答（第4章の「地域別集計表」の各表で「NA」と記したところ）を除いて計算したものである。なお、クロス集計を作成するに際しては、第1次調査集計は、前掲の調査目的で述べたように、三大都市圏を含んだ東京都、大阪府、愛知県と大阪府に隣接している兵庫県尼崎市からなっており、この4地域間での各項目の回答構成の異同の程度を χ^2 検定結果の有意水準で示したものがここに提示した一覧表である。第2次調査集計は、北海道、秋田県、福井県、福岡県、鹿児島県、沖縄県を含んでおり、この6道県は、厚生省1987. 10. 1調査人口10万対歯科施設数が、本稿第2章で言及したように、福岡県のみが全国上位にあり、北海道は平均数を若干下回っており、他の4県はどれも全国40位台である。東北北陸の日本海側秋田県と福井県および日本列島南部南端に位置する鹿児島県、沖縄県は賃金センサスにおいて賃金水準が相対的に低い県である。そうして対10万人人口比において歯科医師数が東京都に次いで多い福岡県と、それぞれに地域特性があるこれらの6道県の間での回答構成の異同の程度を同様に χ^2 検定結果の有意水準でみたものである。

統計グループの比較に関する有意性の検定については、特に社会学の領域では、その母集団に作用している出来るだけ多くの要因を管理する必要性が指摘されており、その上で事前の仮説設定についての有意性の水準を求めることが望ましいと

の考え方もある⁸⁾。

我々がこの表で地域的な有意性の差を求めようとするのは、いわば特定の項目要因（変数）において、なぜ地域間に差があるのか、差が出てくるのか、を後に更なる分析で見極めようとするものであって、それは、問題発見とその解明において、調査前の「事前」の仮説設定よりも、調査後の「事後的な」仮説設定の方法として、いわば分析の出発点としてこの方法を用いているのである。今後はこれから出発して、多重クロスや判別分析などの多変量解析をすすめることを意図している。

ここに下表、すなわち、「地域別にみた各項目クロス集計の χ^2 検定結果一覧表」に示した記号は、地域集団間の有意水準の差が、 $p<0.1$ には（*）を、 $p<0.5$ には * を、 $p<0.01$ には ** を、 $p<0.001$ には *** を、 $p<0.0001$ には **** を付している。なお、統計的には、 $p<0.5$ をもって一応の有意水準があるとみなされているが、ここでは、統計的な有意性も特定項目（変数要因）選抜の一つの物差しとするが、それとはまた別に、統計的有意性がなくとも事柄それ自体に重要性を持つ要因も多数あり、折にふれて取上げることとする。

地域別にみた特徴は、次節に各地域毎に特筆的な要点を記しているが、その個々の詳細については、第4章において、質問項目順に、各地域の回答構成比を逐次記載しているのでそれらを参照されたい。（西山）

表 3-2-1 地域別にみた各項目の χ^2 検定結果一覧表

F（フェイスシート）項目、 Q 項目	第1次調査 東京都、愛 知県、大阪 府、尼崎市	第2次調査 北海道、秋 田、福井、 福岡、鹿児 島、沖縄の 各県	Q 項目	第1次調査 東京都、愛 知県、大阪 府、尼崎市	第2次調査 北海道、秋 田、福井、 福岡、鹿児 島、沖縄の 各県
F 1. 年齢層	****	****	F 5. 父の職業	(*)	****
F 2. 開業医・勤務医別			F 6. 診療所所在地	****	***
F 2 SQ. 開業医 開業資金出所	**	***	F 7. 建物の特徴	****	****
F 3. 診療所設立時期 (親の代から数えて)	****	****	F 8. 1 番近い診療所との距離	****	****
F 4. 診療従事年数	****	****	Q 1. 歯科医師になった動機	****	****

8) H. C. セルヴィン「社会調査における有意性検定批判」D. E. モリソン、R. E. ヘンケル編 内海庫一郎・杉森晃一・木村和範訳 1980『統計的検定は有効か—有意性検定論争—』梓出版、84～101頁。

Q 項目	第1次調査 東京都、愛 知県、大阪 府、尼崎市	第2次調査 北海道、秋 田、福井、 福岡、鹿児 島、沖縄の 各県	Q 項目	第1次調査 東京都、愛 知県、大阪 府、尼崎市	第2次調査 北海道、秋 田、福井、 福岡、鹿児 島、沖縄の 各県
Q 2. 診療所の歯科医師数	*	*	24. いき苦しい	*	
Q 3. 疲労の程度 1. 診療開始前	*		25. 口がかわく	(*)	(*)
疲労の程度 2. 診療中	(*)		26. 声がかすれる		
疲労の程度 3. 診療後	**		27. めまいがする	(*)	
Q 3 SQ 1. 自覚疲労度 1. 頭がおもい	*		28. まぶたや筋がびくびくする	***	
2. 全身がだるい	****		29. 手足がふるえる		
3. 足がだるい	****		30. 気分がわるい		(*)
4. あくびが出る	**		30P. (自覚疲労度項目合計点)	未算定	
5. 頭がぼんやりする	**		Q 3 SQ 2. 1 週間のうち 1 番疲れる曜日	****	****
6. ねむい	*		Q 3 SQ 4. 1 人当り 1 日平均診療人数	****	****
7. 目がつかれる	****		Q 4. 1 日の適正な診療時間		***
8. 動作がぎこちなくなる	*		Q 5. 1 日平均診療時間	***	****
9. 足もとがたよりない			Q 6. 1 日平均休憩時間	****	****
10. 横になりたい	****		Q 7. 職業満足感	**	
11. 考えがまとまらない	**		Q 8. 「職業」についての「仕事感」 1. 社会的に高い評価		*
12. 話をするのがいやになる	**		2. 社会に奉仕できる仕事	**	(*)
13. いらいらする	*		3. 専門和識・技術が生かせる	**	
14. 気がちる			4. 親から受けついで仕事		**
15. 物事に熱心になれない			5. 経済的に高い収入を期待		
16. ちょっとしたことが 思い出せない	***		6. 口腔を健康にする創造的な 仕事	****	*
17. することに間違いが多くなる	**		7. 自主的に仕事ができる 面白い仕事	*	
18. 物事が気にかかる	****		8. その他		
19. きちんとしていられない			Q 9. 収入満足感	(*)	(*)
20. 根気がなくなる	*		Q10. 世間の評判についての知覚	****	
21. 頭がいたい	**		Q11. 患者に接する態度 1. ていねいに説明	**	**
22. 肩がこる	****		2. 痛くない治療	(*)	**
23. 腰がいたい	****		3. 最新の技術を応用		

Q 項目	第1次調査 東京都、愛知県、大阪府、 尼崎市	第2次調査 北海道、秋田、福井、 福岡、鹿児島、沖縄の 各県	Q 項目	第1次調査 東京都、愛知県、大阪府、 尼崎市	第2次調査 北海道、秋田、福井、 福岡、鹿児島、沖縄の 各県
4. 治療費を安く			3. 物価高、人件費高騰のため	(*)	***
5. 人間関係を重視	**	*	4. 一部の経済不況のため		**
Q12. 診療の仕方	(*)		5. 税負担増のため	*	****
Q13. 子供の患者を歓迎するか	*	***	6. 保険制度改訂のため	**	**
Q13SQ2. 子供患者の割合	****	****	7. 近接地に診療所ができた	(*)	***
Q14. 高齢者患者を歓迎するか	*	***	8. 設備更新の必要	(*)	**
Q14SQ2. 高齢者患者の割合	****	****	9. 生活やレジャー優先の風潮		**
Q15. 現在の医院構成 1. 歯科医師数			10. その他	(*)	**
2. 技工士数			Q22. 歯科医業経費割合 ①1位	****	**
3. 衛生士数		(*)	②2位	(*)	****
4. 助手数	****		③3位	****	***
5. その他	**	(*)	Q23. 現在の診療制度・運用について 1) 診療時間の延長について		**
Q16. 「かかりつけ」患者の割合	**	****	2) 休診日の変更について	**	
Q17. 保険のみの患者の割合	****	****	3) 予約診療の有無について	****	****
Q18. 診療所件数 ①1番多いもの	****	(*)	4) リコール制の実施について	**	(*)
②2番目に多いもの	****	**	5) スタッフの増員について		
③3番目に多いもの	****	(*)	6) スタッフの減員について		
Q19. 新しい専門知識の受入先	(*)	*	7) 一人法人化の設立について		**
Q20. 診療所の1日当りの患者数の多 少(適正規模)	**	**	8) 自費増加に向けての診療方 針変更	*	
Q21. 診療所の経営状態	*	****	9) 保険診療増加に向けて診療 方針変更	****	
Q21SQ1. 悪くなった理由 1. 患者数減少	**	**	Q24. 開業歯科の今後の見通し	****	**
2. 1人当り治療費減少	*	**	χ^2 検定の有意水準についての記号 $p < .10$ を(*) $p < .05$ を* $p < .01$ を** $p < .001$ を*** $p < .0001$ を****で示す。 ※各項目のNA(無回答)は、この表の計算では除外している。		
3. ローン返済	(*)	**			
4. 歯科医業経費増	****	****			
5. その他		**			
Q21SQ2. その社会的背景 1. 住民数の減少のため	**	**			
2. 駐車場が必要に	(*)	**			

2) 東京都における地域特徴

ここでは東京都における歯科医師の疲労に関する多変量解析を行う。

林数量化理論第1類による疲労度の解析

歯科医師の疲労度がどのような要因と関連しているかを知るために、定量的基準変数として30項目について診療後疲労感の有無を尋ねた設問に「はい」と答えた数の総計を採用した。したがって、可能得点分布範囲は0-30点で、得点が高い程疲労度が高いことを意味する。なお、疲労度の平均値は7.09、標準偏差は5.36である。

説明変数として歯科医師の職業活動の基礎となるもの(4変数)、歯科医師としての職業活動に対する一般的態度を規定するもの(3変数)、診療の疲労感(3変数)、診療を規定する条件となるもの(4変数)、診療内容にかかわるもの(3変数)、診療所の経営状態を示すもの(7変数)、現在の診療制度・運用に関するもの(6変数)、開業歯科の今後の見通し(1変数)の計31変数を選んで、林数量化第1類によって解析した。その計測結果が図3-2-2である。なお、外的基準変数との間の重相関係数(R)は、0.5628であり、説明率を表す決定係数(R²)は0.3165である。すなわち、31個の説明変数によって疲労度の約32%が説明されることを意味している。この数値はかならずしも十分ではないが、今後の分析の重要な手掛かりとなるものと考えられる。

図3-2-2は31説明変数の各カテゴリー・スコア(category score)とレンジ(range)、偏相関係数(partial correlation)、レンジの大きさの順位、さらにカテゴリー・スコアの方向と大小関係を図示した棒グラフを示してある。右の正の方向へグラフが伸びる程、疲労度の高さに影響する度合いが大きいことを表し、左の負の方向は疲労度が負に相関することを意味している。

まず、カテゴリー・スコアを見ると、正の方向に最も大きい数値を示しているカテゴリーは、「診療中の疲労感」における「疲れる」であり、次いで「診療後」の「疲れる」であるが、これらは疲労そのものの変数であるから当然の結果といえる。その他では「経営が悪化した理由」で「借入金の増大によるローン返済のため」を選択したカテゴリー・スコアがかなり高い数値を示している

ことは極めて示唆的である。歯科医院経営のために借入金の増大が必至の状態であり、そのために疲労度を高めるような診療活動を強いているのではなかろうか。また、このことは「経営状態」の「最近開業して比較できない」のカテゴリー・スコアが高い数値を示しているのも同じような条件が働いているように思える。

反対に、疲労度にマイナスに作用する、つまり疲労度を促進しないカテゴリー・スコアの大きいものは、まず当然「診療後」に「疲れない」ことである。それ以外で注目されるのは、「診療件数の多い順」で一番多いものとして「外科」を選択したことであるが、これがどういうことを意味するのか今後の検討事項となろう。また、「今後の見通し」の「見通しが明るい」と高い相関あるのは納得できる結果であろう。

次にレンジの大きさの順位10位までを選んで説明を加える。これによって、31説明変数のうちどの変数が疲労度にどれだけ深く関わっているかを知ることができる。レンジは各説明変数のカテゴリー・スコアの最大のスコアと最小のカテゴリーとの差をとったもので、この値が大きい程、その変数が重要であることを意味している。

- (1) 診療中の疲労感 (3.2491)
- (2) 診療後の疲労感 (3.0596)
- (3) 経営悪化理由(借入金) (2.5618)
- (4) 経営状態 (2.3433)
- (5) 診療件数の多い順(一番多いもの) (1.8731)
- (6) 経営悪化理由(その他) (1.7183)
- (7) 診療前疲労度 (1.6408)
- (8) 歯科開業の今後の見通し (1.6336)
- (9) 建物の様式 (1.4876)
- (10) 経営悪化理由(歯科医業経費の割合が大きくなったため)

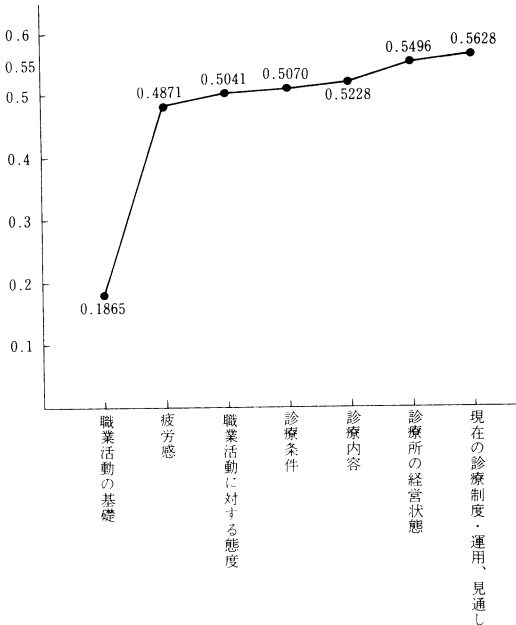
次に、上記の31の説明変数を既述の9つの変数群に分けたが、疲労度に対する回答者間変動を説明する上でどの群がどれほどのウェイトをもつかを、ステップワイズで計算した重相関係数の推移を図示することによって示したのが図3-2-3である。この推移から当然ながら疲労感のウェイトが大きいことが分かる。(遠藤)

図 3-2-2 「疲労度得点」を外的基準とした数量化Ⅰ類による計測結果

	説 明 変 数	カ テ ゴ リ ー	ス コ ア	レ ン ジ (偏相関) (順 位)	負←カテゴリー・スコア→正 -0.5低 疲労得点 高0.5
職 業 活 動 の 基 礎	年齢層	活躍期(20, 30, 40歳台)	.2786	.5236 (.044)	
		完成期(50歳以上)	-.2450	<21>	
	開業資金	自己資金＋親からの継承 借入れ	.0244 .0653	.2124 (.018)	
		自己資金と借入れ半々＋その他	-.1489	<28>	
	設立期	戦前―昭和33年 昭和34年―昭和49年 昭和50年―現在	-.0629 .0058 .0068	.0692 (.007) <31>	
職業活動に対する態度	職業選択動機	積 極 的	.2229	.4139 (.044)	
		消 極 的	-.1910	<25>	
	職業満足度	満 足 普 通 不 満	.0465 -.7012 .3460	1.0472 (.077) <15>	
		収入満足度	満 足 普 通 不 満	-.5313 -.0202 .2089	.7402 (.059) <17>
疲 労 度	診療前疲労感	疲 れ る 普 通 疲 れ ない	1.4841 -.0287 -.1567	1.6408 (.075) <7>	
	診療中疲労感	疲 れ る 普 通 疲 れ ない	2.3261 -.9230 -.5405	3.2491 (.2596) <1>	
	診療後疲労感	疲 れ る 普 通 疲 れ ない	.9493 -1.1135 -2.1103	3.0596 (.2342) <2>	
診 療 条 件	単 複	1 人	.0339	.0907 (.009)	
		複 数	-.0568	<30>	
	患者数	1人～20人	.2108	.4043 (.040)	
		それ以上	-.1935	<26>	
	診療時間	1～7時間	.0624	.1014 (.009)	
	それ以上	-.0390	<29>		
	休憩時間	1時間	.3692	.6260 (.062)	
		それ以上	-.2568	<20>	
	診 療 内 容	子供の患者の歓迎度	歓迎する	.0455	1.1680
差をつけない			.2855	(.099)	
歓迎しない			-.8825	<13>	
高齢者の患者の歓迎度		歓迎する	.1664	.5210	
		差をつけない	.0024	(.026)	
診療件数の多い順 (1番多いもの)	保 存 補 綴 外 科 その他	.1511 -.1350 -1.7220 -1.4661	1.8731 (.089) <5>		

	説 明 変 数	カ テ ゴ リ ー	ス コ ア	レンジ (偏相関) 〈順 位〉	負←カテゴリー・スコア→正 -0.5 低 疲労得点 高 0.5
診 療 所 の 経 営 状 態	適正経営規模	多すぎる	.0280	.3496	
		適 正	-.0696	(.018)	
		もっと多くてもよい	.1619	〈27〉	
	経営状態	5年前とくらべてよくなった	.3905	2.3433	
		5年前とくらべてかわらない	.5993	(.103)	
		5年前とくらべてわるくなった	-.4360		
		最近開業で比較できない	1.9073	〈4〉	
	悪くなった理由 (患者数が減少 したため)	選 択	.6701	1.0149	
		非選択	-.3448	(.082) 〈16〉	
	悪くなった理由 (1人当りの治 療費が減少した ため)	選 択	.9754	1.3465	
		非選択	-.3711	(.117) 〈16〉	
	悪くなった理由 (借入金の増大 によるローン返 済のため)	選 択	2.4250	2.5618	
		非選択	-.1368	(.118) 〈3〉	
現 在 の 診 療 制 度 ・ 運 用	診療時間の変更	実施している	.6648	.7355	
		考えない	-.0707	(.043) 〈18〉	
	休診日の変更	実施している	1.2925	1.3716	
		考えない	-.0791	(.067) 〈11〉	
	予約診療の有無	実施している	.1329	.7321	
		考えない	-.5992	(.055) 〈19〉	
	スタッフの増員	実施している	1.0263	1.1116	
		考えない	-.0853	(.062) 〈14〉	
	自費増加に向け ての診療方針の 変更	実施している	-.3714	.4479	
		考えない	.0765	(.034) 〈24〉	
	保険診療増加に 向けての診療方 針の変更	実施している	-.4655	.5019	
		考えない	.0364	(.028) 〈23〉	
見 通 し	今後の見通し	見通し明るい	-1.5111	1.6336	
		どちらともいえない	.1225	(.065)	
		見通し暗い	.0378	〈8〉	

図3-2-3 各ステップの重相関係数の推移



3) 愛知県における地域特徴

「年齢層」別にみると30代と40代で73%を占めており、その診療所での診療従事年数「9年未満」は4割弱と総体的に中年層が多い形がでている。(親の代から数えての)診療所の設立時期は「昭和50年以降～現在まで」は55%と東京都、大阪府に比べれば比較的近年の設立が多いが、沖縄県の71%、鹿児島県の66%にくらべればそう多いともいえない。「診療所所在地」は3分の2が住宅地に位置しており、「建物の型」は住宅と診療所の「併設」が54%でビル・マンション内事務所型は20%と東京都、大阪府に比べて少ない。隣接診療所「100米以内」は26%と他地域に比べれば最も少ないほうの比率である。歯科医師1人当たりの「1日平均患者数」は、「20人以下」が32%、「40人以上」が22%と大阪府と似た構成を示してる。1日平均の「診療時間10時間以上」の比率も10地域中大阪府について高く11%である。

職業満足感は「満足」者43%、「不満」者32%で全調査地域の丁度平均に近いところに位置している。収入満足感は、「満足」者は23%でこれも平均的な状況であるが、「不満」者56%は全地域の中ではやや高い比率である。

患者に接する態度で「患者の求めについての知

覚」では、「ていねいに説明する」との回答比率は44%で、尼崎市と並んで全調査地域中最も低い割合を示しており、「人間関係を重視する」も同様に低い割合である。患者に対する態度では、「子供の患者を歓迎する」が23%で第1次調査地域中最も高い割合であり、来院患者中子供患者の割合が3割以上のところが24%というのは、相対的に診療所数が多い地域での診療所の診療哲学と住民の人口構成との両者があいまってのことであろうか。「高齢者患者を歓迎する」27%も、北海道と鹿児島県が30%台、沖縄県が28%であるのに続いて高い数字である。しかし、来院高齢者患者比率「30%以上」が26%は、他の全地域からみれば低いほうである。「かかりつけ患者」が「90%以上」の割合をみると、愛知県は東京都26%に次ぐ22%でありその比率は高いほうである。「保険のみの患者」が「99%、100%」、いわば来院患者がすべて保険のみ患者であるとの回答割合は、東京都14%に次いで愛知県20%と全調査地域では低いほうから2番目である。

「新しい専門知識の受入れ先」は、他の地域と同様に、「学術研修会」が53%と最も高い比率であり、「歯科医師会の指導」「専門図書から」がそれぞれ16%である。

診療所の1日当たりの患者数の「適正規模」について、患者数が「多すぎる」は2割、「もっと多くてよい」3割弱との数字が出ている。診療所の最近の「経営状態」は「よくなった」11%、「悪くなった」61%であり、悪くなった理由としては、「患者数の減少」と「歯科医業経費の割合が大きくなった」の2つに多くの答えが集まっている。悪化の社会的背景として、愛知県で回答比率の高い順に3つあげると、「近接地に診療所ができたため」「物価高、人件費高騰のため」「保険制度改訂のため」となっている。診療制度・運用について、愛知県は「予約診療の実施」が88%、「リコール制実施」35%と各地域中最も高い。「開業歯科の今後の見通し」については、「明るい」3%、「どちらともいえない」29%、「暗い」67%となっている。(西山)

4) 大阪府における地域特徴

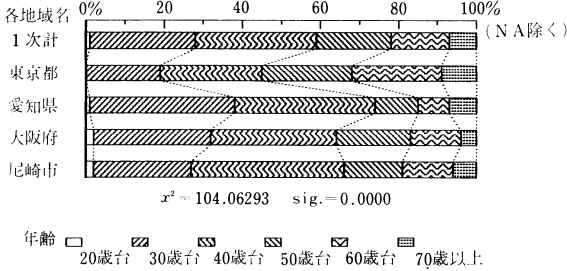
ここに示す大阪府は、調査の概要でふれたよう

に三大都市圏の一つで、その調査対象地域を示しておけば、大阪市北部(10区)、大阪市南部(16区)と大阪府下(29市)である。ここでは大都市と地方都市の歯科医療の観点から、その地域別特徴を概況づけることを目的としている。

大阪府の歯科医師の年齢層は、図3-2-4 から

図3-2-4 地域別にみた歯科医師の年齢層 (F 1)

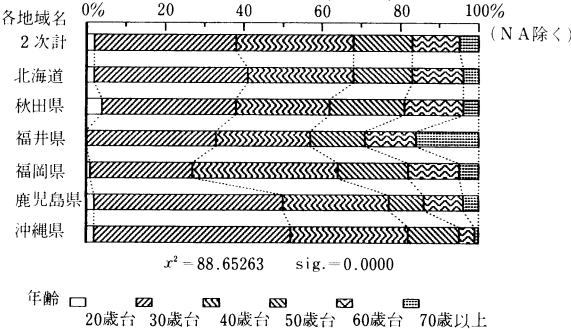
(1次調査合計 1,501人)



みると30歳台と40歳台で全体の62.1%を占め、この比率は全調査地域での同年齢層の平均61.7%に近い数値となっている。この同年齢層で比率の高い地域は他の地域でもみられ、1次調査の愛知県(73.1%)、尼崎市(64.8%)、2次調査の沖縄県(80.5%)、鹿児島県(75.1%)、北海道(66.3%)、福岡県(62.8%)である。(図3-2-5) 開業医

図3-2-5 地域別にみた歯科医師の年齢層 (F 1)

(2次調査合計 1,183人)



の開設時の開業資金調達状況は、大阪府は57.8%にあたる257人が「主として借入金」で最も高い比率。東京都は45.3%にあたる236人が最も高い比率である。この借入金比率の高い地域(50%以上)を次に図3-2-6、7からみると、1次調査の愛知県(55.2%)、2次調査は全地域すべてを数え、その中で沖縄県は82.9%で全調査中最も高い比率である。診療所の設立時期(親の代から数えて)で

図3-2-6 地域別にみた歯科医師の開業資金状況 (F2 SQ)

(1次調査合計 1,429人)

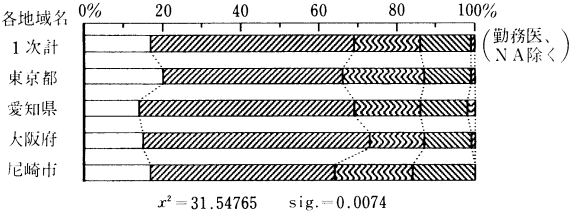
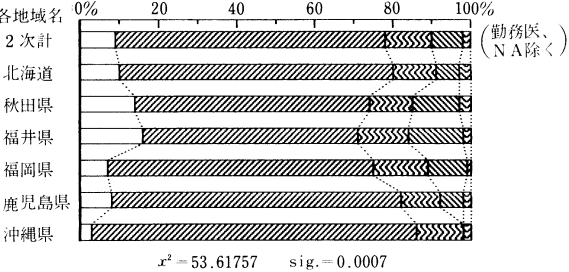


図3-2-7 地域別にみた歯科医師の開業資金状況 (F2 SQ)

(2次調査合計 1,108人)



は、大阪府は「昭和50年から同60年まで」の比率が33.8%と最も高い。ちなみに東京都は「昭和34年から昭和49年まで」の比率が30%と最も高い。父親の職業については、大阪府は「歯科医師」とする人は35.9%、東京都は39.8%で両地域ともおよそ3人に1人の割合となっている。

診療所の所在地は「住宅の地域」が54.4%、「それ以外」44.8%でこの比率は東京都とほぼ同じ割合となっている。また、2次調査地域は「住宅の地域」の比率は高いが、「それ以外」の比率は1次調査に比べると全体的に低い。このことは大都市と地方都市の様相の違いによるのであろうか。診療所の建物の特徴については、前掲の図3-1-13に示すように、大阪府は「ビル又はマンションの中の事務所形態」の比率が全体として最も高く41.4%、東京都は41.1%である。しかし、2次調査の沖縄県は49.2%で全調査中最も高い。一番近い診療所との距離「100米以内」は1次調査の大阪50.7%、東京56%で半数以上が近接状態にあり、これに対して、2次調査の北海道、福井県、福岡県、沖縄県は「100米～500米」の比率がそれぞれに半数を超え、1次調査結果と対照的である。(前掲図3-1-14参照)

一日の適正な診療時間は、1次調査の4地域ともそれぞれ「6時間」の回答比率が最も高く、大阪府は40.1%、東京都は40.3%である。西の中核都市福岡県は、その比率は32.3%と意外と低い。なお、次頻値の「7時間」は沖縄県の比率35.9%が全調査中最も高い。(前掲図3-1-16参照) 一日の平均診療時間は、1次調査地域は「8時間」が37%台から40%台でそれぞれに最も高い。また、診療時間「10時間以上」の比率は大阪府が11%と全調査地域中最も高く、10人に1人の割合で長時間診療が行なわれている。(前掲図3-1-18参照) 一日の平均休憩時間は、前掲図3-1-19に示すように、「2時間」の比率が最も高く、大阪府は46.7%、東京都は43.5%である。また、休憩時間「1時間」は2次調査の福井県の比率50.9%が全調査中最も高い。診療所の歯科医師構成は「歯科医師は自分を含めて1人」の比率は大阪府65.8%、東京都63.2%であり、また、「歯科医師は自分を含めて2人以上」の比率は東京都が36.6%と全調査中最も高い(大阪は33.5%)。このことからこれらの地域に経営規模の大きい診療所が多いことがうかがえる。

歯科医師への職業選択動機は「親が歯科医師だったから」24.2%で最も高く、4人に1人の割合、これに対して、東京都は28.2%が最も高く、およそ4人に1人の割合である。なお、「経済的に高い収入が期待できるから」という経済的動機は大阪府3%、東京都2%で1次調査の中ではともに低い比率である。現在の職業満足感は「大いに満足」と「まあ満足」をあわせると、大阪府は40.8%、東京都は51.7%でそれぞれが最も高いが、これを全調査地域でみると沖縄県が54%と最も高い。現在の収入満足感は、大阪府は、「満足」組20%、「不満」組58.2%で不満組が満足組を大きく上回っている。また、この不満組の比率は全調査地域中最も高く注目される。患者に接する態度は回答比率の最も高いのは、「なるべく痛くないように治療する」57.7%で、この大阪府の比率は東京都と同じ比率(57.5%)である。また、2次調査の沖縄県では80.5%で全調査中最も高い比率。大阪府の高齢者(65歳以上)患者については「歓迎するほうだ」24%で、その比率は1次調査地域中高い方である。ちなみに東京都は17.1%である。新専門知

識の受け入れは「学術研修会」の比率が最も高く、大阪府の比率は44.4%、2人に1人が新専門知識受け入れのルートとしている。診療所の経営状態は「5年前にくらべて悪くなった」62.8%で、この比率は東京都の64.1%について高い。一方、「よくなった」は8.7%で11人に1人の割合で大阪府の多くの歯科医は経営状態は悪くなったとしている。そして、この経営が悪化した理由は「患者数の減少」(66.2%)「歯科経費の割合増」(52.7%)「患者1人当りの治療費の減少」(34.1%)の順位で、この大阪府の順位は東京都も同じ順位である。開業歯科の今後の見通しは「見通しは暗い」76.6%で、大阪府は1次調査中で最も高い比率となっている。なお、この項で示した図表以外での説明はすべて統計表によった。以下別項での説明も同じである。(牧)

5) 兵庫県尼崎市における地域特徴

尼崎市の回答比率にみる数字的な特徴は、職業的条件においては東京都に、態度項目においては愛知県に類似しているところがある。しかし、相対的には、第1次調査の3都府県に比べて尼崎市の回答構成比率がしばしば異なるために、第1次調査の地域間における有意水準の差を大きくしているといつてよい。

職業的条件で、「開業資金出所」が「主として自己資金」「親・親戚からの譲り受け」の両者を合計すると開業医の33%となり、この合計比率は東京都と並んで全調査地域の中で最も高い比率である。ちなみに父の職業が「歯科医師」は4割弱で東京都と並んでおり、秋田県4割強と並んで、何れも歯科医業の経営基盤の古さを感知させるものである。「1日平均診療人数」は隣接地域の大阪府に比べて少ないほうへ比率が傾いている。「1日平均診療時間数」で「9時間以上」の割合は、少ないほうからの比率でみれば秋田県12%、福井県16%に次いで尼崎市17%と全地域中の3位である。「診療後の自覚疲労度」は全地域中、数字からみる疲労状況は、最も疲労程度が少ないといえる。

「職業満足感」は「満足」者と「不満」者比率の割合は全体のほぼ平均に近いところに位置している。患者に接する態度で「患者の求めに対する知覚」では「なるべく痛くない治療」を3分の2の

人が選んでいる。「子供の患者を歓迎するか」については、「歓迎する」「歓迎しない」がそれぞれ2割程度を占めており、「どちらかといえば歓迎したくない」比率は全地域中最も高い。「かかりつけ」患者率が「90%以上」は17%、「保険のみの患者」が「99%・100%」は25%である。「新しい専門知識の受入れ」は「学術研修会」4割、「専門学術図書」と「歯科医師仲間から」がそれぞれ2割強であり、「歯科医師仲間から」の2割強は他地域に比べて多い数字である。

診療所の1日当たりの患者数の「適正規模」について、尼崎市は「多すぎる」は11%で全10地域中最低であり、「もっと多くてよい」が29%である。診療所の「経営状態」は、「5年前にくらべて悪くなった」が61%は全地域の平均的な割合といえよう。「経営悪化」の理由としては、「患者数」減少と答えた人が全回答者(N=166)の34%であり、他地域にみる「歯科医業経費の割合が大きくなったため」とする人の割合はここでは11%と10地域中最低の比率である。現在の診療制度・運用について、他地域と異なっている点では、「リコール制の実施」が21%、「一人法人化」の実施率2%とそれぞれに最低の比率である。「開業歯科の今後の見通し」は「明るい」は僅か0.6%、「どちらともいえない」が34%、「見通しは暗い」が63%であるが、「見通しは暗い」は他の地域が70%前後から80%近くを示しているのに比較すると、まだその比率はいくらか少ないといえる。(西山)

6) 北海道における地域特徴

年齢層は30歳台が最も多く38.9%、ついで40歳台の27.4%で、両年齢層をあわせると66.3%、三分の二で、この比率は全調査地域での同年齢層の平均61.7%を超えた数値である。次に、開業医の開業時の開設資金出所は「主として借入金」の比率が最も高く70%で、この比率は沖縄県、鹿児島県につぐ高い比率である。診療所が設立された時期は「昭和50年から昭和60年まで」の比率が最も高く34.7%、北海道では経済成長期に新期設立が増えたようである。診療所の従事年数は比率の最も高い「3年から9年」からと次に比率の高い「10年から19年」をあわせると55.8%で、この北海道の比率は2次調査地域の中で高い方となっている。

父親の職業「歯科医師」29%は沖縄県の14.8%について低いものである。診療所の所在地は「住宅地域」の比率64%は高い方、これに対して、「住宅地以外」をみるとその比率は35.6%で2次調査地域中、福岡県(38.3%)について高い。このことは札幌市などの開業が多いためであろう。診療所建物の特徴は「住宅と併設の診療所」の比率57.4%が最も高く、ついで「ビル又はマンションの中の事務所形態」の比率20.8%は福岡県の25.4%につぐ高い比率である。一番近い診療所との距離「100米以内」をみると、この比率は35%で福岡県の36%について高い比率である。北海道に都会での近接状態がうかがえる。診療所の歯科医師構成は「歯科医師は自分1人」が最も高く、その比率は72.9%である。現在の医院構成は、歯科技工士「1人」の27.4%は2次調査地域中最も低く、これに対して、歯科衛生士の「1人」の30.4%は2次調査地域中沖縄県の38.3%、福井県の38%について3番目に高いもの。北海道の歯科衛生士は3医院に1医院の割合である。

一日の適正な診療時間は「6時間」が36.3%、全体の三分の一以上を占め、これに対する一日の平均診療時間は「8時間」42.9%が最も高く、これによる時間差は2時間である。また、一日の平均休憩時間は「2時間」が48.5%、およそ半数の医院が2時間としている。

歯科医師への職業選択動機は「専門知識が生かせる仕事だから」25.7%、4人に1人の割合で北海道は「親が歯科医師だったから」とする東京都や大阪府の動機とは大きく異なっている。現在の職業満足感「満足」者47.9%、「不満」者31.7%で、後者の不満組は2次調査の不満の平均比率31.5%に近い。次に、現在の職業観はその回答比率の高い順位をみると、1位「専門知識・技術が生かせる仕事」(69.6%)、2位「社会に奉仕できる」(53.1%)、3位「口腔を健康にする創造的な仕事」(36%)と「年をとっても自主的に仕事ができる面白い仕事」(36%)で、北海道の歯科医師の職業感「専門職志向型」と思われる。現在の収入満足感「満足」の組27.7%、「不満」の組46.9%で、この後者の比率は2次調査の6地域中5番目となっている。患者に接する態度は回答比率の最も高い項目は「痛くないように治療する」が6割、次

に比率の高い「人間関係を重視する」は4割で、人間関係重視の姿勢もうかがえる。高齢患者については、「歓迎するほうだ」とする比率が37.3%で、この比率は全調査地域中最も高い比率となっている。新専門知識の受け入れは半数以上の52.8%が「学術研修会」をルートにしている。診療所の経営状態は「5年前に比べて悪くなった」57.4%、その経営悪化の理由に「患者数の減少」が最も高くその比率は68.4%、約7割である。そして、経営悪化の社会的背景では「近接地に診療所ができたため」53.4%が最も高く、北海道の経営に厳しい現状がうかがえる。最後に、開業歯科の今後の見通しについてみると「見通し暗い」とする比率が72.6%、7割を占めている。終りに、北海道の調査対象は道内の17歯科医師会である。(牧)

7) 秋田県における地域特徴

年齢層は30歳台が34.3%でもっとも比率が高く、次いで40歳台が24.1%、50歳台が19.0%と続いている。サンプルが小さいので便宜上20歳台と30歳台を活躍期(48人、37.2%)、40歳台以上を完成期(81人、62.8%)としてまとめて、他の項目とのクロス集計を行った。

こうしてまとめた年齢層間で統計的に有意差が見られる項目に着目して特徴を調べれば、先ず表3-2-8に示すように開業資金に関しては予想通り年齢が低くなる程「借入」率が上昇している。これに対して完成期において「親からの継承および

表 3-2-8 開業資金 (%)

	自己資金+親	借入	半々	計
活躍期	4.2	87.5	8.3	100
完成期	39.5	43.2	17.3	100

自己資金」率が高くなっている。

また診療所の設定期について完成期の42%が昭和33年までに診療所を設立しているのに対して、活躍期の80%が昭和50年以後に診療所を設立している。

興味ある特徴として年齢層によって父親の職業に関して傾向差が見られる。つまり、父親が歯科医師である割合が活躍期の場合20%であるのに対して、完成期では47%であり、活躍期の場合父親が歯科医師および医師ではない他の職業である割

合が69%である。

表3-2-9は患者数に関するデータである。これによると、明らかに年齢の低い層の方が多くの患者を抱えていることが分かる。これは先の開業資金で若い層程「借入」率が高いことと関連してい

表 3-2-9 患者数 (%)

	1-30人	31人以上	計
活躍期	28.8	71.2	100
完成期	61.0	39.0	100

るように見える。

表3-2-10は経営の適正規模に関するものである。これは明らかに患者数と関連しており、年齢

表 3-2-10 適正規模 (%)

	多すぎる	適正	もっと多くてよい	計
活躍期	44.2	46.2	9.6	100
完成期	23.2	48.8	28.0	100

の低い層の44%が「多すぎる」としている。

表3-2-11は現在診療制度・運用の予約診療の有無に関するデータである。この結果は若い年齢層の診療所では94.4%が既に実施している。それ

表 3-2-11 予約診療の有無 (%)

	実施している	考えない	将来考える	計
活躍期	90.4	5.8	3.8	100
完成期	58.3	38.1	3.6	100

に対して完成期では実施率が58%である。

リコール制については完成期では35%が「考えない」としているのに対して活躍期のそれは17.6%とどちらかといえば若い年齢層の方がこの制度に積極的であるようである。

自費増加に関する動向結果によると、「将来考える」割合は活躍期の年齢層の方が高くなっている。これも年齢層によって診療所に与える経営条件の違いを示唆しているといえよう。(遠藤)

8) 福井県における地域特徴

年齢層別では、30代が33%で最も多いが、70歳以上の比率は16%で10地域中最もその比率が高い。開業医の開業資金出所では、そのうちの14%が「親・親戚からの譲り受け」である。診療所の設立時期(親の代から数えて)は「戦前から(昭

和20年8月以前)」が26%、「そこでの診療従事年数30年以上」は28%、父の職業が「歯科医師」は43%であり、歯科医師への職業選択動機において「親が歯科医師だったから」が35%と、これらの比率は10地域中最高の比率である。これらの数字から推察すると、福井県における歯科医業は他地域以上に家業継承的性格が強い傾向があることを示唆するものではあるまいか。診療所の所在地「住宅地域」は4分の3、診療所の建物が「独立診療所」は29%で秋田県と類似した形を示している。

福井県は人口10万人対歯科医師数が全国最下位である。歯科医師1人当たりの1日診療患者数は、「20人未満」2割強、「21～30人」が5割弱、「40人以上」が3割弱であり、秋田県の「40人以上」4割弱であるのにくらべれば若干少ない比率であるものの、この診療人数をこなしている歯科医師比率は他地域より高いほうである。

「職業満足感」で「満足」者は55%、「不満」者は20%と、全地域中、満足者が最も多く、不満者が最も少ない形がでている。

患者に接する態度での「患者の求めに対する知覚」では、福井県はかなり特徴的であり、各回答肢への選択比率が全地域中最高であるのは「人間関係を重視する」51%と「最新の技術を応用する」12%である。逆に、最低の比率を示したものは「ていねいに説明する」35%、「治療費をできるだけ安く」14%となっている。「大人と子供はあまり差をつけない」「高齢者との年齢者に差をつけない」という回答は全地域中最高の比率を示しているが、同時に「子供の患者を歓迎しない」が18%あるのは、歯科医師の年齢構成から来た数字も関係しているのではあるまいか。（前掲図3-1-30にみるように若・中年層は子供患者を歓迎する比率が高年齢層より高い）来院患者のうち「かかりつけ」の割合「80%以上」は44%で、東京都に次いでその比率が高い。「保険のみの患者」の割合「90%以上」は75%で第2次調査地域での平均的などころである。

診療所の1日当たりの患者数の「適正規模」は、「多すぎる」28%、「少なすぎる」19%であるが、「多すぎる」とする人の比率は秋田県の31%に次いで全地域の中で高い比率である。診療所の経営状態で「5年前にくらべて悪くなった」が57%あ

るものの、「5年前とくらべてよくなった」とする人も13%あり、7.7人に1人が良くなったとしているのは、全10調査地域中最も高い割合である。開業歯科の今後の見通しについて、「見通しは暗い」が62%、「見通しは明るい」が7%であるが、この7%は全地域中最高の比率である。（西山）

9) 福岡県における地域特徴

年齢層別では、40代が37%、30代が26%と40代の割合が高い。開業医の開業資金出所は「主として自己資金」が7%であるのは沖縄県に次いで少ない比率であり、その他方で「主として借入金」が69%となっている。診療従事年数からみても福岡県の場合は経済高度成長期以降に新規開業が促進されたと思われる。福岡県の診療所所在地は、「住宅地」6割、「それ以外」4割で、商業地域やビジネス街への立地が比較的多いといえる。なお建物の形態は「ビルまたはマンションの中の事務所形態」は25%である。「1日の平均診療時間」の「9時間以上」は36%と鹿児島県と並んで長時間診療精励者の比率が高い。診療後の「自覚疲労症状」のスコアも総体的に高いほうである。

現在の「職業満足感」は「満足」者46%、「不満」者34%であった。「収入満足感」は「満足」者20%、「不満」者58%であり、この不満者比率は大阪府、東京都、愛知県、鹿児島県と並んでほぼ同率の数字である。

患者に接する態度での「患者の求めに対する知覚」では、「痛くない治療」61%、「ていねいな説明」54%、「人間関係を重視」46%と他地域の平均にほぼ近い数値を示している。「かかりつけ」患者の割合が「80%以上」は40%、「保険のみ」の患者「90以上」は85%でこの数字も平均的であるといえる。診療所の1日当たりの患者数の「適正規模」については、「多すぎる」は17%で、尼崎市を除いて、調査先都道府県では最低の比率であり、「もっと多くてよい」31%は高いほうの比率である。診療所の「経営状態」が「5年前にくらべて悪くなった」は64%で、この比率は東京都や大阪府と同様の比率である。悪くなった理由としては「患者数の減少」と「歯科医業経費の割合が大きくなったため」が大きく、経営悪化の社会的背景としては、「近接地に診療所ができたため」が36%、次いで

「物価高・人件費高騰のため」31%、「保険制度改訂のため」26%とこの3理由の比率が高い。

現在の診療制度・運用について「予約診療」を「実施している」は56%で全調査地域中最低の比率である。しかし、予約制度そのものの是非については、患者の中には来た順番の制度がよいと考えている人もいるから、この数字は土地柄を現わしているのかもしれない。「開業歯科の今後の見通し」は「明るい」とする人が3%で、「暗い」とする人は73%と回答パターンは他地域と類似している。(西山)

10) 鹿児島県における地域特徴

まず、同県の調査対象は県内の15歯科医師会である。年齢層は30歳台が最も高く47.8%、ついで40歳台27.3%で、この両年齢層をあわせると75.1%である。開業医の資金出所は「借入金」の比率が同県全体として最も高く73.6%、また、この比率は沖縄県の82.9%の同比率につぐもので、換言すれば全調査地域の2番目に高い比率である。診療所の設立時期は「昭和50年から昭和60年まで」の比率が最も高く41%で、このことから鹿児島県は近年の設立が多い。また、診療所での従事年数は「3年から9年まで」の比率(36%)が最も高く、次に高い「10年から19年まで」の比率(29.8%)を合計すれば65.8%で、同県全体の約三分の二を占めている。父の職業は「歯科医師」とする比率は31.7%、これは2次調査の歯科医師の平均の比率(32.3%)に近い数値である。

診療所の所在地は「住宅の地域」が最も高く75.8%、この比率は秋田県の比率78.1%につぐ高い比率である。建物の特徴は「住宅と併設の診療所」が最も高く58.4%、ついで「独立家屋の診療所」の24.2%、そして「ビル又はマンションの中の形態」の14.9%である。このビル等の比率は7診療所に1診療所の割合である。次に、一番近い診療所の距離は「100米～500米」の比率47.8%が最も高い。この点からみると鹿児島県は近接状態が少ない県といえよう。診療所での歯科医師構成は「歯科医師は自分含めて1人」67.1%、三分の二以上、「歯科医師は自分含めて2人以上」32.9%、約三分の一、この割合は福岡県とはほぼ同じ比率である。

一日の適正な診療時間は「8時間」の比率が最も高く32.3%、歯科医3人に1人の割合である。一日平均の診療時間は「8時間」が50.9%と半数を超えており、鹿児島県のこの比率は沖縄県、福岡県について高い比率である。一日の平均休憩時間は「2時間」56.5%が最も高い比率で、この比率は沖縄県、秋田県とほぼ並ぶもの。現在の医院構成は歯科技工士と歯科衛生士の人数に特徴がみられ、まず、歯科技工士の「1人」の比率は44.7%で、最も高い比率であるが、この比率は全調査地域中最も高い。次に歯科衛生士は「1人」の比率26.7%、ついで「2人」の比率が24.2%で、この比率は全調査地域中最も高い。

歯科医師への職業職選択動機は「親が歯科医師だったから」が最も高く26.1%、約4人に1人の割合、ついで「専門知識が生かせる仕事だから」の比率が高く18%、そして「社会に奉仕できるから」14.3%となっている。現在の収入満足感には「満足」者20.5%、「不満」者57.1%で、前者の満足者の比率は2次調査の中の福岡県の比率(19.9%)について低く、これに対して、後者の不満者の比率は2次調査地域で比率の最も高い福岡県(57.7%)につぐ数値となっている。鹿児島県は収入に不満とする歯科医師が大変に多いことがうかがえる。高齢者患者とその割合については、「歓迎するほうだ」が32.9%で、約三分の一を占め、「どちらかといえば歓迎したくない」は3.1%でこの比率は沖縄県と同率の低い数値である。高齢者患者の割合は「10%～19%」の比率が最も高く36.6%、ついで「20～29%」が高く31.7%でこの両比率の合計は68.3%、三分の二以上となっている。また、この比率は全調査地域中で沖縄県の75%につぐ二番目に高い比率である。新専門知識の受け入れは59%が「学術研修会」で、この比率は全調査地域中最も高い比率である。これに対して「歯科医師会の指導」は6.2%で全調査地域中最も低い比率で、鹿児島県は歯科医師会の指導はあまり働いていないようである。診療所の経営状態は「5年前にくらべてわるくなった」の比率が最も高く54.7%、約半数で、これに対して「5年前とくらべてよくなった」とする人は僅少の5.6%、しかもこの比率は全調査地域中秋田県の2.9%について低いものである。また、5年前とくらべて悪

くなったとする回答者の経営悪化の理由をみると同県では「患者数の減少」(67%)と「歯科経費の割合増」(47.7%)が高く、前者の比率は北海道の68.4%、沖縄県の68.5%、に並ぶ数値で、後者の比率は1次調査の東京都の48%に近い数値である。そして次に、経営悪化の社会的背景をみると、その原因として「近接地に診療所ができたため」61.4%が最も高く、ついで「物価高による人件費増」47.7%が高い。そして、歯科医業の経費割合の比率の1位、2位、3位のそれぞれに最も高い比率をみると1位は給与の67.7%、2位は外注技工料の18.6%、3位は歯科材料、薬剤等の26.1%で、このなかの1位の給与の比率は沖縄県の73.4%、秋田県の68.6%について高い比率となっている。現在の診療制度、運用については、設問のなかの「リコール制の実施」の「将来検討」の比率36.6%は、全調査地域中で沖縄県の43%、秋田県の41.6%について鹿児島県は高く注目される。歯科医業の将来の見通しについては「見通し明るい」は1.9%、「見通し暗い」は75.8%でここでも厳しい経営の現状をのぞかせている。(牧)

11) 沖縄県における地域特徴

沖縄県の年齢層の構成は30歳台が50%でもっとも多く、次いで40歳台の30.1%となっている。秋田県同様20歳台と30歳台を活躍期(65人、52%)として、そして、40歳以上を完成期(60人、48%)としてまとめ、他の項目とのクロス集計で統計的に有意差のあるものを中心に考察したい。

まず表3-2-12は他の診療所がどれだけ近接地に開業しているかについて年齢層による違いを示すものである。これによると、新しく開業した活躍期の診療所は、古くから開業している完成期の診療所に比べ近接距離が遠いのが特徴である。完成期の場合、近接距離が100%以内である割合がやや高く、互いに競合していることを示している。

表 3-2-12 一番近い診療所との距離 (%)

	100m以内	100m以上	計
活躍期	22.7	73.3	100
完成期	41.9	58.1	100

世間の評判をどう感じているかについては「評

判がよい」と自認している割合は、年齢層にやや差があり、活躍期の年齢層が19.7%であるのに対して、完成期では33.9%であることにそれが表れており、やはり経験を積んだ完成期の歯科医師の方々のある種の自信を示唆するものであろうか。

適正規模については沖縄県に関しては年齢層間に差がないのが特色である。つまり、全体として約半数が「適正である」としているが、「多すぎる」か「もっと多くてよい」とし、11%が「多すぎる」としている。

経営状態について示したものが表3-2-13であ

表 3-2-13 経営状態 (%)

	よく なった	変わら ない	悪く なった	最近 開業	計
活躍期	15.6	12.5	18.8	53.1	100
完成期	8.1	24.2	67.7	0.0	100

る。

この表によれば、特に活躍期の年齢層には最近開業して比較できない診療所が半数以上あるため単純な比較は困難であるが、少なくとも全体として経営状態に対してかなりの危機感をうかがうことができるように思う。

現在の診療制度・運用の予約の有無については秋田県同様完成期の年齢層がこの制度に対してやや消極的であるようである。

また自費増加に関しては、表3-2-14に示すように、活躍期の年齢層の方がこの問題に対して積極的である。これは診療所の経営と関連しているよ

表 3-2-14 自費増加 (%)

	実施している	考えない	将来考える	計
活躍期	15.2	33.3	51.5	100
完成期	11.5	62.3	26.2	100

うである。

その他の項目については年齢層間に目立った差がみられなく、そでは秋田県の場合に比べその差が比較的少ないのが特徴のように見え、その意味で沖縄県ではどちらかといえば年齢を超えて共通の条件が働いているのではないだろうか。これについては今後さらに検討を加える必要があろう。(遠藤)

第 4 章 地域別統計表

第 1 表 調査対象地域、調査実施状況と有効回収票数、有効回収率など

		調査実施期間	(会員名簿による) 歯 科 医 師 数 人	抽 出 率	調 査 票 郵送(配布)数 票	有効回収票数 票	有効回収率 %	回 収 票 地域構成比 %
第 1 次調査合計		1989年12月～ 1990年 3 月	15,347		3,266	1,505	46.1	100.0
第 1 次調査地域	東京都	1989年12月	7,761	⅓	1,547	543	35.1	36.1
	愛知県	1990年 3 月	2,674	⅓	537	325	60.5	21.6
	大阪府	同上	4,912	⅓	968	471	48.7	31.3
	兵庫県 尼崎市	1989年12月	263	歯科医院 に配布	214	166	77.6	11.0
第 2 次調査合計		1991年 3 月	6,600		2,940	1,184	40.3	100.0
第 1 次調査地域	北海道	同上	2,456	⅓	750	303	40.4	25.6
	秋田県	同上	411	全 数	411	137	33.3	11.6
	福井県	同上	273	医院数 推 計	255	108	42.4	9.1
	福岡県	同上	2,474	⅓	752	347	46.1	29.3
	鹿児島県	同上	643	⅔	440	161	36.6	13.6
	沖縄県	同上	343	医院数 推 計	332	128	38.6	11.1

第 2 表 歯科医師(回答者)の年齢層 F1. 先生の年齢は： (%)

	計	1. 20歳台	2. 30歳台	3. 40歳台	4. 50歳台	5. 60歳台	6. 70歳以上	0. 無回答
第 1 次調査合計	N=1505 100.0	0.9	26.9	31.3	18.5	15.3	6.7	0.3
東京都	N=543 100.0	0.4	18.4	26.2	23.2	22.5	9.4	—
愛知県	N=325 100.0	0.6	37.2	35.7	10.8	8.6	6.8	0.3
大阪府	N=471 100.0	1.5	30.1	31.8	19.7	12.7	3.8	0.2
兵庫県 尼崎市	N=166 100.0	1.8	25.3	38.0	15.1	12.7	6.0	1.2
第 2 次調査合計	100=1184 100.0	1.6	36.4	29.9	15.0	11.7	5.2	0.1
北海道	N=303 100.0	2.0	38.9	27.4	14.9	12.5	4.3	—
秋田県	N=107 100.0	3.6	34.3	24.1	19.0	14.6	4.4	—
福井県	N=108 100.0	—	33.3	24.1	13.9	13.0	15.7	—
福岡県	N=347 100.0	0.9	25.6	37.2	17.6	13.3	5.2	0.3
鹿児島県	N=161 100.0	1.9	47.8	27.3	8.7	9.9	4.3	—
沖縄県	N=128 100.0	1.6	50.0	30.5	13.3	3.9	0.8	—

第3表 開業医・勤務医別と開業医の場合の開業資金

F2SQ先生は現在

(%)

	全 体 計	1. 開 業 医 開業医の場合開設時の開業資金は、						2. 勤務医	0. NA
		計	A. 主として自己資金	B. 主として借入金	C. 自己資金と借入金 が半半	D. 親、親 戚から譲り 受け	E. その他		
第1次調査合計	N=1505 100.0	94.0 (100.0)	(16.9)	(51.6)	(17.9)	(12.2)	(1.4)	2.5	2.5
東京都	N=543 100.0	96.6 (100.0)	(20.5)	(45.3)	(20.4)	(12.5)	(1.3)	3.1	0.9
愛知県	N=325 100.0	94.1 (100.0)	(14.1)	(55.2)	(17.0)	(11.1)	(2.6)	3.1	2.8
大阪府	N=471 100.0	94.5 (100.0)	(15.1)	(57.8)	(14.4)	(11.5)	(1.2)	1.9	3.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	94.6 (100.0)	(16.6)	(47.8)	(19.7)	(15.9)	(—)	1.2	4.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	93.6 (100.0)	(8.9)	(68.9)	(12.3)	(7.8)	(2.1)	6.0	0.4
北海道	N=303 100.0	91.4 (100.0)	(9.7)	(70.0)	(11.6)	(5.4)	(3.2)	7.9	0.7
秋田県	N=137 100.0	94.2 (100.0)	(13.9)	(59.7)	(10.9)	(12.4)	(3.1)	5.8	—
福井県	N=108 100.0	91.7 (100.0)	(16.2)	(54.5)	(13.1)	(14.1)	(2.0)	8.3	—
福岡県	N=347 100.0	93.6 (100.0)	(6.5)	(68.6)	(14.2)	(9.5)	(1.2)	5.8	0.6
鹿児島県	N=161 100.0	96.3 (100.0)	(8.4)	(73.6)	(10.3)	(5.8)	(1.9)	3.7	—
沖縄県	N=128 100.0	96.1 (100.0)	(3.3)	(82.9)	(11.4)	(0.8)	(1.6)	3.1	0.8

第4表 診療所が設立された時期(親の代から数えて)

F 3. それでは先生の診療所が設立されたのは何時頃からですか(親の代から続いている場合には、親の代から数えて下さい)。(%)

	計	1. 戦前から (昭和20年 8 月以前)	2. 終戦直後 から昭和23年 まで	3. 昭和24年 から昭和33年 まで	4. 昭和34年 から昭和49年 まで	5. 昭和50年 から昭和60年 まで	6. 昭和61年 以降現在まで	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	11.8	4.7	14.4	25.2	33.8	9.2	0.9
東京都	N=543 100.0	14.0	5.9	18.0	30.0	26.7	5.0	0.4
愛知県	N=325 100.0	11.1	5.8	10.5	16.6	44.6	10.8	0.6
大阪府	N=471 100.0	10.4	2.8	13.4	25.9	33.8	12.1	1.7
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	10.2	4.2	12.7	24.1	36.1	11.4	1.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	12.0	4.4	7.9	21.2	33.8	20.0	0.8
北海道	N=303 100.0	8.9	3.0	6.9	25.7	34.7	20.5	0.3
秋田県	N=137 100.0	22.6	2.9	5.8	17.5	27.7	21.9	1.5
福井県	N=108 100.0	25.9	7.4	7.4	14.8	31.5	12.0	0.9
福岡県	N=347 100.0	11.0	6.3	11.8	25.1	30.8	14.7	0.3
鹿児島県	N=161 100.0	9.3	4.3	7.5	12.4	41.0	24.8	0.6
沖縄県	N=123 100.0	2.3	1.6	3.1	20.3	38.3	32.0	2.3

第 5 表 その診療所での診療従事年数 F4. 先生はそこで診療に何年従事されていますか。 (%)

	計	1. 3年未満	2. 3年～9年	3. 10年～19年	4. 20年～29年	5. 30年以上	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	6.2	26.2	28.1	19.1	19.9	0.5
東京都	N=543 100.0	2.8	20.6	24.5	25.0	26.9	0.2
愛知県	N=325 100.0	7.1	32.3	33.2	11.4	15.4	0.6
大阪府	N=471 100.0	8.7	27.4	28.9	18.5	16.3	0.2
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	8.4	29.5	27.7	16.9	15.7	1.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	12.2	29.6	27.5	15.6	14.9	0.2
北海道	N=303 100.0	14.2	28.4	27.4	17.2	12.9	—
秋田県	N=137 100.0	21.2	21.2	20.4	16.8	19.7	0.7
福井県	N=108 100.0	6.5	26.9	24.1	14.8	27.8	—
福岡県	N=347 100.0	6.3	27.1	30.8	19.0	16.4	0.3
鹿児島県	N=161 100.0	14.3	36.0	29.8	8.7	11.2	—
沖縄県	N=128 100.0	16.4	42.2	26.6	10.9	3.9	—

第 6 表 父の職業 F5. 先生のお父さんの職業は： (%)

	計	1. 歯科医師	2. 歯科医師以外の医師	3. それ以外の職業	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	37.1	8.8	53.6	0.5
東京都	N=543 100.0	39.8	9.4	50.0	0.2
愛知県	N=325 100.0	34.2	8.6	56.9	0.3
大阪府	N=471 100.0	35.9	7.2	56.3	0.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	38.6	11.4	48.2	1.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	32.3	10.8	56.7	0.2
北海道	N=303 100.0	29.0	13.5	57.4	—
秋田県	N=137 100.0	36.5	11.7	51.1	0.7
福井県	N=108 100.0	42.6	7.4	50.0	—
福岡県	N=347 100.0	37.2	11.8	51.0	—
鹿児島県	N=161 100.0	31.7	9.3	59.0	—
沖縄県	N=128 100.0	14.8	5.5	78.9	0.8

第 7 表 診療所の所在地 F6. 先生の診療所の所在地は： (%)

	計	1. 住宅の地域	2. その他	0. NA
第 1 次調査合計 (東京都・愛知県・大阪府合計)	N=1339 100.0	58.9	40.6	0.5
東京都	N=543 100.0	57.5	42.4	0.2
愛知県	N=325 100.0	67.7	32.0	0.3
大阪府	N=471 100.0	54.4	44.8	0.8
兵庫県尼崎市	設 問 な し			
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	68.0	31.6	0.4
北海道	N=303 100.0	64.0	35.6	0.3
秋田県	N=137 100.0	78.1	20.4	1.5
福井県	N=108 100.0	75.0	25.0	—
福岡県	N=347 100.0	61.1	38.3	0.6
鹿児島県	N=161 100.0	75.8	24.2	—
沖縄県	N=128 100.0	69.5	30.5	—

第 8 表 診療所の建物の特徴 F7. 先生の診療所の建物の特徴は： (%)

	計	1. 住宅と併設の 診療所	2. 独立家屋の 診療所	3. ビル又はマン ションの中の事務 所形態	4. その他	0. NA
第 1 次調査合計 (東京都・愛知県・大阪府)	N=1339 100.0	43.6	15.9	36.0	3.8	0.7
東京都	N=543 100.0	46.4	9.0	41.1	3.1	0.4
愛知県	N=325 100.0	53.9	23.4	20.0	2.5	0.3
大阪府	N=471 100.0	34.0	17.8	41.4	5.5	1.3
兵庫県尼崎市	設 問 な し					
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	52.7	21.5	21.6	3.9	0.3
北海道	N=303 100.0	57.4	18.2	20.8	3.6	—
秋田県	N=137 100.0	61.3	28.5	5.1	4.4	0.7
福井県	N=108 100.0	56.5	28.7	10.2	3.7	0.9
福岡県	N=347 100.0	48.1	23.3	25.4	3.2	—
鹿児島県	N=161 100.0	58.4	24.2	14.9	2.5	—
沖縄県	N=128 100.0	34.4	7.8	49.2	7.8	0.8

第 9 表 一番近い診療所との距離 F8. 先生の診療所と一番近い歯科診療所との距離は： (%)

	計	1. 100米以内	2. 100米～500米	3. 500米以上	0. NA
第 1 次調査合計 (東京都・愛知県・大阪府合計)	N=1339 100.0	46.7	45.3	6.9	1.1
東京都	N=543 100.0	56.0	39.0	4.2	0.7
愛知県	N=325 100.0	25.8	60.6	12.9	0.6
大阪府	N=471 100.0	50.7	42.3	5.3	1.7
兵庫県尼崎市	設 問 な し				
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	32.2	51.0	16.6	0.2
北海道	N=303 100.0	35.0	51.5	13.2	0.3
秋田県	N=137 100.0	27.0	46.0	26.3	0.7
福井県	N=108 100.0	27.8	50.0	22.2	—
福岡県	N=347 100.0	36.0	53.3	10.7	—
鹿児島県	N=161 100.0	26.1	47.8	26.1	—
沖縄県	N=128 100.0	32.0	53.9	14.1	—

まず最初に先生ご自身のことからおたずねします。

第10表 歯科医師への職業選択動機

Q 1. 先生が歯科医師になられた動機は次のどれに当てはまりますか。
あてはまるものに○印をつけて下さい。

(%)

	計	1. 社会的 に高い評価 を受ける仕 事だから	2. 社会に 奉仕できる から	3. 専門知 識が生かせ る仕事だか ら	4. 親が歯 科医師だっ たから	5. 経済的 に高い収入 が期待でき るから	6. 取り立 てて理由な く*	7. その他	0. NA
第 1 次調査合計	N=1505 100.0	9.3	14.4	21.2	26.6	4.1	11.8	11.0	1.6
東京都	N=543 100.0	7.7	16.4	21.0	28.2	2.0	9.4	13.6	1.7
愛知県	N=325 100.0	8.0	12.9	20.3	26.2	9.5	13.5	8.3	1.2
大阪府	N=471 100.0	11.9	14.9	21.9	24.2	3.0	10.4	11.9	1.9
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	9.6	9.0	21.7	29.5	3.0	20.5	5.4	1.2
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	8.7	15.6	21.8	23.9	5.8	12.3	11.5	0.3
北海道	N=303 100.0	7.6	17.2	25.7	19.8	5.9	12.9	10.9	—
秋田県	N=137 100.0	6.6	10.9	21.2	29.2	5.1	15.3	11.7	—
福井県	N=108 100.0	2.8	13.9	20.4	35.2	4.6	13.0	10.2	—
福岡県	N=347 100.0	7.2	16.4	19.9	26.2	4.0	12.4	13.3	0.6
鹿児島県	N=161 100.0	11.2	14.3	18.0	26.1	9.9	9.9	9.9	0.6
沖縄県	N=128 100.0	19.5	18.0	24.2	9.4	7.0	10.2	10.9	0.8

* 「取り立てて理由なく」の回答については、歯科医師になったのが、かなり以前で、その当時の状況が記憶から薄れていった事が考えられる。

第11表 診療所の歯科医師構成 Q2. 先生の診療所はどのようになっていますか。 (%)

	計	1. 歯科医師は自分1人	2. 歯科医師は自分を含めて2人以上	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	66.6	33.5	0.5
東京都	N=543 100.0	63.2	36.6	0.2
愛知県	N=325 100.0	66.2	32.9	0.9
大阪府	N=471 100.0	65.8	33.5	0.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	75.3	24.1	0.6
第2次調査合計	N=1184 100.0	70.5	29.4	0.1
北海道	N=303 100.0	72.9	26.7	0.3
秋田県	N=137 100.0	75.9	24.1	—
福井県	N=108 100.0	73.1	26.9	—
福岡県	N=347 100.0	64.3	35.7	—
鹿児島県	N=161 100.0	67.1	32.9	—
沖縄県	N=128 100.0	78.1	21.9	—

次に先生方の診療についておかがいします。

第12表 疲労の程度：診療開始前 Q3. 先生の疲労の程度は、平均して、1日の時間帯、1週間の曜日によって、どのような状態ですか。 (%)

1. 診療開始前	計	1. 大いに 疲れる	2. かなり 疲れる	3. 普 通	4. あまり疲れ を感じない	5. ほとんど疲れ を感じない	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	1.2	6.3	51.0	17.5	18.9	5.1
東京都	N=543 100.0	0.7	4.8	47.0	19.7	21.4	6.4
愛知県	N=325 100.0	0.6	5.2	54.8	16.6	17.8	4.9
大阪府	N=471 100.0	1.9	7.9	50.1	17.4	18.5	4.2
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	1.8	9.0	59.0	12.7	13.9	3.6
第2次調査合計	N=1184 100.0	1.5	5.4	52.4	19.4	16.7	4.5
北海道	N=303 100.0	2.0	5.9	45.5	23.1	20.1	3.3
秋田県	N=137 100.0	2.2	4.4	56.2	17.5	15.3	4.4
福井県	N=108 100.0	0.9	3.7	51.9	13.9	16.7	13.0
福岡県	N=347 100.0	2.0	5.8	54.5	18.4	15.9	3.5
鹿児島県	N=161 100.0	0.6	5.6	59.6	16.8	13.0	4.3
沖縄県	N=128 100.0	—	5.5	50.8	23.4	17.2	3.1

第13表 疲労の程度：診療中 Q 3. 先生の疲労の程度 (%)

2. 診療中	計	1. 大いに 疲れる	2. かなり 疲れる	3. 普 通	4. あまり疲れ を感じない	5. ほとんど疲れ を感じない	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	2.7	22.4	44.4	20.6	5.2	4.8
東京都	N=543 100.0	2.9	19.7	44.0	20.6	6.3	6.4
愛知県	N=325 100.0	1.5	25.2	47.4	18.8	2.8	4.3
大阪府	N=471 100.0	3.4	24.0	40.1	22.1	6.4	4.0
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	1.8	21.1	51.8	19.9	3.0	2.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	1.5	23.1	46.1	19.7	4.2	5.3
北海道	N=303 100.0	1.3	21.8	50.2	18.8	3.3	4.6
秋田県	N=137 100.0	2.9	26.3	43.1	19.7	2.9	5.1
福井県	N=108 100.0	0.9	27.8	38.0	16.7	2.8	13.9
福岡県	N=347 100.0	2.0	21.9	46.4	18.7	6.6	4.3
鹿児島県	N=161 100.0	1.2	24.2	48.4	18.6	3.7	3.7
沖縄県	N=128 100.0	—	21.1	43.0	28.1	3.1	4.7

第14表 疲労の程度：診療後 Q 3. 先生の疲労の程度 (%)

3. 診療後	計	1. 大いに 疲れる	2. かなり 疲れる	3. 普 通	4. あまり疲れ を感じない	5. ほとんど疲れ を感じない	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	17.3	40.7	25.3	9.9	3.1	3.7
東京都	N=543 100.0	16.6	38.5	26.3	11.2	3.7	3.7
愛知県	N=325 100.0	15.1	44.3	24.6	9.8	2.8	3.4
大阪府	N=471 100.0	20.8	42.0	20.2	9.6	3.0	4.5
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	13.9	37.3	38.0	6.6	1.8	2.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	18.1	41.0	27.4	8.8	2.4	2.4
北海道	N=303 100.0	19.8	43.9	25.1	7.6	1.0	2.6
秋田県	N=137 100.0	19.0	35.8	28.5	10.9	2.9	2.9
福井県	N=108 100.0	17.6	42.6	25.0	8.3	1.9	4.6
福岡県	N=347 100.0	17.0	40.3	26.8	10.1	3.5	2.3
鹿児島県	N=161 100.0	19.9	38.5	32.3	7.5	1.9	—
沖縄県	N=128 100.0	14.1	43.0	29.7	7.8	3.9	1.6

第15表 疲労自覚症状

Q3 SQ1 疲労自覚症状 診療後

自覚率 25%以上に△, 50%以上に○, 75%以上に◎を付した。

疲労自覚症状Ⅰ「ねむけとだるさ」 (%)										
時間帯 自覚 疲労状態Ⅰ	東京都	愛知県	大阪府	兵庫県 尼崎市	北海道	秋田県	福井県	福岡県	鹿児島県	沖縄県
1 頭がおもい	14.5	14.2	16.8	12.0	23.8	21.9	15.7	20.7	26.1 △	24.2
2 全身がだるい	32.4 △	40.0 △	43.5 △	23.5	49.5 △	44.5 △	36.1 △	42.1 △	52.2 ○	48.4 △
3 足がだるい	35.0 △	30.5 △	32.9 △	18.7	36.6 △	38.0 △	30.6 △	41.2 △	39.8 △	33.6 △
4 あくびがでる	18.2	19.4	23.6	15.1	28.7 △	17.5	26.9 △	23.1	29.8 △	28.1 △
5 頭がぼんやりする	16.0	20.6	23.1	13.3	32.0 △	24.1	29.6 △	26.5 △	29.2 △	25.0 △
6 ねむい	23.0	24.6	26.5 △	20.5	29.4 △	35.0 △	30.6 △	27.4 △	28.6 △	24.2 △
7 目がつかれる	61.3 ○	60.0 ○	68.5 ○	57.2 ○	76.6 ◎	69.3 ○	70.4 ○	74.6 ○	75.8 ◎	64.1 ○
8 動作がぎこち なくなる	12.5	12.9	13.0	7.2	15.8	11.7	9.3	11.2	12.4	7.0
9 足もとがたよりない	6.4	7.4	6.6	4.2	11.2	10.2	10.2	8.1	8.1	3.9
10 横になりたい	41.1 △	46.5 △	47.6 △	30.7 △	57.4 ○	57.7 ○	50.9 ○	49.9 △	54.0 ○	54.7 ○
I の平均	26.0 △	27.6 △	30.2 △	20.2	36.1 △	33.0 △	31.0 △	32.5 △	35.6 △	31.3 △

疲労自覚症状Ⅱ「注意集中の困難」 (%)										
時間帯 自覚 疲労状態Ⅱ	東京都	愛知県	大阪府	兵庫県 尼崎市	北海道	秋田県	福井県	福岡県	鹿児島県	沖縄県
11 考えがまとまらない	8.5	10.2	13.8	6.6	19.5	16.1	10.2	14.7	13.7	19.5
12 話をするのが いやになる	24.3	26.2 △	28.0 △	18.7	39.3 △	32.1 △	25.9 △	26.8 △	29.8 △	28.9 △
13 いらいらする	18.8	19.7	17.6	12.0	32.3 △	29.9 △	22.2 △	33.1 △	35.4 △	29.7 △
14 気がちる	8.3	7.4	8.3	6.6	16.2	13.9	10.2	13.3	14.3	16.4
15 物事に熱心に なれない	15.7	18.2	19.1	15.1	30.7 △	32.1 △	30.6 △	27.1 △	26.7 △	32.0 △
16 ちょっとしたことが 思い出せない	28.7 △	26.5 △	30.1 △	21.1	33.7 △	27.0 △	32.4 △	35.2 △	33.5 △	25.8 △
17 することに間違い が多くなる	7.0	7.4	10.8	4.8	8.9	10.2	7.4	6.6	13.0	10.2
18 物事が気にかかる	23.0	19.4	25.1 △	15.7	28.1 △	24.1	25.0 △	28.0 △	24.2	21.9
19 きちんとして いられない	9.4	11.1	9.8	10.2	13.9	13.9	8.3	16.1	14.3	15.6
20 根気がなくなる	37.8 △	40.9 △	42.0 △	35.5 △	50.0 ○	46.0 △	43.5 △	49.0 △	48.4 △	39.1 △
Ⅱ の平均	18.2	18.7	20.5	14.6	27.3 △	24.5	21.6 △	26.5 △	25.3 △	23.9

疲労自覚症状Ⅲ「局在した身体違和感」 (%)										
時間帯 自覚 疲労状態Ⅲ	東京都	愛知県	大阪府	兵庫県 尼崎市	北海道	秋田県	福井県	福岡県	鹿児島県	沖縄県
21 頭がいたい	9.8	6.8	11.9	8.4	14.5	13.9	4.6	10.1	14.3	12.5
22 肩がこる	51.6 ○	48.9 △	53.1 ○	36.7 △	61.1 ○	56.2 ○	48.1 △	59.7 ○	64.6 ○	57.8 ○
23 腹がいたい	42.4 △	42.8 △	45.2 △	32.5 △	54.1 △	44.5 △	37.0 △	51.3 ○	52.8 ○	41.4 △
24 いき苦しい	5.9	4.3	5.3	3.0	7.9	5.8	1.9	6.3	8.7	10.9
25 口がかわく	14.4	16.6	17.0	11.4	27.1 △	16.1	13.0	16.4	20.5	17.2
26 声がかすれる	9.9	11.7	10.6	7.8	13.5	8.0	4.6	8.1	14.3	8.6
27 めまいがする	6.1	3.4	5.7	5.4	11.2	6.6	3.7	6.9	11.8	6.3
28 まぶたや筋が ピクピクする	19.2	20.6	21.4	10.2	33.7 △	25.5 △	20.4	26.2 △	37.3 △	25.8 △
29 手足がふるえる	4.4	4.6	4.9	3.6	9.6	5.8	3.7	6.9	11.8	5.5
30 気分がわるい	5.3	5.5	7.4	6.6	9.2	7.3	0.9	6.1	11.8	7.0
Ⅲ の平均	16.9	16.5	18.3	12.6	24.2	19.0	13.8	19.8	24.8	19.3
I, Ⅱ, Ⅲの全体平均	20.4	20.9	23.0	15.8	29.2 △	25.5 △	22.1	29.7 △	28.6 △	24.8

表16表 自覚疲労総点 Q03P 自覚疲労度30項目中の各人のチェック総点 構成比 (%)

チェック項目数 地域	計	1. 4 以内	2. 5 ～ 9	3. 10～14	4. 15～19	5. 20以上	0. NA
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	27.0	32.6	18.2	10.2	5.1	6.9
北海道	N=303 100.0	25.4	32.3	17.2	12.2	7.3	5.6
秋田県	N=137 100.0	24.1	31.4	20.4	12.4	2.9	8.8
福井県	N=108 100.0	30.6	35.2	18.5	5.6	0.9	9.3
福岡県	N=347 100.0	29.4	32.0	18.2	9.8	4.3	6.3
鹿児島県	N=161 100.0	25.5	32.3	18.6	9.9	7.5	6.2
沖縄県	N=128 100.0	26.6	34.4	17.2	8.6	4.7	8.6

第17表 1 週間のうち一番疲れる曜日 Q03SQ2. 1 週間のうち、1 番、疲れる曜日は何曜日ですか。 (%)

	計	1. 月曜日	2. 火曜日	3. 水曜日	4. 木曜日	5. 金曜日	6. 土曜日	7. 日曜日	0. NA
第 1 次調査合計	N=1505 100.0	22.9	4.6	23.7	12.8	20.1	5.6	1.1	9.3
東京都	N=543 100.0	18.8	2.6	24.1	13.1	22.7	7.0	0.6	11.2
愛知県	N=325 100.0	24.0	10.5	33.2	4.3	12.3	6.2	1.5	8.0
大阪府	N=471 100.0	24.4	3.6	17.4	18.5	23.1	3.6	1.3	8.1
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	30.1	2.4	21.1	12.7	18.1	5.4	1.2	9.0
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	26.1	4.1	15.2	23.6	18.7	4.7	0.6	7.0
北海道	N=303 100.0	14.5	4.3	13.9	37.6	20.8	3.6	0.3	5.0
秋田県	N=137 100.0	20.4	5.1	16.1	20.4	19.7	8.0	1.5	8.8
福井県	N=108 100.0	29.6	2.8	17.6	13.0	18.5	10.2	—	8.3
福岡県	N=347 100.0	32.6	4.0	15.6	20.7	17.3	2.6	0.3	6.9
鹿児島県	N=161 100.0	33.5	3.1	12.4	24.2	17.4	1.9	1.9	5.6
沖縄県	N=128 100.0	29.7	4.7	18.0	10.2	18.0	8.6	—	10.9

第18表 診療所の休診日 Q3SQ3. 先生の診療所の休診日は何曜日ですか.* (%)

	計	1. 月曜日	2. 火曜日	3. 水曜日	4. 木曜日	5. 金曜日	6. 土曜日	7. 日曜日	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	0.9	0.5	5.1	26.8	0.3	13.3	50.1	2.9
東京都	N=543 100.0	1.3	0.6	4.2	27.6	0.2	15.8	47.1	3.1
愛知県	N=325 100.0	0.9	0.3	4.6	49.2	—	2.2	40.9	1.8
大阪府	N=471 100.0	0.4	0.4	5.3	14.0	0.6	15.7	61.4	2.1
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	1.2	1.2	8.4	16.3	0.6	19.9	45.8	6.6
第2次調査合計	N=1184 100.0	0.7	0.3	1.1	4.0	0.4	4.1	88.1	1.3
北海道	N=303 100.0	0.7	0.3	2.0	1.7	0.3	8.3	85.8	1.0
秋田県	N=137 100.0	1.5	0.7	—	3.6	0.7	2.9	87.6	2.9
福井県	N=108 100.0	0.9	—	0.9	14.8	—	0.9	81.5	0.9
福岡県	N=347 100.0	0.6	—	0.9	1.4	0.6	3.7	91.6	1.2
鹿児島県	N=161 100.0	—	0.6	—	3.1	—	0.6	94.4	1.2
沖縄県	N=128 100.0	0.8	0.8	2.3	8.6	0.8	3.9	82.0	0.8

* 休診日の曜日が2つ以上ある回答については、偶然的に何れかの曜日1つとして計算している。

第19表 歯科医師1人当たりの Q3SQ4. 先生のところでは、先生1人当たり、1日平均何人位みておられ 1日診療患者数 ますか。 人ぐらい (%)

	計	1. 1人～10人	2. 11人～20人	3. 21人～25人	4. 26人～30人	5. 31人～39人	6. 40人以上	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	8.3	30.6	13.9	20.5	7.5	17.4	1.7
東京都	N=543 100.0	11.4	37.9	17.3	18.6	3.9	9.0	1.8
愛知県	N=325 100.0	7.1	25.2	10.8	22.8	11.7	21.8	0.6
大阪府	N=471 100.0	5.7	26.8	12.5	20.4	8.7	24.2	1.7
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	7.8	28.3	12.7	22.9	7.8	16.9	3.6
第2次調査合計	N=1184 100.0	4.1	23.3	14.7	31.4	—	25.7	0.8
北海道	N=303 100.0	4.0	21.8	15.2	29.7	—	28.7	0.7
秋田県	N=137 100.0	5.8	16.8	8.8	27.0	—	39.4	2.2
福井県	N=108 100.0	4.6	17.6	11.1	35.2	—	28.7	2.8
福岡県	N=347 100.0	4.0	23.6	17.0	35.7	—	19.6	—
鹿児島県	N=161 100.0	3.1	19.9	11.2	32.9	—	32.3	0.6
沖縄県	N=128 100.0	3.1	42.2	21.1	23.4	—	9.4	0.8

第20表 1日の適正な診療時間

Q4. 先生が考える一日の適正な診療時間は何時間ぐらいが適当だとお考えですか。() 時間ぐらい。(%)

	計	1. 5時間未満	2. 6時間	3. 7時間	4. 8時間	5. 9時間以上	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	11.6	39.1	24.8	21.2	1.3	2.0
東京都	N=543 100.0	14.0	40.3	23.8	18.8	1.1	2.0
愛知県	N=325 100.0	6.2	34.8	26.5	24.9	1.5	2.2
大阪府	N=471 100.0	10.6	40.1	25.3	20.6	1.3	1.9
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	9.0	41.0	23.5	23.5	1.2	1.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	8.4	33.9	29.1	26.4	1.4	0.9
北海道	N=303 100.0	10.2	36.3	27.1	24.8	1.0	0.7
秋田県	N=137 100.0	10.9	43.1	31.4	11.7	2.2	0.7
福井県	N=108 100.0	16.7	30.6	25.9	25.0	—	1.9
福岡県	N=347 100.0	6.3	32.3	28.2	30.8	1.4	0.9
鹿児島県	N=161 100.0	5.0	30.4	29.2	32.3	2.5	0.6
沖縄県	N=128 100.0	4.7	29.7	35.9	27.3	0.8	1.6

第21表 1日平均の診療時間

Q5. では先生は現在、一日平均、何時間診療されていますか。() 時間ぐらい (%)

	計	1. 5時間以内	2. 6時間	3. 7時間	4. 8時間	5. 9時間	6. 10時間以上	0. NA
第1時調査合計	N=1505 100.0	5.4	6.9	20.5	37.7	18.6	8.2	2.7
東京都	N=543 100.0	7.2	9.8	23.4	37.0	15.7	5.2	1.8
愛知県	N=325 100.0	5.2	5.2	16.3	37.5	25.2	10.5	1.2
大阪府	N=471 100.0	3.8	5.1	18.9	38.0	20.6	11.0	2.5
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	4.8	6.0	26.5	40.4	10.8	7.8	3.6
後2次調査合計	N=1184 100.0	3.2	5.4	15.7	48.1	20.5	6.1	0.9
北海道	N=303 100.0	4.6	7.6	18.2	42.9	16.8	8.9	1.0
秋田県	N=137 100.0	5.1	8.8	24.8	48.2	8.8	3.6	—
福井県	N=108 100.0	3.7	7.4	17.6	52.8	15.7	—	2.8
福岡県	N=347 100.0	1.7	4.3	11.0	47.0	28.5	7.5	—
鹿児島県	N=161 100.0	2.5	2.5	10.6	50.9	26.1	6.8	0.6
沖縄県	N=128 100.0	2.3	1.6	18.0	57.0	18.0	2.3	0.8

第22表 1日平均休憩時間

Q6. 現在、先生は一日平均休憩時間を何時間ぐらいと
られていますか。() 時間 (%)

	計	1. 1 時間	2. 2 時間	3. 3 時間	4. 4 時間以上	0. NA
第 1 次調査合計	N=1505 100.0	29.6	47.3	12.0	7.1	4.0
東京都	N=543 100.0	39.6	43.5	6.6	5.5	4.8
愛知県	N=325 100.0	22.8	54.5	10.8	8.9	3.1
大阪府	N=471 100.0	30.8	46.7	12.3	6.4	3.8
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	10.8	48.2	30.7	6.6	3.6
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	39.4	50.3	3.0	6.0	1.4
北海道	N=303 100.0	38.3	48.5	2.6	7.6	3.0
秋田県	N=137 100.0	24.8	57.7	6.6	9.5	1.5
福井県	N=108 100.0	50.9	34.3	1.9	10.2	2.8
福岡県	N=347 100.0	46.1	47.8	2.0	3.5	0.6
鹿児島県	N=161 100.0	36.0	56.5	3.7	3.1	0.6
沖縄県	N=128 100.0	33.6	58.6	2.3	5.5	—

第23表 現在の「職業」満足感

Q7. 先生の現在の「職業」に対して全般的にどのようにお考えで
すか。あてはまるところの数字を○でかこんで下さい。(%)

	計	1. 大いに 満 足	2. まあ 満足	3. どちらとも いえない	4. やや 不満	5. 大いに 不 満	0. NA
第 1 次調査合計	N=1505 100.0	5.4	39.5	22.1	20.9	10.1	1.9
東京都	N=543 100.0	6.8	44.9	18.4	17.9	9.2	2.8
愛知県	N=325 100.0	4.6	38.8	23.4	20.3	11.7	1.2
大阪府	N=471 100.0	5.1	35.7	22.3	25.3	10.0	1.7
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	3.6	34.3	31.3	19.3	10.2	1.2
第 2 次調査合計	N=1184 100.0	4.6	44.0	18.7	21.9	9.6	1.3
北海道	N=303 100.0	4.3	43.6	19.5	22.1	9.6	1.0
秋田県	N=137 100.0	2.9	48.2	19.0	15.3	12.4	2.2
福井県	N=108 100.0	7.4	47.2	24.1	14.8	5.6	0.9
福岡県	N=847 100.0	4.0	42.1	18.4	21.6	12.4	1.4
鹿児島県	N=347 100.0	4.3	40.4	16.1	30.4	6.8	1.9
沖縄県	N=128 100.0	6.3	47.7	15.6	24.2	6.3	—

第24表 「職業」観

Q8. 先生は現在の「職業」を日頃どのように考えておられますか。
あてはまるものに○をつけて下さい(複数回答可)。(重複回答) (%)

	計	1. 社会的に高い評価を受ける仕事である。	2. 社会に奉仕できる仕事である。	3. 自分の専門知識・技術・思考力が生かせる仕事である。	4. 親から受け継いだ仕事である。	5. 経済的に高い収入が期待できる仕事である。	6. 人々の口腔を健康にする創造的な仕事である。	7. 年をとっても自主的に仕事ができる面白い仕事である。	8. その他
第1次調査合計	N=1505 100.0	18.1	52.8	66.6	14.8	7.3	36.0	38.8	6.4
東京都	N=543 100.0	17.9	56.4	70.0	16.4	8.3	41.3	42.7	7.2
愛知県	N=325 100.0	15.7	54.2	65.5	14.2	5.8	32.3	34.8	6.2
大阪府	N=471 100.0	20.4	52.0	67.3	13.0	7.6	37.4	39.5	6.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	17.5	40.4	55.4	15.7	6.0	22.3	31.9	4.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	20.6	53.1	65.9	15.2	8.9	36.6	35.1	5.9
北海道	N=303 100.0	19.8	53.1	69.6	11.9	10.9	36.0	36.0	5.9
秋田県	N=137 100.0	16.1	48.2	65.0	16.1	9.5	33.6	40.1	4.4
福井県	N=108 100.0	20.4	43.5	56.5	22.2	6.5	23.1	33.3	5.6
福岡県	N=347 100.0	18.2	53.6	68.3	17.0	7.8	39.5	37.5	6.1
鹿児島県	N=161 100.0	23.0	57.1	64.0	19.9	8.7	38.5	32.3	5.6
沖縄県	N=128 100.0	31.3	60.9	61.7	5.5	8.6	42.2	26.6	7.8

重複回答のため%合計は100.0をこえる。

第25表 現在の収入満足感

Q9. 先生の収入についておうかがいします。
先生は現在の収入に対して満足しておられますか。 (%)

	計	1. 大いに満足	2. まあ満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 大いに不満	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	1.3	20.1	24.6	34.4	18.5	1.0
東京都	N=543 100.0	1.3	21.0	27.6	30.8	18.4	0.9
愛知県	N=325 100.0	1.2	22.2	20.9	36.9	19.1	0.6
大阪府	N=471 100.0	1.5	18.5	20.8	39.3	18.9	1.1
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	1.2	18.1	32.5	29.5	16.9	1.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	1.3	23.3	23.1	30.8	20.9	0.6
北海道	N=303 100.0	2.3	25.4	24.4	30.4	16.5	1.0
秋田県	N=137 100.0	0.7	24.1	24.8	28.5	20.4	1.5
福井県	N=108 100.0	—	29.6	23.1	33.3	13.0	0.9
福岡県	N=347 100.0	0.9	19.0	22.2	29.7	28.0	0.3
鹿児島県	N=161 100.0	0.6	19.9	22.4	35.4	21.7	—
沖縄県	N=128 100.0	2.3	28.1	21.1	29.7	18.8	—

第26表 世間の評判についての知覚 Q10. 先生はご自身の歯科医師としての世間の評判をどのように感じておられますか。(%)

	計	1. 大い に評判が よい	2. かな り評判が よい	3. 普 通	4. あまり 評判が よくない	5. 評 判が よくない	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	4.8	25.6	59.7	6.6	1.3	2.1
東京都	N=543 100.0	7.6	30.9	52.5	5.7	1.3	2.0
愛知県	N=325 100.0	3.4	24.0	63.1	7.4	0.6	1.5
大阪府	N=471 100.0	4.2	25.3	61.1	5.7	1.3	2.3
兵庫県 尼崎市	N=166 100.0	—	12.0	72.3	10.2	2.4	3.0
第2次調査合計	N=1184 100.0	2.6	22.3	67.2	5.8	0.8	1.2
北海道	N=303 100.0	3.3	21.1	67.3	6.3	1.0	1.0
秋田県	N=137 100.0	3.6	13.9	74.5	6.6	0.7	0.7
福井県	N=108 100.0	1.9	25.9	64.8	3.7	—	3.7
福岡県	N=347 100.0	2.0	25.4	62.2	7.2	1.4	1.7
鹿児島 県	N=161 100.0	1.9	21.7	72.7	3.7	—	—
沖縄県	N=128 100.0	3.1	23.4	68.0	4.7	0.8	—

次に患者に接する態度についておうかがいします。

第27表 患者に接する態度 Q11. 先生の患者は次の項目のなかでどれを求めていると思われますか。最も重要と思われるものを選んで下さい(○印2つまで)。(%)

	計	1. ていねいに 説明する。	2. なるべく痛く ないように治 療する。	3. 最新の技術 を応用する。	4. 治療費を できるだけ安 くする。	5. 患者との人 間関係を重視 する。	6. その他
第1次調査合計	N=1505 100.0	48.8	60.1	10.2	20.6	45.4	3.5
東京都	N=543 100.0	48.6	57.5	10.3	21.5	49.9	2.9
愛知県	N=325 100.0	43.4	64.6	11.4	17.5	42.8	5.2
大阪府	N=471 100.0	55.0	57.7	10.2	22.5	44.2	3.4
兵庫県 尼崎市	N=166 100.0	42.2	66.9	7.2	18.1	39.2	1.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	52.9	65.1	9.7	17.7	42.7	3.5
北海道	N=303 100.0	53.5	62.4	9.9	15.5	42.6	5.6
秋田県	N=137 100.0	54.7	67.2	8.8	19.0	39.4	0.7
福井県	N=108 100.0	35.2	60.2	12.0	13.9	50.9	4.6
福岡県	N=347 100.0	53.9	61.4	10.7	17.0	46.4	2.9
鹿児島 県	N=161 100.0	59.6	67.7	10.6	21.7	35.4	1.9
沖縄県	N=128 100.0	53.1	80.5	4.7	21.1	38.8	3.9

重複回答のため%合計は100.0をこえる。

第28表 患者に対する診療の仕方 Q12. 先生の患者に対する診療のしかたは次のどれにあたりますか。(1つだけ○印をして下さい)。(%)

	計	1. 一切を患者からまかせられることを望む。	2. 気軽に患者の気持ちをほぐしながら診療する。	3. 治療本位の技術第一主義で行くほうだ。	4. その他	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	18.5	61.4	11.2	6.2	2.7
東京都	N=543 100.0	20.1	57.3	12.2	7.2	3.3
愛知県	N=325 100.0	16.6	65.8	10.8	5.2	1.5
大阪府	N=471 100.0	18.0	61.4	10.6	7.6	2.3
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	18.7	66.3	10.2	1.2	3.6
第2次調査合計	N=1184 100.0	18.3	64.0	9.7	6.4	1.5
北海道	N=303 100.0	17.8	64.4	9.6	7.6	0.7
秋田県	N=137 100.0	24.1	62.8	6.6	5.8	0.7
福井県	N=108 100.0	17.6	60.2	10.2	7.4	4.6
福岡県	N=347 100.0	17.6	64.0	10.1	6.3	2.0
鹿児島県	N=161 100.0	16.8	64.6	14.3	4.3	—
沖縄県	N=128 100.0	18.0	67.2	6.3	6.3	2.3

第29表 子供の患者について Q13. 先生の所では子供の患者を歓迎していますか。(%)

	計	1. 歓迎するほうだ	2. 大人と子供はあまり差をつけない	3. どちらかといえば歓迎したくない	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	19.1	63.1	16.4	1.5
東京都	N=543 100.0	16.2	62.6	19.0	2.2
愛知県	N=325 100.0	22.5	64.6	11.4	1.5
大阪府	N=471 100.0	20.0	63.9	15.5	0.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	19.3	59.0	20.5	1.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	20.7	64.3	14.4	0.6
北海道	N=303 100.0	23.8	62.0	13.5	0.7
秋田県	N=137 100.0	19.7	67.9	12.4	—
福井県	N=108 100.0	10.2	69.4	17.6	2.8
福岡県	N=347 100.0	15.0	66.3	18.2	0.6
鹿児島県	N=161 100.0	28.0	60.2	11.8	—
沖縄県	N=128 100.0	29.7	60.9	9.4	—

第30表 子供の患者の割合 Q13SQ2. 先生の診療所では、子供の患者はほぼ何割ぐらいですか。ほぼ 割ぐらい(%)

	計	1. 1～9%	2. 10～19%	3. 20～29%	4. 30～49%	5. 50%以上*	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	11.1	39.0	24.1	15.0	3.0	7.9
東京都	N=543 100.0	15.8	37.4	20.4	11.8	2.8	11.8
愛知県	N=325 100.0	9.2	33.8	28.9	18.2	4.0	5.8
大阪府	N=471 100.0	6.8	41.4	26.1	15.9	3.2	6.6
兵庫県 尼崎市	N=166 100.0	11.4	47.6	20.5	16.3	1.2	3.0
第2次調査合計	N=1184 100.0	6.1	31.5	29.9	24.2	5.2	3.1
北海道	N=303 100.0	5.0	36.3	29.7	19.8	5.9	3.3
秋田県	N=137 100.0	2.2	24.8	33.6	32.1	3.6	3.6
福井県	N=108 100.0	5.6	32.4	38.0	19.4	0.9	3.7
福岡県	N=347 100.0	12.4	34.9	28.8	15.9	3.7	4.3
鹿児島県	N=161 100.0	2.5	34.8	28.0	29.2	5.0	0.6
沖縄県	N=128 100.0	0.8	13.3	25.0	46.1	13.3	1.6

* 子供の患者の割合50%以上の中に子供患者の割合80%～100%の歯科医院が東京都 6 医院、愛知県 8 医院、大阪府 3 医院、
尼崎市 2 医院、北海道 6 医院、秋田県 1 医院、福井県 1 医院、福岡県 6 医院、沖縄県 1 医院を含む。

第31表 高齢者患者について Q14. 先生の所では高齢者(65歳以上)の患者を歓迎していますか。(%)

	計	1. 歓迎する ほうだ	2. 高齢者との年齢者と にあまり差をつけない	3. どちらかといえば 歓迎したくない	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	21.7	71.6	4.8	1.9
東京都	N=543 100.0	17.1	75.0	5.5	2.4
愛知県	N=325 100.0	26.8	68.0	3.4	1.8
大阪府	N=471 100.0	24.0	70.9	4.0	1.1
兵庫県 尼崎市	N=166 100.0	20.5	69.3	7.2	3.0
第2次調査合計	N=1184 100.0	28.1	66.9	4.0	1.0
北海道	N=303 100.0	37.3	57.4	4.3	1.0
秋田県	N=137 100.0	23.4	68.6	7.3	0.7
福井県	N=108 100.0	15.7	76.9	3.7	3.7
福岡県	N=347 100.0	23.6	72.3	3.2	0.9
鹿児島県	N=161 100.0	32.9	63.4	3.1	0.6
沖縄県	N=128 100.0	28.1	68.8	3.1	—

第32表 高齢者の患者の割合 Q14SQ2. 先生の診療所では、高齢者の患者はほぼ何割ぐらいですか。ほぼ 割ぐらい(%)

	計	1. 1～9%	2. 10～19%	3. 20～29%	4. 30～49%	5. 50%以上	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	4.9	29.4	31.2	23.8	7.2	3.5
東京都	N=543 100.0	8.5	29.7	30.0	21.0	6.8	4.1
愛知県	N=325 100.0	4.9	36.9	28.3	21.8	3.7	4.3
大阪府	N=471 100.0	2.3	26.8	32.9	25.7	9.8	2.1
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	—	21.1	34.9	31.3	8.4	4.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	4.1	30.0	32.9	24.6	5.9	2.6
北海道	N=303 100.0	4.3	24.1	38.9	23.4	6.9	2.3
秋田県	N=137 100.0	4.4	27.0	33.6	26.3	5.8	2.9
福井県	N=108 100.0	0.9	22.2	35.2	32.4	5.6	3.7
福岡県	N=347 100.0	3.2	26.5	31.7	30.3	5.5	2.9
鹿児島県	N=161 100.0	3.7	36.6	31.7	19.3	6.2	2.5
沖縄県	N=128 100.0	8.6	54.7	20.3	10.2	4.7	1.6

第33表(1) 現在の医院構成 1. 歯科医師 次に先生の診療所や患者の構成についておうかがいします。
Q15. 現在の医院構成はどうですか。(%)

医院歯科医師数	計	1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人	7. 7人	8. 8人	9. 9人以上	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	66.4	23.5	4.9	1.5	0.7	0.1	0.3	0.1	0.1	2.4
東京都	N=543 100.0	61.7	26.5	5.5	1.1	0.9	0.2	0.4	0.4	0.2	3.1
愛知県	N=325 100.0	67.1	24.3	5.2	2.2	—	—	—	—	—	1.2
大阪府	N=471 100.0	68.4	21.4	4.5	1.9	1.1	0.2	0.4	—	—	2.1
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	74.7	17.5	3.6	0.6	0.6	—	—	—	—	3.0
第2次調査合計	N=1184 100.0	69.8	23.1	3.8	1.1	0.2	0.3	—	0.1	0.3	1.5
北海道	N=303 100.0	72.3	20.1	3.0	1.0	0.3	0.3	—	0.3	0.7	2.0
秋田県	N=137 100.0	75.2	16.8	5.1	0.7	—	0.7	—	—	—	1.5
福井県	N=108 100.0	70.4	20.4	2.8	2.8	—	—	—	—	0.9	2.8
福岡県	N=347 100.0	64.0	28.8	4.9	0.9	0.3	0.3	—	—	—	0.9
鹿児島県	N=161 100.0	66.5	26.7	4.3	0.6	—	—	—	—	—	1.9
沖縄県	N=128 100.0	77.3	18.8	1.6	1.6	—	—	—	—	—	0.8

第33表(2) 現在の医院構成 2. 技工士 (％)

歯科医院技工士数	計	1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人	7. 7人	8. 8人	9. 9人	0. NA (0人を含む)
第1次調査合計	N=1505 100.0	24.7	7.2	1.4	0.3	0.2	—	—	—	—	66.2
東京都	N=543 100.0	18.2	3.9	1.1	0.4	0.4	—	—	—	—	76.1
愛知県	N=325 100.0	29.8	6.5	0.3	0.3	—	—	—	—	—	63.1
大阪府	N=471 100.0	30.6	12.3	2.8	0.2	0.2	—	—	—	—	53.9
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	19.3	4.8	0.6	—	—	—	—	—	—	75.3
第2次調査合計	N=1184 100.0	37.7	11.1	2.4	0.6	—	—	—	—	0.3	47.9
北海道	N=303 100.0	27.4	6.3	2.3	0.3	—	—	—	—	0.7	63.0
秋田県	N=137 100.0	41.6	18.2	5.1	1.5	—	—	—	—	0.7	32.8
福井県	N=108 100.0	49.1	11.1	0.9	—	—	—	—	—	—	38.9
福岡県	N=347 100.0	36.0	8.1	1.4	0.6	—	—	—	—	—	53.9
鹿児島県	N=161 100.0	44.7	16.1	2.5	0.6	—	—	—	—	—	36.0
沖縄県	N=128 100.0	43.8	17.2	3.9	0.8	—	—	—	—	—	34.4

第33表(3) 現在の医院構成 3. 衛生士 (％)

歯科医院衛生士数	計	1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人	7. 7人	8. 8人	9. 9人	0. NA (0人を含む)
第1次調査合計	N=1505 100.0	28.4	10.6	3.7	1.2	1.0	0.1	0.2	0.1	0.1	54.6
東京都	N=543 100.0	28.4	7.0	3.5	0.9	0.9	0.4	0.4	0.2	0.2	58.2
愛知県	N=325 100.0	23.7	9.8	2.8	1.2	0.9	—	0.3	0.3	—	60.9
大阪府	N=471 100.0	31.6	15.7	4.7	1.7	1.3	—	—	—	—	45.0
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	28.3	9.6	3.0	0.6	0.6	—	—	—	—	57.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	28.1	19.6	8.9	5.0	1.2	0.5	0.3	—	0.4	36.0
北海道	N=303 100.0	30.4	14.5	5.9	5.6	0.3	1.0	0.3	—	0.7	41.3
秋田県	N=137 100.0	26.3	23.4	13.1	5.1	2.2	0.7	1.5	—	0.7	27.0
福井県	N=108 100.0	38.0	13.9	5.6	1.9	0.9	0.9	0.9	—	—	38.0
福岡県	N=347 100.0	20.7	21.6	9.5	5.8	1.4	0.3	—	—	0.6	40.1
鹿児島県	N=161 100.0	26.7	24.2	9.9	6.2	1.2	—	—	—	—	31.7
沖縄県	N=128 100.0	38.3	21.2	10.9	2.3	1.6	—	—	—	—	25.8

第33表(4) 現在の医院構成 4. 助 手 (％)

歯科医院助手数	計	1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人	7. 7人	8. 8人	9. 9人	0. NA (0人を含む)
第1次調査合計	N=1505 100.0	26.9	25.7	17.1	6.8	3.3	1.1	0.5	0.4	0.5	17.8
東京都	N=543 100.0	30.2	24.9	13.3	2.6	1.7	0.6	0.6	0.6	0.7	25.0
愛知県	N=325 100.0	13.8	26.8	28.3	13.2	4.0	1.2	0.3	0.3	0.9	11.1
大阪府	N=471 100.0	32.3	25.9	13.6	7.0	4.0	1.1	0.4	0.2	—	15.5
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	26.5	25.9	17.5	7.2	4.8	3.0	0.6	0.6	—	13.9
第2次調査合計	N=1184 100.0	25.9	29.3	20.4	8.6	2.3	0.8	0.3	0.3	0.5	11.7
北海道	N=303 100.0	20.5	30.0	22.1	11.2	3.6	0.7	0.7	0.3	0.7	10.2
秋田県	N=137 100.0	30.7	25.5	21.9	8.0	2.2	1.5	0.7	0.7	—	8.8
福井県	N=108 100.0	24.1	25.9	28.7	8.3	1.9	—	—	—	—	11.1
福岡県	N=347 100.0	29.7	26.8	19.0	6.1	1.4	0.3	—	—	0.9	15.9
鹿児島県	N=161 100.0	28.0	30.4	19.3	8.7	2.5	1.2	—	—	—	9.9
沖縄県	N=128 100.0	22.7	39.8	12.5	10.2	1.6	1.6	0.8	0.8	0.8	9.4

第33表(5) 現在の医院構成 5. その他* (％)

歯科医院その他数	計	1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人	7. 7人以上	0. NA (0人を含む)
第1次調査合計	N=1505 100.0	24.9	7.8	1.9	0.9	0.5	0.4	0.1	63.5
東京都	N=543 100.0	25.2	5.2	1.1	0.4	0.6	0.6	—	67.0
愛知県	N=325 100.0	25.8	4.9	2.5	1.5	0.9	—	—	64.3
大阪府	N=471 100.0	24.8	13.6	2.3	0.2	0.4	0.4	0.2	58.0
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	21.7	5.4	2.4	3.0	0.6	0.6	—	66.3
第2次調査合計	N=1184 100.0	33.3	5.9	1.0	0.6	0.1	0.1	0.2	58.9
北海道	N=303 100.0	33.0	3.3	1.0	1.0	0.3	—	0.3	61.1
秋田県	N=137 100.0	28.5	13.1	1.5	0.7	—	—	—	56.2
福井県	N=108 100.0	32.4	3.7	1.9	—	—	—	0.9	61.1
福岡県	N=347 100.0	32.9	6.3	0.6	0.6	—	—	—	59.7
鹿児島県	N=161 100.0	37.9	4.3	—	0.6	—	0.6	—	56.5
沖縄県	N=128 100.0	35.2	7.0	2.3	—	—	—	—	55.5

* 「その他」とは、回答者記入によれば、事務長、事務職員、事務、薬剤師、技工助手、パート、アルバイト、学生アルバイト、掃除・洗濯など。なお、その他に妻（経理を行う）、母（経理）と書かれたものもあった。

第34表 「かかりつけ」患者の割合 Q16. 先生の診療所の患者さんのうち、「かかりつけ」（とお考え）の患者さんはほぼ何割ぐらいでしょうか。ほぼ 割ぐらい（%）

	計	1. ～49%	2. 50%～79%	3. 80%～89%	4. 90%以上	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	15.3	38.1	21.7	20.9	4.1
東京都	N=543 100.0	13.6	34.6	24.1	25.0	2.6
愛知県	N=325 100.0	12.6	40.0	21.5	21.2	4.6
大阪府	N=471 100.0	17.0	40.3	20.2	17.6	4.9
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	21.1	39.7	18.1	15.7	5.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	17.1	45.0	23.4	11.3	3.2
北海道	N=303 100.0	15.2	46.5	22.4	12.5	3.3
秋田県	N=137 100.0	18.2	43.1	24.8	9.5	4.4
福井県	N=108 100.0	11.1	40.7	27.8	15.7	4.6
福岡県	N=347 100.0	12.7	45.5	27.1	13.3	1.4
鹿児島県	N=161 100.0	19.9	47.8	21.1	8.1	3.1
沖縄県	N=128 100.0	33.6	42.2	13.3	5.5	5.5

第35表 「保健のみ」患者の割合 Q17. 先生の診療所の患者さんのうち、保険のみの患者さんはほぼ何割ぐらいでしょうか。ほぼ 割ぐらい（%）

保健のみの患者 の割合	計	1. 1%～79%	2. 80%～89%	3. 90%～98%	4. 99%、100%	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	17.8	13.5	47.1	18.8	2.8
東京都	N=543 100.0	27.6	15.8	39.2	13.6	3.7
愛知県	N=325 100.0	12.3	12.3	55.4	19.4	0.6
大阪府	N=471 100.0	13.2	12.5	48.6	22.3	3.4
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	9.6	10.8	52.4	24.7	2.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	6.8	7.8	48.8	35.4	1.2
北海道	N=303 100.0	5.0	8.6	44.9	40.9	0.7
秋田県	N=137 100.0	5.8	5.8	59.1	27.7	1.5
福井県	N=108 100.0	8.3	5.6	59.3	25.0	1.9
福岡県	N=347 100.0	6.9	7.5	48.7	36.3	0.6
鹿児島県	N=161 100.0	6.8	4.3	37.9	49.1	1.9
沖縄県	N=128 100.0	10.9	14.8	52.3	19.5	2.3

第36表(1) 診療件数が1番多いもの

Q18. 先生の診療所の診療件数の多い順に
右のうちから該当するものを、それ
ぞれ番号で入れて下さい。(%)

①1番多いもの	計	1. 保存	2. 補綴	3. 外科	4. その他	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	71.6	22.0	1.1	1.5	3.8
東京都	N=543 100.0	75.7	17.9	0.2	1.8	4.4
愛知県	N=325 100.0	74.2	21.8	—	0.9	3.1
大阪府	N=491 100.0	69.9	24.4	0.4	1.7	3.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	58.4	28.9	8.4	0.6	3.6
第2次調査合計	N=1184 100.0	69.5	25.8	0.6	1.5	2.6
北海道	N=303 100.0	64.7	27.7	1.3	2.0	4.3
秋田県	N=137 100.0	74.5	23.4	—	0.7	1.5
福井県	N=108 100.0	64.8	25.9	1.9	1.9	5.6
福岡県	N=347 100.0	66.6	29.4	—	2.0	2.0
鹿児島県	N=161 100.0	76.4	21.1	0.6	1.2	0.6
沖縄県	N=128 100.0	78.9	19.5	—	—	1.6

第36表(2) 診療件数が2番目に多いもの

Q18. 先生の診療所の診療件数の多い順
に右のうちから該当するものを、
それぞれ番号で入れて下さい。(%)

①1番多いもの	計	1. 保存	2. 補綴	3. 外科	4. その他	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	20.6	66.2	6.3	1.3	5.6
東京都	N=543 100.0	16.8	66.7	8.8	1.5	6.3
愛知県	N=325 100.0	20.3	72.3	1.2	0.9	5.2
大阪府	N=491 100.0	23.6	66.0	4.5	1.7	4.2
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	25.3	53.0	13.3	0.6	7.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	24.1	63.7	7.8	0.8	3.6
北海道	N=303 100.0	25.7	62.0	6.3	0.3	5.6
秋田県	N=137 100.0	20.4	62.0	12.4	2.2	2.9
福井県	N=108 100.0	28.7	60.2	5.6	0.9	4.6
福岡県	N=347 100.0	28.2	61.4	6.3	0.9	3.2
鹿児島県	N=161 100.0	18.6	72.7	5.0	1.2	2.5
沖縄県	N=128 100.0	15.6	67.2	15.6	—	1.6

Q18. 先生の診療所の診療件数の多い順
に右のうちから該当するものを、
それぞれ番号で入れて下さい。(%)

第36表(3) 診療件数が3番目に多いもの

①1番多いもの	計	1. 保存	2. 補綴	3. 外科	4. その他	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	2.3	6.6	77.7	4.5	9.0
東京都	N=543 100.0	1.3	9.2	74.6	5.3	9.6
愛知県	N=325 100.0	0.6	1.2	84.6	3.7	9.8
大阪府	N=491 100.0	1.9	5.5	81.3	4.5	6.8
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	9.6	12.0	63.9	3.0	11.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	2.6	6.7	80.6	4.1	6.1
北海道	N=303 100.0	4.0	4.6	78.2	5.6	7.6
秋田県	N=137 100.0	2.2	11.7	80.3	3.6	2.2
福井県	N=108 100.0	0.9	6.5	82.4	2.8	7.4
福岡県	N=347 100.0	1.7	5.8	80.4	4.6	7.5
鹿児島県	N=161 100.0	2.5	4.3	86.3	2.5	4.3
沖縄県	N=128 100.0	3.9	11.7	78.1	2.3	3.9

Q19. 先生は新しい専門知識の受け入れを主として、どのようにやって
おられますか。(%)

第37表 新しい専門知識の受け入れ先

	計	1. 歯科医師仲間から。	2. 歯科医師会の指導。	3. 学術研修会。	4. 専門学術図書。	5. その他	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	16.1	13.6	45.3	21.1	2.7	1.3
東京都	N=543 100.0	16.9	14.0	43.1	21.5	2.8	1.7
愛知県	N=325 100.0	12.6	15.7	52.9	16.0	1.8	0.9
大阪府	N=471 100.0	15.9	11.9	44.4	23.8	2.8	1.3
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	20.5	12.7	40.4	21.7	3.6	1.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	13.9	8.8	53.1	21.9	2.2	0.2
北海道	N=303 100.0	15.5	8.3	52.8	20.8	2.6	—
秋田県	N=137 100.0	16.8	6.6	41.6	32.1	2.9	—
福井県	N=108 100.0	8.3	14.8	55.6	19.4	0.9	0.9
福岡県	N=347 100.0	12.4	9.5	56.2	19.0	2.6	0.3
鹿児島県	N=161 100.0	16.8	6.2	59.0	17.4	0.6	—
沖縄県	N=128 100.0	11.7	8.6	48.4	28.9	2.3	—

第38表 診療所の1日当り患者数の
多少について

Q20. 先生の診療所の1日当りの患者さんの数は、先生からみて適正なところだと思いますか、あるいは多すぎるでしょうか、それとももっと多くてもよいとお考えでしょうか。(%)

	計	1. 多すぎる。	2. 適正である。	3. もっと多くてもよい。	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	19.7	54.2	24.6	1.5
東京都	N=543 100.0	22.7	57.5	18.8	1.1
愛知県	N=325 100.0	19.7	51.7	27.4	1.2
大阪府	N=471 100.0	19.5	50.1	28.0	2.3
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	10.8	59.6	28.3	1.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	20.7	50.0	28.5	0.8
北海道	N=303 100.0	22.1	49.8	28.1	—
秋田県	N=137 100.0	30.7	46.7	20.4	2.2
福井県	N=108 100.0	27.8	51.9	18.5	1.9
福岡県	N=347 100.0	16.7	51.0	31.4	0.9
鹿児島県	N=161 100.0	18.0	50.3	31.1	0.6
沖縄県	N=128 100.0	14.8	49.2	35.9	—

第39表 診療所の経営状態

Q21. 先生の診療所の経営状態は、5年前とくらべてどうでしょうか。(%)

	計	1. 5年前とくらべてよくなった。	1. 5年前にくらべてかわらない。	1. 5年前にくらべてわるくなった。	4. 最近開業で比較できない。	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	9.0	17.3	62.5	9.6	1.6
東京都	N=543 100.0	9.4	18.6	64.1	5.9	2.0
愛知県	N=325 100.0	10.8	16.6	60.6	11.7	0.3
大阪府	N=471 100.0	8.7	14.9	62.8	11.7	1.9
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	4.8	21.7	60.2	11.4	1.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	7.4	16.3	58.2	16.6	1.5
北海道	N=303 100.0	6.6	16.5	57.4	18.2	1.3
秋田県	N=137 100.0	2.9	10.2	65.0	19.7	2.2
福井県	N=108 100.0	13.0	19.4	56.5	8.3	2.8
福岡県	N=347 100.0	7.5	16.4	64.3	10.7	1.2
鹿児島県	N=161 100.0	5.6	17.4	54.7	21.1	1.2
沖縄県	N=128 100.0	11.7	18.0	42.2	26.6	1.6

第40表 経営が悪化した理由 Q21SQ1. 悪くなった理由はどういう理由でしょうか主な理由を2つ○印して下さい。 (%)

	全 体 計	Q21 回答肢3「5年前にくらべて悪くなった」回答者						Q21の 1, 2, 4 回答者 及びNA
		Q21の3回答者 「悪くなった」 小 計	患者数が減少 したため	1人当たりの 治療費が減少 してきたため	借入金（設備 更新、新機器 購入など）の 増大による ローン返済の ため	歯科医業経費 の割合が大き くなったため	その他	
第1次調査合計	N=1505 100.0	62.5 (100.0)	(59.9)	(34.1)	(5.8)	(47.7)	(11.2)	37.5
東京都	N=543 100.0	64.1 (100.0)	(52.6)	(39.4)	(8.0)	(48.0)	(11.5)	36.1
愛知県	N=325 100.0	60.6 (100.0)	(64.5)	(28.4)	(7.1)	(50.8)	(13.2)	39.4
大阪府	N=471 100.0	62.8 (100.0)	(66.2)	(34.1)	(3.4)	(52.7)	(10.5)	37.2
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	60.2 (100.0)	(58.0)	(27.0)	(3.0)	(17.0)	(8.0)	39.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	58.2 (100.0)	(64.3)	(25.8)	(11.0)	(52.5)	(11.5)	41.8
北海道	N=303 100.0	57.4 (100.0)	(68.4)	(25.3)	(12.1)	(59.2)	(9.2)	42.6
秋田県	N=137 100.0	65.0 (100.0)	(64.0)	(28.1)	(10.1)	(39.3)	(16.9)	35.0
福井県	N=108 100.0	56.5 (100.0)	(60.7)	(21.3)	(8.2)	(60.7)	(11.5)	43.5
福岡県	N=347 100.0	64.3 (100.0)	(60.1)	(26.5)	(12.6)	(57.8)	(9.4)	35.7
鹿児島県	N=161 100.0	54.7 (100.0)	(67.0)	(25.0)	(9.1)	(47.7)	(13.6)	45.3
沖縄県	N=128 100.0	42.2 (100.0)	(68.5)	(27.8)	(9.3)	(18.5)	(14.8)	57.8

重複回答のため()内%合計は100.0をこえる。

第41表 経営悪化の社会的背景 Q21SQ2. それではその社会的な背景からいって何が原因だとお考えですか。(重複回答) (%)

Q21, 3回答 「5年前にくらべ て悪くなった」 の社会的 背景につ いて	計 N = 「5 年 前 と 比べて悪くなっ た」	1. 最近 は住民数 が減少し たため。	2. ある 程度の広 さの駐車 場が必要 になった ため。	3. 物価 高 の た め、人件 費高騰の ため。	4. 一部 の経済不 況 の た め。	5. 税負 担増のた め。	6. 保険 制度改訂 のため。	7. 近接 地に診療 所がで きたため。	8. 設備 更新の必 要を感じ て。	9. 歯の 治療よ りも、生 活やレジャ ー優先の 風潮があ るため。	10. その他
第1次調査合計	N=941 (100.0)	(13.7)	(2.4)	(37.0)	(4.4)	(14.0)	(42.6)	(49.0)	(4.5)	(26.8)	(6.4)
東京都	N=348 (100.0)	(13.2)	(1.7)	(37.6)	(4.6)	(15.5)	(47.1)	(45.4)	(6.6)	(27.9)	(6.9)
愛知県	N=197 (100.0)	(8.1)	(5.1)	(43.1)	(2.5)	(12.7)	(33.5)	(54.3)	(2.5)	(27.4)	(8.1)
大阪府	N=296 (100.0)	(12.5)	(2.0)	(35.1)	(4.1)	(16.6)	(46.3)	(52.0)	(4.4)	(27.7)	(7.1)
兵庫県尼崎市	N=100 (100.0)	(27.0)	(1.0)	(28.0)	(8.0)	(4.0)	(34.0)	(42.0)	(1.0)	(19.0)	(—)
第2次調査合計	N=689 (100.0)	(17.6)	(6.1)	(43.8)	(5.7)	(15.5)	(37.0)	(54.0)	(4.6)	(17.6)	(5.2)
北海道	N=174 (100.0)	(19.5)	(5.7)	(44.3)	(8.0)	(17.8)	(35.1)	(53.4)	(4.0)	(18.4)	(6.3)
秋田県	N=89 (100.0)	(24.7)	(4.5)	(38.2)	(5.6)	(14.6)	(39.3)	(48.3)	(1.1)	(19.1)	(3.4)
福井県	N=61 (100.0)	(9.8)	(9.8)	(45.9)	(—)	(11.5)	(29.5)	(41.0)	(1.6)	(13.1)	(11.5)
福岡県	N=223 (100.0)	(16.6)	(6.3)	(48.4)	(6.7)	(21.1)	(40.4)	(55.6)	(6.3)	(18.4)	(3.1)
鹿児島県	N=88 (100.0)	(21.6)	(4.5)	(47.7)	(3.4)	(9.1)	(36.4)	(61.4)	(4.5)	(13.6)	(5.7)
沖縄県	N=54 (100.0)	(5.6)	(7.4)	(24.1)	(3.7)	(1.9)	(35.2)	(61.1)	(3.7)	(20.4)	(5.6)

重複回答のため()内%合計は100.0をこえる。

第42表(1) 歯科医業の経費割合第1位

Q22. 先生のところの歯科医業の経費割合はどれが一番大きいでしょうか。
大きいものから①②③と順位をつけてください。(%)

歯科医業経費割合 の大きいもの 第1位	計	1) 賃貸 料 (診療所 家賃、機 械リース 料など)	2) 給与 (手数料 を含む)	3) 外注 技工料	4) 借入 金の金利	5) 歯科 材料、薬 剤等	6) 歯科 業務関連 の機材・ 機器	7) 研究 用費用一 学会出席 旅費、各 種会費、 雑誌購読 ・図書購 入費など	8) その 他	0) NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	6.0	50.4	28.2	4.9	2.1	0.7	0.7	0.4	6.8
東京都	N=543 100.0	9.2	40.5	33.0	5.5	2.4	0.7	0.9	0.6	7.2
愛知県	N=325 100.0	2.8	60.6	24.6	4.6	2.5	0.9	—	0.6	3.4
大阪府	N=471 100.0	4.0	55.6	24.6	4.2	1.5	0.4	0.8	0.2	8.5
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	7.2	47.6	29.5	4.8	1.8	0.6	0.6	—	7.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	4.1	63.4	17.2	9.5	2.4	0.6	0.1	0.1	2.7
北海道	N=303 100.0	5.3	54.8	24.8	8.9	2.0	0.3	0.3	—	3.6
秋田県	N=137 100.0	2.9	68.6	14.6	8.0	2.2	0.7	—	—	2.9
福井県	N=108 100.0	1.9	62.0	23.1	3.7	5.6	—	—	—	3.7
福岡県	N=347 100.0	3.7	63.7	15.6	11.8	2.3	0.6	—	—	2.3
鹿児島県	N=161 100.0	3.7	67.7	11.8	13.7	0.6	1.2	—	0.6	0.6
沖縄県	N=128 100.0	5.5	73.4	8.6	5.5	3.1	0.8	—	—	3.1

第42表(2) 歯科医業の経費割合第2位

Q22. 先生のところの歯科医業の経費割合はどれが一番大きいでしょうか。
大きいものから①②③と順位をつけてください。(%)

歯科医業経費割合 の大きいもの 第2位	計	1) 賃貸 料 (診療所 家賃、機 械リース 料など)	2) 給与 (手数料 を含む)	3) 外注 技工料	4) 借入 金の金利	5) 歯科 材料、薬 剤等	6) 歯科 業務関連 の機材・ 機器	7) 研究 用費用一 学会出席 旅費、各 種会費、 雑誌購読 ・図書購 入費など	8) その 他	0) NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	9.4	19.3	27.7	7.2	13.2	2.8	1.0	0.3	19.1
東京都	N=543 100.0	11.2	21.5	24.9	6.4	14.0	3.9	1.3	0.6	16.2
愛知県	N=325 100.0	5.8	17.2	35.1	7.7	13.2	2.5	1.5	—	16.9
大阪府	N=471 100.0	11.0	17.2	27.8	8.3	13.4	2.3	0.4	0.2	19.3
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	6.0	21.7	22.3	6.0	10.2	1.2	0.6	—	31.9
第2次調査合計	N=1184 100.0	7.3	16.9	24.2	10.7	22.3	3.0	0.5	0.3	14.8
北海道	N=303 100.0	7.6	19.1	29.0	8.6	19.1	2.0	0.3	—	14.2
秋田県	N=137 100.0	2.9	11.7	21.2	10.2	24.1	5.1	0.7	1.5	22.6
福井県	N=108 100.0	3.7	15.7	25.9	6.5	24.1	4.6	2.8	—	16.7
福岡県	N=347 100.0	5.5	18.2	27.1	11.2	20.5	4.0	—	0.3	13.3
鹿児島県	N=161 100.0	6.8	18.0	18.6	13.0	31.1	0.6	0.6	—	11.2
沖縄県	N=128 100.0	20.3	13.3	14.1	15.6	20.3	1.6	—	—	14.8

第42表(3) 歯科医業の経費割合第3位

Q22. 先生のところの歯科医業の経費割合はどれが一番大きいでしょうか。
大きいものから①②③と順位をつけてください。(%)

歯科医業経費割合 の大きいもの 第3位		1) 賃貸 料 (診療所 家賃、機 械リース 料など)	2) 給与 (手数料 を含む)	3) 外注 技工料	4) 借入 金の金利	5) 歯科 材料、薬 剤等	6) 歯科 業務関連 の機材・ 機器	7) 研究 費用一学 会出席各 種会費、 雑誌購読 ・図書購 入費など	8) その 他	0) NA
計										
第1次調査合計	N=1505 100.0	12.9	6.6	13.1	8.2	21.7	8.5	6.0	0.4	22.7
東京都	N=543 100.0	12.7	8.5	14.7	7.0	18.4	9.0	9.0	0.7	19.5
愛知県	N=325 100.0	10.2	4.9	9.8	10.2	32.0	7.7	4.9	—	20.3
大阪府	N=471 100.0	14.9	5.9	13.4	7.9	20.0	9.6	4.5	0.4	23.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	13.3	4.8	13.3	9.0	16.9	5.4	2.4	—	34.9
第2次調査合計	N=1184 100.0	11.0	7.3	14.9	10.6	25.1	9.8	3.5	0.3	17.6
北海道	N=303 100.0	11.2	11.6	13.5	8.6	24.8	10.2	2.3	0.3	17.5
秋田県	N=137 100.0	4.4	6.6	16.1	8.0	24.1	11.7	4.4	0.7	24.1
福井県	N=108 100.0	6.5	2.8	13.9	4.6	32.4	10.2	8.3	0.9	20.4
福岡県	N=347 100.0	11.8	6.3	13.0	13.3	26.5	10.4	2.9	—	15.9
鹿児島県	N=161 100.0	9.9	6.8	15.5	15.5	26.1	7.5	4.3	—	14.3
沖縄県	N=128 100.0	20.3	5.5	21.9	10.2	15.6	7.8	1.6	—	17.2

第43表(1) 現在診療制度・運用〔1)診療時間延長 2)診療日変更〕

Q23. 現在の診療制度、運用について該当するものに○印
をつけて下さい。(%)

	1) 診療時間の延長について					2) 休診日の変更について				
	計	1. 実施して いる	2. 今のところ 考えて いない	3. 将来考 えている	0. NA	計	1. 実施して いる	2. 今のところ 考えて いない	3. 将来考 えている	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	9.4	83.7	4.5	2.3	N=1505 100.0	5.0	79.8	12.5	2.7
東京都	N=543 100.0	9.6	83.3	3.9	1.5	N=543 100.0	5.5	80.8	11.0	2.6
愛知県	N=325 100.0	9.8	84.6	4.0	0.9	N=325 100.0	3.7	84.9	9.2	2.2
大阪府	N=471 100.0	9.8	82.2	5.7	2.3	N=471 100.0	4.2	75.6	17.0	3.2
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	7.8	84.9	4.2	3.0	N=166 100.0	7.8	78.3	10.8	3.0
第2次調査合計	N=1184 100.0	10.0	82.8	6.0	1.3	N=1184 100.0	3.7	80.5	13.7	2.1
北海道	N=303 100.0	15.8	79.2	4.6	0.3	N=303 100.0	4.6	88.8	10.9	2.6
秋田県	N=137 100.0	11.7	81.0	5.8	1.5	N=137 100.0	3.6	77.4	17.5	1.5
福井県	N=108 100.0	2.8	89.8	4.6	2.8	N=108 100.0	3.7	80.6	11.1	4.6
福岡県	N=347 100.0	7.5	85.3	5.2	2.0	N=347 100.0	2.9	82.1	13.5	1.4
鹿児島県	N=161 100.0	8.7	84.5	6.2	0.6	N=161 100.0	2.5	78.3	17.4	1.9
沖縄県	N=128 100.0	8.6	78.1	12.5	0.8	N=128 100.0	5.5	78.9	14.1	1.6

第43表(2) 現在診療制度・運用〔3〕予約診療の有無 4)リコール制の実施〕 Q23. 現在の診療制度、運用について該当するものに○印をつけて下さい。(%)

	3) 予約診療の有無について					4) リコール制の実施について					
	計	1. 実施して いる	2. 現在、実 施してい ない	3. 将来、実 施を考え ている	0. NA	計	1. 実施して いる	2. 今のとこ ろ考えて いない	3. 将来、検 討を考え ている	4. 実施する 考えはな い	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	79.3	17.9	1.2	1.5	N=1505 100.0	27.3	33.6	27.2	8.6	3.3
東京都	N=543 100.0	79.9	16.9	1.7	1.5	N=543 100.0	25.2	34.4	25.4	10.3	4.6
愛知県	N=325 100.0	87.7	11.1	0.6	0.6	N=325 100.0	34.8	30.2	24.6	8.0	2.5
大阪府	N=471 100.0	72.8	23.8	1.1	2.3	N=471 100.0	27.0	31.0	30.8	8.3	3.0
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	79.5	17.5	1.2	1.8	N=166 100.0	20.5	44.6	27.7	5.4	1.8
第2次調査合計	N=1184 100.0	72.2	23.6	3.3	0.9	N=1184 100.0	26.7	32.7	33.4	5.2	2.1
北海道	N=303 100.0	80.9	16.5	2.0	0.7	N=303 100.0	28.7	33.9	32.3	4.6	1.0
秋田県	N=137 100.0	70.1	25.5	3.6	0.7	N=137 100.0	21.2	27.0	41.6	5.8	4.4
福井県	N=108 100.0	77.8	18.5	2.8	0.9	N=108 100.0	25.9	39.8	24.1	6.5	3.7
福岡県	N=347 100.0	55.6	38.0	5.2	1.2	N=347 100.0	27.1	36.3	28.8	5.5	2.3
鹿児島県	N=161 100.0	78.9	16.8	3.1	1.2	N=161 100.0	25.5	31.7	36.6	5.0	1.2
沖縄県	N=128 100.0	85.9	11.7	1.6	0.8	N=128 100.0	28.9	22.7	43.0	3.9	1.6

第43表(3) 現在診療制度・運用〔5〕スタッフの増員 6)スタッフの減員〕 Q23. 現在の診療制度、運用について該当するものに○印をつけて下さい。(%)

	5) スタッフの増員について					6) スタッフの減員について				
	計	1. 実施して いる	2. 今のところ 考えていない	3. 将来考 えている	0. N A	計	1. 実施して いる	2. 今のところ 考えていない	3. 将来考 えている	0. N A
第1次調査合計	N=1505 100.0	10.0	70.3	16.9	2.7	N=1505 100.0	2.7	85.2	5.4	6.6
東京都	N=543 100.0	7.6	73.3	15.3	3.9	N=543 100.0	2.4	86.7	3.7	7.2
愛知県	N=325 100.0	13.5	66.5	18.8	1.2	N=325 100.0	3.4	84.0	7.1	5.5
大阪府	N=471 100.0	10.2	69.2	17.8	2.8	N=471 100.0	3.0	84.1	6.6	6.4
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	10.8	71.1	16.3	1.8	N=166 100.0	1.8	86.1	4.8	7.2
第2次調査合計	N=1184 100.0	13.1	68.0	17.7	1.3	N=1184 100.0	3.0	85.7	7.0	4.3
北海道	N=303 100.0	14.5	69.3	15.5	0.7	N=303 100.0	5.3	82.8	6.3	5.6
秋田県	N=137 100.0	10.2	72.3	16.1	1.5	N=137 100.0	2.2	85.4	11.7	0.7
福井県	N=108 100.0	13.0	71.3	13.9	1.9	N=108 100.0	2.8	83.3	7.4	6.5
福岡県	N=347 100.0	11.2	68.9	18.2	1.7	N=347 100.0	2.6	86.7	6.1	4.6
鹿児島県	N=161 100.0	16.1	62.7	20.5	0.6	N=161 100.0	1.2	87.6	8.1	3.1
沖縄県	N=128 100.0	14.1	61.7	22.7	1.6	N=128 100.0	1.6	89.8	4.7	3.9

第43表(4) 現在診療制度・運用

〔7〕一人法人化の設立 8)自費増加に向けての診療方針の変更〕

Q23. 現在の診療制度、運用について該当するものに○印をつけて下さい。(%)

	7) 一人法人化の設立について					8) 自費増加に向けての診療方針の変更について				
	計	1. 実施している	2. 今のところ考えていない	3. 将来考えている	0. N A	計	1. 実施している	2. 今のところ考えていない	3. 将来考えている	0. N A
第1次調査合計	N=1505 100.0	3.5	75.4	18.1	3.0	N=1505 100.0	14.0	63.1	20.7	2.3
東京都	N=543 100.0	3.3	77.2	16.4	3.1	N=543 100.0	16.6	59.7	21.2	2.6
愛知県	N=325 100.0	4.0	77.8	16.0	2.2	N=325 100.0	15.4	63.4	20.0	1.2
大阪府	N=471 100.0	4.0	70.9	21.4	3.6	N=471 100.0	13.0	63.5	21.0	2.5
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	1.8	77.7	18.1	2.4	N=166 100.0	6.0	72.3	19.3	2.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	8.4	69.7	19.6	2.3	N=1184 100.0	12.8	58.2	27.5	1.4
北海道	N=303 100.0	13.9	63.7	20.1	2.3	N=303 100.0	14.2	61.1	23.8	1.0
秋田県	N=137 100.0	2.2	79.6	16.8	1.5	N=137 100.0	12.4	54.7	32.1	0.7
福井県	N=108 100.0	4.6	73.1	17.6	4.6	N=108 100.0	13.0	64.8	20.4	1.9
福岡県	N=347 100.0	6.9	71.5	19.6	2.0	N=347 100.0	12.1	58.5	27.1	2.3
鹿児島県	N=161 100.0	11.8	62.7	23.0	2.5	N=161 100.0	11.8	59.6	27.3	1.2
沖縄県	N=128 100.0	5.5	74.2	18.8	1.6	N=128 100.0	13.3	46.9	39.1	0.8

第43表(5) 現在の診療制度・運用

〔9〕保険診療増加に向けての診療方針の変更について〕

Q23. 現在の診療制度、運用について該当するものに○印をつけて下さい。(%)

	9) 保険診療増加に向けての診療方針の変更について				
	計	1. 実施している	2. 今のところ考えていない	3. 将来、考えている	0. N A
第1次調査合計	N=1505 100.0	11.5	71.2	14.7	2.7
東京都	N=543 100.0	7.0	73.8	16.8	2.4
愛知県	N=325 100.0	19.1	68.6	10.5	1.8
大阪府	N=471 100.0	13.2	67.5	15.7	3.6
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	6.6	77.7	13.3	2.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	16.3	64.7	16.9	2.1
北海道	N=303 100.0	17.5	66.7	14.2	1.7
秋田県	N=137 100.0	17.5	65.0	16.1	1.5
福井県	N=108 100.0	13.0	75.9	10.2	0.9
福岡県	N=347 100.0	15.9	63.4	17.6	3.2
鹿児島県	N=161 100.0	15.5	60.9	21.7	1.9
沖縄県	N=128 100.0	17.2	58.6	21.9	2.3

第44表 開業歯科の今後の見通し

Q24. 開業歯科の今後の見通しについて、先生はどのように考えておられますか。該当するところに○印をつけて下さい。(%)

	計	1. 見通しは明るい	2. どちらともいえない	3. 見通しは暗い	0. NA
第1次調査合計	N=1505 100.0	3.5	25.6	69.6	1.2
東京都	N=543 100.0	4.1	27.3	67.4	1.3
愛知県	N=325 100.0	3.1	29.2	66.8	0.9
大阪府	N=471 100.0	4.2	18.3	76.6	0.8
兵庫県尼崎市	N=166 100.0	0.6	34.3	62.7	2.4
第2次調査合計	N=1184 100.0	2.7	25.3	71.1	0.9
北海道	N=303 100.0	1.7	24.8	72.6	1.0
秋田県	N=137 100.0	2.2	19.0	78.8	—
福井県	N=108 100.0	6.5	30.6	62.0	0.9
福岡県	N=347 100.0	2.9	22.8	72.9	1.4
鹿児島県	N=161 100.0	1.9	21.7	75.8	0.6
沖縄県	N=128 100.0	3.1	39.8	56.3	0.8

付記：文部省科学研究費助成金により、今回、遠藤、牧、西山の3人は、「地域医療の現状と課題—社会的実証研究—」と題する調査研究において、「地域歯科医療に関する歯科医師意見アンケート調査を実施しているが、我々3人は、この調査研究に係わるこれまでの先行調査研究について、次に記すような調査研究分析を行ってきたので、以下にそれを列挙する。

- 1. 歯科医師の地域歯科医療についての意識と行動についての調査研究
 - ①牧 正英・西山美瑛子・遠藤惣一 1979「歯科医師の行動様式—実証研究のためのパイロットスタディー」『関西学院大学社会学部紀要』39号 29～50頁。
 - ②牧 正英・西山美瑛子・遠藤惣一 1980「データ分析による歯科医師研究の一試論」『関西学院大学社会学部紀要』40号 305～351頁。
 - ③牧 正英・西山美瑛子・遠藤惣一 1981「某市歯科医師の意識調査結果概要」『日本歯科医師会雑誌』Vol. 34 No. 4, 10～22頁。

- ④西山美瑛子 1981「歯科医療の問題状況と対策」『デンタルエグゼクティブ』2-1, 98～104頁。
- 2. 歯科患者の意識・実態調査に関する調査研究
 - ①遠藤惣一・西山美瑛子・牧 正英 1982「歯科患者に関する実証研究(I)—患者通院圏マッピング分析および患者実態・意識調査全体集計結果—」『関西学院大学社会学部紀要』44号 111～225頁。
 - ②遠藤惣一・西山美瑛子・牧 正英 1982「歯科患者に関する実証研究(II)—患者実態・意識調査クロス集計分析—」『関西学院大学社会学部紀要』44号 163～251頁。
 - ③遠藤惣一・西山美瑛子・牧 正英 1983「歯科患者に関する実証研究(III)—多変量解析および自由意見のKJ法的分析—」『関西学院大学社会学部紀要』46号 177～270頁。
 - ④遠藤惣一・西山美瑛子・牧 正英 1984「歯科患者の実態・意見調査結果からみた〈通院パターン〉に関する多次元解析」『日本歯科医師会雑誌』Vol. 37 No. 1, 13～26頁。

- ⑤西山美瑛子・遠藤惣一・牧 正英 1986 「歯科
医療に関する実証的考察：KJ 法的分析」『関
西学院大学社会学部紀要』52号 159～212頁。